

授業科目	英語コミュニケーション（英会話初級）				
担当者	近藤 未奈			国試出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

この授業では、語彙、リスニング、会話、文法の各技能の演習をバランス良く行い、医療実務に役立つ総合的な英語力の養成をはかります。基礎的な英語文法の確認をしつつ医療関連の語彙を増やし、ロールプレイ方式での会話練習を行うことにより、実際の現場で英語を使うことのできる能力の習得を目指します。

■ 到達目標

医療専門分野に関係した基礎的な英語表現に慣れ、現場で実際に英語が必要とされた時に適切な対応ができる英語運用能力を身につける。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：? 受講にあたっての諸注意
イントロダクション：? 医療現場で英語を使えることの意義を知る／医療の英語に触れる
- 第2回 Getting to Know the Patients? (1) ? 患者のおおまかな症状を知る
- 第3回 Getting to Know the Patients (2) 患者の外科症状を知る
- 第4回 Getting to Know the Patients (3) 皮膚の症状を知る
- 第5回 Getting to Know the Patients (4) 患者の生活習慣を知る
- 第6回 Examination (1) 検査に際して指示をする
- 第7回 Examination (2) 同意を得る
- 第8回 Instructing Medication 服用法を説明する
- 第9回 Treating the Patients (1) 回復中の患者に対応する
- 第10回 Treating the Patients (2) 患者の心情を理解する (1)
- 第11回 Treating the Patients (3) 次回の予約・電話対応
- 第12回 Operation 手術を受ける患者に対応する
- 第13回 In the Hospital 病院内を案内する
- 第14回 Emergencies 患者の心情を理解する (2)
- 第15回 Living a Healthy Life 健康的な生活を指導する

■ 評価方法

受講態度（予習・授業への取り組みなど:40%）、小テスト（20%）、筆記試験（40%）を総合的に評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回の授業で学んだ新しい内容はすぐに復習し、覚えるべき内容を確実に定着させていくこと。語句についての学習事項は特に、意識して覚えるようにすることで後の授業内容にも役立ちます。教科書の予習指示があった場合、指定の箇所の英語を読み、英和辞書などを使いわからない語句の意味を調べ、内容を日本語で理解・説明できるようにしておく。
小テスト対策の勉強は教科書の内容を理解するための予習も兼ねているので、範囲の語句の意味を覚えておくこと。

■ 教 科 書

書 名：実践看護英語 - 専門用語の習得と英会話能力の養成 ？-
著者名：竹林修一
出版社：英宝社

■ 参考図書

書 名：はじめて学ぶ医療英語

著者名：大垣雅昭, 大垣佳代子

出版社：メディカル・サイエンス・インターナショナル

■ 留意事項

小テストは指定の教科書より出題します。テストについての詳細は初回授業で説明します。

授業中に英和辞典（電子辞書可／高校英語に対応できるレベルのもの）が必要となるので、毎回必ず持参すること。

配布される資料も教科書の一部として扱い、過去に配布されたものも毎回持ってきてください。

成績評価基準の詳細や、その他諸注意については初回授業で伝えるので、必ず初回から出席してください。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ① / OT:CP ①②

授業科目	国語表現学（レポート作成法）				
担当者	岡崎昌宏			国試出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

レポートの作成など、大学では、自身の考えを練り、それを正確に、過不足なく表現する能力が一層求められる。そしてそれは、社会の様々な場面でも必要となる能力である。この授業では、正確な表現のために必要な知識や技術を習得するとともに、レポートの作成方法を実践的に学ぶ。また、優れた文章を読み、表現技術への意識を高める。

■ 到達目標

自身の考えを整理し、それをレポートなどの形で正確に表現できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 概説―正確な表現の重要性
- 第2回 文章を書くための知識（1）―表記など
- 第3回 文章を書くための知識（2）―原稿用紙の使い方、段落など
- 第4回 正確な文章のために（1）―説明不足の文をなくす
- 第5回 正確な文章のために（2）―過度な説明、重複説明をなくす
- 第6回 正確な文章のために（3）―長くなってしまった文を、短くする
- 第7回 正確な文章のために（4）―句読点への意識を高める、語彙力を高める
- 第8回 論文・レポートの文章を読み、その表現の特徴を学ぶ
- 第9回 レポートを書く（1）―様々な事実を集める
- 第10回 レポートを書く（2）―意見の方向を定める
- 第11回 レポートを書く（3）―自説の明確な根拠を考える
- 第12回 レポートを書く（4）―基本的な展開方法を知る
- 第13回 レポートを書く（5）―レポートを書き、推敲する
- 第14回 様々な文章に接し、表現への意識を高める
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

平常点（授業中の課題への取り組みも含む）100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

前回までの内容をよく復習したうえで授業にのぞむこと。

■ 教 科 書

授業中に配布するプリントを用いる。

■ 参考図書

必要に応じて授業中に紹介する。

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ① / OT:CP ①②

授業科目	人間関係学				
担当者	飯田 英晴			国試出題基準	Ⅱ -4-B
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

治療者に求められる対人技法の基礎から応用まで学び、より良いコミュニケーションについて自ら考え、応用できる能力の基礎を修得する。

■ 到達目標

患者さんとの関わりに求められる基本的な対人技法を用い対話することができることを目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 コミュニケーションの基本概念と構造 -1
- 第2回 コミュニケーションの基本概念と構造 -2
- 第3回 医療におけるコミュニケーション -1
- 第4回 医療におけるコミュニケーション -2
- 第5回 医療におけるコミュニケーション -3
- 第6回 社会的相互作用
- 第7回 社会的役割と役割行動
- 第8回 援助的コミュニケーション
- 第9回 対人技法の基本 -1
- 第10回 対人技法の基本 -2
- 第11回 対人技法の基本 -3
- 第12回 闘病生活における患者・治療者との人間関係
- 第13回 人間の理解 1（男と女のなぞ）
- 第14回 人間の理解 2（人間らしいとは）
- 第15回 人間の理解 3（なぜ騙される、騙しのテク、人の不思議）

■ 評価方法

書き込み式テキストの十分な活用、討論などの評価20%、授業時間外課題の提出20%、総括的評価60%で評価する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

5回、授業時間外課題を提出させる。

■ 教科書

不要

■ 参考図書

不要

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ① /OT:CP ①⑥

授業科目	コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅰ				
担当者	山口 忍			国試出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

コミュニケーションの意味を考え、傾聴とは何かを知る。
コミュニケーションの基本的スキルを演習により身につける

■ 到達目標

- 1) 初対面の人に、不快感や威圧感を与えず近づいていけるようになる
- 2) 医療者としての発言の意味や影響力を考える

■ 授業計画

- 第1回 挨拶の意味と目的
 第2回 「聴く」とはどういうことか
 第3回 コミュニケーションをとる際のポジショニング・接近の仕方
 第4回 やまびこのレッスン（声を相手に届ける）
 第5回 声を出す・話すということ
 第6回 医療関係者に言われて嫌だった言葉
 第7回 障害を持った子を産んだ母親のエッセイから学ぶ
 第8回 人間の本能とリハビリテーション

■ 評価方法

小テスト（30％）・最後の講義内に行う言語・聴覚・聴覚・平衡に関するテスト（70％）授業中の演習を積極的にを行うものには加点する

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義中、コミュニケーションに必要な発声機能・聴覚・平衡について学ぶので復習し、知識の習得に励むこと

■ 教科書

不要

■ 参考図書

■ 留意事項

セラピストとしてのコミュニケーションには、演技力が必要。照れたり躊躇することなく、積極的に取り組むこと。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ② /OT:CP ⑥

授業科目	心理学				
担 当 者	鈴木暁子			国試出題基準	
学 科 名	理学療法学専攻（選択）	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻（必修）	開講時期	前期	選択・必修	選択 / 必修

■ 内 容

心理学は人間の心や行動を客観的に理解するための学問である。人間の心というブラックボックスを科学的に解き明かしていく心理学の研究方法は、私たちの身の回りの事象を客観的に理解する事にも役立つ。この広く深い学問の魅力をできる限り伝えたい。

■ 到達目標

人を援助する職業に必要な人間理解の糸口となる心理学の基礎知識を学習するとともに、国家試験科目である臨床心理学の基礎となる知識も身につける事を目標とする。

■ 授 業 計 画

- 第1回 心理学の考え方①
- 第2回 心理学の考え方②
- 第3回 ト라우マについて
- 第4回 人の性格①
- 第5回 人の性格②
- 第6回 知能と記憶
- 第7回 学習①
- 第8回 学習②
- 第9回 動機づけと情動①
- 第10回 動機づけと情動②
- 第11回 グループワーク
- 第12回 社会心理学入門①
- 第13回 社会心理学入門②
- 第14回 人と音楽
- 第15回 臨床に活かすコーチング

■ 評価方法

定期試験80% 提出課題10%、授業態度10%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講師の指示に従ってください。

■ 教 科 書

書 名：改訂版 はじめて出会う心理学
 著者名：長谷川寿一 他
 出版社：有斐閣アルマ

■ 参 考 図 書

書 名：心理学概論
 著者名：山内弘継・橋本幸監修
 出版社：ナカニシヤ出版

■ 留 意 事 項

配布資料が多いので整理方法をよく考えて下さい。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ① /OT:CP ①⑥

授業科目	言語学				
担当者	松井 理直			国試出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

医療ミスを引き起こす原因の1つとなる論理判断の錯誤について、言語学の立場から考察を行う。

■ 到達目標

医療現場におけるコミュニケーション・ミスについて理解を深めることを目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 導入：医療ミスを引き起こす原因について
- 第2回 ことばと論理の関係 (1)：連言判断における過誤
- 第3回 ことばと論理の関係 (2)：選言判断における過誤
- 第4回 ことばと論理の関係 (3)：排他的選言をめぐる過誤
- 第5回 ことばと論理の関係 (4)：含意判断における過誤
- 第6回 ことばと論理の関係 (5)：「言い換え」とトートロジー
- 第7回 ことばと確率：医療診断におけるエビデンス
- 第8回 擬陽性問題について
- 第9回 前提確率から見た患者の立場と治療者の立場の違い
- 第10回 仮説と錯誤
- 第11回 第一種のエラーと第二種のエラー
- 第12回 統計学の基礎
- 第13回 有意水準と第一種のエラー
- 第14回 検定力と第二種のエラー
- 第15回 授業のまとめと到達度の確認

■ 評価方法

授業内に毎回行うミニテスト：50% 到達度の確認試験：50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

基本的に授業中に全て理解することを目標とするが、復習に必要な時間として 50 分程度を目安とする。予習に関しては、特に必要としない。なお、授業内容に関しては教科書を用いず、適宜プリントを配布する。

■ 教 科 書

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ① / OT:CP ①⑥

授業科目	医療英語				
担当者	近藤 未奈			国試出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

■ 内 容

この授業では、医療の現場で使われている英語表現や基本的用語、また、専門用語の単語の成り立ちを学びます。英語文献・論文の内容を正確に読むために必要な文法項目を復習し、ある程度の長さの英文や、英語論文の抄録を読む演習も適宜行います。以上を通じて、理学療法士・作業療法士として必要不可欠な国際的な学術論文を理解する土台を養います。

■ 到達目標

医学英語に特有の語彙や表現に慣れ、国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている英語文献の内容を正確に、かつ効率的に理解できる力を身に付ける。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション（受講にあたっての諸注意）／医学英語の基本構造
- 第2回 接尾辞と接頭辞
- 第3回 英語文献を読むための必須文法項目（1）
- 第4回 身体部位の用語
- 第5回 骨の用語
- 第6回 英語文献を読むための必須文法項目（2）
- 第7回 筋肉の用語
- 第8回 神経の用語
- 第9回 英語文献を読むための必須文法項目（3）
- 第10回 英文読解（1）症例を読む その1
- 第11回 英語論文の基礎知識（1） 論文・抄録の構造と読み方
- 第12回 英文読解（2） 論文の抄録（アブストラクト）を読む
- 第13回 英語論文の基礎知識（2） 英語データベースの利用方法
- 第14回 英文読解（3）カルテを読む
- 第15回 英文読解（4）症例を読む その2

■ 評価方法

受講態度（予習や授業中の発表など：30%）、小テストおよびレポート課題（30%）、筆記試験（40%）の結果を総合的に評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回の授業で学んだ新しい内容はすぐに復習し、覚えるべき内容を確実に定着させていくこと。語句についての学習事項は特に、意識して覚えるようにすることで後の授業内容にも役立ちます。英文読解の予習課題が出た場合は辞書や用語集でわからない語句の意味をあらかじめ調べ、適切な和訳を作成してすること。

■ 教科書

書 名：音声と例文でおぼえる基本医療単語1000
 著者名：笹島茂, Chad Godfrey, 小島さつき
 出版社：南雲堂

■ 参考図書

■ 留 意 事 項

小テストは指定の教科書より出題します。テストの詳細は初回授業で説明します。

授業中に英和辞典（電子辞書可／高校英語に対応できるレベルのもの）が必要となるので、毎回必ず持参すること。

毎回配布される資料は教科書として扱い、過去に配布されたものも毎回持ってきてください。

成績評価基準の詳細や、その他諸注意については初回授業で伝えるので、受講の意思のある場合は必ず初回から出席してください。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ① /OT:CP ①②

授業科目	情報処理学				
担当者	永井 文子			国試出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

Microsoft Windows[®]および Microsoft Office[®]アプリケーションを使用し、ファイル・フォルダの管理、文書作成、レポート作成、表計算、グラフ作成、発表資料作成等、学習に必要な PC 操作スキルを学習する。さらに、セキュリティと情報モラルの基礎を学習する。

■ 到達目標

- ・講義支援システム「Moodle」へのアクセス方法とファイル提出方法を理解し利用できる。
- ・PC から利用する Web メールシステムを使用し、学校発行のメールアドレスでの送受信ができる。
- ・PC 上での文章入力、Windows 上のインターネットブラウザ利用の速やかな操作ができる。
- ・文書作成ソフトを使用し、見やすく体裁の整った文書やレポートを作成できる。
- ・表計算ソフトを使用し、数式や書式設定を応用した表やグラフを作成・操作できる。
- ・プレゼンテーション資料作成ソフトを使用し、簡単な発表用スライドを作成できる。
- ・セキュリティと情報モラルの一般的な事例における、適切な対応／対策を理解し各自の ID、メールアドレスおよびそれぞれのパスワードの管理ができる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 授業概要。ブラウザの利用①。学校メール(G-mail)利用開始(アドレス／パスワード設定)。e メール送受信。フォルダ及びファイル作成。講義支援システム Moodle の利用開始 (ID / パスワード設定、ログイン／ログアウト、ファイル取得と提出操作)。
- 第2回 ブラウザの利用②。G-mail における添付ファイルの扱い。タイピング練習方法。情報倫理。Word2013画面確認。日本語入力 (変換操作)
- 第3回 文書作成①
文書作成における書式設定①。表挿入、行列操作、セル操作 (文字入力・配置・セル結合と分割)
- 第4回 文書作成②
文書作成と書式設定②、表の編集。オブジェクトの挿入と加工。
- 第5回 文書作成③
各種オブジェクトの利用と文書構成支援機能。ページ設定。
- 第6回 文書作成課題 (Word 課題)
作成・提出
- 第7回 表計算①
Excel2013画面確認、シートとブック、入力と四則計算、セルの書式設定。
- 第8回 表計算②
集計表における数式 (四則計算、関数①)、絶対参照と相対参照
- 第9回 表計算③
関数②、グラフの作成と編集
- 第10回 表計算課題 (Excel 課題)
作成・提出
データベース機能紹介
- 第11回 プレゼンテーション①
PowerPoint2013概要、スライドの作成①テキスト入力
- 第12回 プレゼンテーション②
オブジェクトの加工 (画像の加工、図形描画とプロパティ、SmartArt 紹介)

第13回 プレゼンテーション③

Office 連携（Excel グラフと表の利用と形式）、プレゼンテーション機能（画面切替・アニメーション・スライドショー） 第14回 総合演習準備

文書（Word）及び集計表とグラフ（Excel）の作成と連携利用、ファイル管理操作

第15回 総合演習課題

作成・提出

■ 評価方法

提出課題（8～10回）40%、総合演習課題60%（但し、受講態度に著しく問題がある場合は減点対象とします）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

PC キーボードのタイピングスキルを各自時間と環境を工夫してトレーニングすることを時間外の学習として必須とする。期初に案内する「オンライン上の練習サイト」上での「目標レベル」に到達するよう継続して練習すること。

講義毎に使用するファイルを保存するため、USB メモリを持参すること。（USB メモリは自身が使用しやすいもので構わない。他科目との共用も可。各自で使用・管理できるものを持参）

■ 教科書

書 名：30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013 （ISBN978-4-407-33253-7）

著者名：杉本くみ子／大澤栄子

出版社：実教出版株式会社

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ① /OT:CP ①

授業科目	医療情報学				
担当者	星 雅丈			国試出題基準	
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
		開講時期	後期	選択・必修	選択

■ 内 容

現代の医療・介護・福祉の分野において ICT の活用は必須事項である。将来、医療・介護の現場で働くセラピストは、あるレベル以上の情報処理技術や、医療情報に関する基礎知識を身に付けておかねば、恥をかくに留まらず、現場に迷惑をかけることになる。本講義では、医療における情報の役割や守るべき倫理・セキュリティ、および、医療情報システムが現場で如何に利用されているかを学修する。そして、今後の調査研究活動に必要なデータ解析に関する情報処理技術や統計の基礎知識について学修する。

■ 到達目標

- ・情報の役割・重要性・危険性を理解し、基本情報処理技術を身に付け、ICT を適切に利用できる。
- ・医療における情報システムの目的と利用方法を理解し、実習病院における診療情報の流れをイメージできる。
- ・調査研究活動において必要とされる最低限のデータ処理・解析技術を身に付け、情報の利活用に資する資料を作成することができる。

■ 授業計画

- 第1回 情報学（Ⅰ） 情報と社会の関わりについて
- 第2回 情報学（Ⅱ） 情報の特質と医療情報について
- 第3回 情報学（Ⅲ） 医療における情報と情報処理技術について
- 第4回 情報学（Ⅳ） 情報通信・ネットワーク技術について
- 第5回 医療情報の倫理（Ⅰ） 関係法規・セキュリティ技術について
- 第6回 医療情報の倫理（Ⅱ） 個人情報保護・情報倫理について
- 第7回 医療情報システム（Ⅰ） オーダーエントリー・電子カルテシステムについて
- 第8回 医療情報システム（Ⅱ） 医用画像システム・リハビリテーション部門システムについて
- 第9回 医療情報システム（Ⅲ） わが国の医療制度と医療情報システムの活用について／小テスト
- 第10回 演習：表計算ソフト基本操作の復習／小テストの解説
- 第11回 演習：医療統計（Ⅰ） 尺度と度数分布・基本統計量について
- 第12回 演習：医療統計（Ⅱ） 医療評価指標について
- 第13回 演習：医療統計（Ⅲ） 統計的仮説検定について（パラメトリックな検定手法）
- 第14回 演習：医療統計（Ⅳ） 統計的仮説検定について（ノンパラメトリックな検定手法）
- 第15回 演習：調査研究（Ⅴ） 精度と真度／コホート研究とケースコントロール研究について

■ 評価方法

小テスト：30% 課題提出：20% 期末テスト（課題）：50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

皆さんが医療現場に入職した際、新人として期待されることのひとつにコンピュータを扱う技術があります。4年制大学から病院に入る皆さんは、技術を中心として学んできた専門学校生とは異なり、研究活動や演習などで身につけた、より幅の広い知識やアカデミックな経験が求められます。

本科目ではその一端を学びますので、情報処理用語やセキュリティ・情報倫理に関する小テストでは、それまでの講義の内容を配布資料を元にしっかり復習してください。演習では、できる限り他人の力を借りずに、試行錯誤することを望みます。卒業研究や入職後の研究活動に必要な、データ処理技術を習得する第一歩と考え、労をいとわず毎回真剣に自分自身で取り組んでください。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：医療情報 第5版 医療情報システム編

著者名：日本医療情報学会編集

出版社：篠原出版新社

書 名：第3版 医療情報サブノート

著者名：日本医療情報学会医療情報技師育成部会 編集

出版社：篠原出版新社

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①

授業科目	統計学				
担当者	周藤 俊治			国試出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

取得したデータを集計し有効に活用するには、統計の基礎を理解するとともに取り扱う能力を身につけることが必要である。そこで、本講義では PC を利用しデータを実際にとり扱う。具体的には見やすい表の作り方やグラフの作り方から、検定・推定などの手法に関する授業を行う。

■ 到達目標

代表値や散布度などの指標を算出できる
わかりやすい表・グラフを作成できる
推定や検定の内容を理解し適切な検定法を選択できる

■ 授業計画

第1回 記述統計（Ⅰ）度数分布
第2回 記述統計（Ⅱ）代表値と散布度
第3回 相関係数・回帰直線
第4回 判断分析（Ⅰ）感度・特異度
第5回 判断分析（Ⅱ）ROC 曲線
第6回 推定（Ⅰ） 大数の法則・中心極限定理
第7回 推定（Ⅱ） 正規分布による推定
第8回 推定（Ⅲ） t 分布による推定
第9回 推定（Ⅳ） 母比率の推定
第10回 検定（Ⅰ）二標本 t 検定
第11回 検定（Ⅱ）一標本 t 検定
第12回 検定（Ⅲ）多重比較法
第13回 検定（Ⅳ）カイ二乗検定
第14回 検定（Ⅴ）順位データの検定
第15回 まとめ

■ 評価方法

試験50% 授業内課題50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義情報（<http://www.medbb.net>）を確認し予習・復習すること。

■ 教科書

書 名：入門 統計学 検定から多変量解析・実験計画法まで
著者名：栗原 伸一
出版社：オーム社

■ 参考図書

■ 留意事項

講義情報は <http://www.medbb.net> に掲載します。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ① /OT:CP ①⑦

授業科目	文学				
担当者	小林 信			国試出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

■ 内 容

日本の近現代の文学史を振り返りながら、明治期、大正期、昭和期（戦前・戦後）の代表的作家の作品を読み、その批判的精神を理解する。

■ 到達目標

日本の近現代の文学の代表的作家の作品を読むことを通して、その作家の生き方や人となり、批判的精神を理解し、今後の学生生活ならびに社会生活のなかで必要とされる「自立して生きる力」を養うことをめざす。

■ 授業計画

- 第1回 授業ガイダンス（授業計画、形態の説明）
自己紹介（興味・関心のある作家、作品、分野など）調べ、発表したい作家を選ぶ。
- 第2回 日本の近現代文学史概説（文学思潮、作家、作品など）
- 第3回 (ex) 石川啄木の文学について
時代背景や作品を通して作家像を解説
- 第4回 石川啄木の作品を読む「一握の砂、呼子と口笛、時代閉塞の現状」
内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く。討論（意見の発表）
- 第5回 (1) 森鷗外の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第6回 森鷗外の作品を読む「礼儀小言、当流比較言語学、遺言」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第7回 (2) 夏目漱石の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第8回 夏目漱石の作品を読む「現代日本の開化、イズムの功過、私の個人主義」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第9回 (3) 芥川龍之介の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第10回 芥川龍之介の作品を読む「文芸的な、あまりに文芸的な、或旧友への手記」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第11回 (4) 永井荷風の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第12回 永井荷風の作品を読む「浮世絵の鑑賞、新婦朝者日記」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第13回 (5) 坂口安吾の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第14回 坂口安吾の作品を読む「墮落論」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第15回 授業のまとめ（反省、課題、調べてみたい作家など）
各自の発表以外の作家1名についての感想（800字以内）

■ 評価方法

平常点（50%）
発表レジュメ（50%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業に関係する作家の作品（事前に配布）を読んで授業に臨むこと。

■ 教 科 書

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

無断欠席や遅刻をしてはいけない。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①⑦ /OT:CP ②⑥

授業科目	教育学				
担当者	加藤 啓一郎			国試出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

本人の主体性の尊重、関係性の重視という視点に立って、発達、成長の過程を捉えなおし、教育的な働きかけについて実践研究を通して検討する

■ 到達目標

教育についての問題を、社会とのかかわりの中で捉えなおすことを通して、医療関係者に必要とされる教育学的思考や手法を身につけることを目的とする

■ 授業計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 主体性、関係性の重視と教育
- 第3回 生涯発達の視点と障害について1
- 第4回 生涯発達の視点と障害について2
- 第5回 生涯発達の視点と障害について3
- 第6回 生涯発達の視点と障害について4
- 第7回 生涯発達の視点と障害について5
- 第8回 エピソード記述の方法
- 第9回 教育における主体性の問題を捉えなおす
- 第10回 家族、地域の問題について
- 第11回 実践的検討1
- 第12回 実践的検討2
- 第13回 実践的検討3
- 第14回 実践的検討4
- 第15回 エピソードの発表と討議

■ 評価方法

レポート 100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業の前後に資料を読み返すこと

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①④ /OT:CP ①③⑥

授業科目	法学概論				
担当者	家 正治			国試出題基準	
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

■ 内 容

「社会あるところに法あり」という法格言があります。社会規範には道德規範、宗教規範、習俗規範、法規範等がありますが、それらの中で法規範はどのような特徴を有するのかを把握し、また今日の国内法と国際法が当面する主要問題と課題を考察いたします。

■ 到達目標

本講義を通じて、国内社会における「人の支配」に対する「法の支配」、また国際社会における「力の支配」に対する「法の支配」について理解することを目指します。そして、その中で、リーガル・マインド「法的ものの考え方」に接近することいたします。

■ 授業計画

- 第1回 「法学」を学ぶにあたって
- 第2回 法とは何か ― とくに法と道德について
- 第3回 法の発展と法の体系
- 第4回 近代国家と憲法
- 第5回 憲法と国民主権主義
- 第6回 憲法と基本的人権尊重主義
- 第7回 憲法と平和主義
- 第8回 憲法と権力分立（三権分立）
- 第9回 法と裁判（とくに裁判基準について）
- 第10回 国内法と国際法の関係
- 第11回 戦争の違法化と安全保障の法体制
- 第12回 人権の国際的保障（国際人権保障）
- 第13回 民族自決権、とくに経済的自決権について
- 第14回 地球環境の保護の法体制
- 第15回 国内社会と国際社会における「法の支配」

■ 評価方法

- 筆記試験（60％）
- 出席を含む平常点（40％）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回授業の始めに若干の時間を割り、国内社会で生起している法的問題を取り上げて検討することいたします。一般新聞、とくに政治、経済、社会面に留意しておいて下さい。

■ 教 科 書

書 名：法学入門〔第6版〕
 著者名：末川博 編
 出版社：有斐閣

■ 参考図書

書 名：現代法学入門〔第4版〕
 著者名：伊藤正己・加藤一郎 編
 出版社：有斐閣

■ 留 意 事 項

問題意識をもつとともに日常的な勉学への努力を望みます。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ① /OT:CP ①

授業科目	国際社会と日本				
担当者	家 正治			国試出題基準	
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

国際社会の構造とその現状を理解し、現代の国際社会が直面する平和の問題、途上国問題、人権問題、地球環境問題等の全人類的課題をとり上げながら、その中で占める日本の位置と役割について考察いたします。

■ 到達目標

国際社会の構造や実態を把握し、国際社会を規律している原則や規範について理解し認識するとともに、現代国際社会において日本の占める位置と係わりについて理解できるように努めます。

■ 授 業 計 画

- 第1回 本授業に関する注意事項および国際社会の成立とその中での日本
- 第2回 国際社会の発展とその中での日本の位置と係わり
- 第3回 国際社会を動かす主要なアクターと日本
- 第4回 戦争の違法化と国際紛争の平和的解決（日本の係わりを含めて）
- 第5回 勢力均衡政策から集団安全保障体制へ（日本の係わりを含めて）
- 第6回 平和維持活動（PKO）の役割と日本の位置
- 第7回 軍縮の現状とその阻害要因および日本の役割
- 第8回 日米安全保障体制の展開と現状
- 第9回 先進国と途上国をめぐる経済問題 — 歴史的展開
- 第10回 先進国と途上国をめぐる経済問題 — 現状と実態
- 第11回 人権の国際的保障（国際人権保障）の発展
- 第12回 人権の国際的保障（国際人権保障）と日本
- 第13回 難民問題とその庇護と保護および日本の対応
- 第14回 地球環境の保護と国際協力 — とくに日本の役割について
- 第15回 今後の国際社会と日本

■ 評価方法

- 筆記試験（60％）
- 出席を含む平常点（40％）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

国際社会で生起している具体的な事例をとり上げながら、授業を行ないたいと思います。毎日、できるだけ一般新聞の国際面を読むように心掛けて下さい。

■ 教 科 書

書 名：国際関係〔全訂版〕
 著者名：家正治／岩本誠吾／桐山孝信／戸田五郎／西村智朗／福島崇宏 著
 出版社：世界思想社

■ 参考図書

書 名：国際機構〔第四版〕
 著者名：家正治／小畑郁／桐山孝信 編
 出版社：世界思想社

■ 留 意 事 項

問題意識をもつとともに日常的な勉強への努力を望みます。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ① /OT:CP ①

授業科目	物理学				
担当者	梅垣 二葉			国試出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

症状を科学的に分析し、的確な治療法を決定するのに必要な思考力の基盤となる物理学の知識を学ぶ。
特に、身体運動の基本を扱う力学、医療に応用される電磁気学、波動力学、熱力学を系統的に解説する。

■ 到達目標

多様な症状に関係する物理の法則を見い出すことができる能力、更に医療法を改良したり創造したりすることができる能力の基となる知識を修得する。

■ 授業計画

- 第1回 質点に働く力のつり合い（合成・分解）
- 第2回 力のモーメントと剛体に働く力の合成及び重心
- 第3回 剛体に働く力のつり合いと力のモーメントのつり合い
- 第4回 質点の運動学（位置、速度、加速度）
- 第5回 運動の法則（作用・反作用の法則）
- 第6回 運動の法則（慣性の法則と運動の法則）
- 第7回 力学的エネルギー保存の法則
- 第8回 運動量保存の法則
- 第9回 回転運動
- 第10回 圧力と浮力
- 第11回 静電気力
- 第12回 電気回路と特別な回路素子
- 第13回 電流と磁場、電磁波
- 第14回 音波と光波
- 第15回 原子・分子の熱運動と物質の状態

■ 評価方法

平常点／課題提出（30％） 筆記試験（70％）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：講義内容に関係する教科書の部分に目を通しておく
復習：講義内容の理解を深める為の演習プリントを完成させる

■ 教 科 書

書 名：身体運動の理解につなげる物理学
著者名：江原義弘、山本澄子、中川昭夫
出版社：南江堂

■ 参考図書

■ 留意事項

運動学や治療学の基礎となる科目であるので、十分理解できるように取り組むこと

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③④ /OT:CP ①③

授業科目	生物学				
担 当 者	林 研	国試出題基準	専門基礎Ⅰ -2-ABCGJ		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

細胞・遺伝子など生物の基本的な仕組みを踏まえつつ、人間の身体のはたらきを学ぶ。

■ 到達目標

生物学の基礎を習得し、マクロな人体とミクロの世界を結びつけて理解できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス、生物とは何か
- 第2回 細胞の構造
- 第3回 細胞分裂と発生
- 第4回 細胞の分化と幹細胞
- 第5回 神経・筋・骨
- 第6回 遺伝
- 第7回 遺伝子と DNA
- 第8回 遺伝子の発現
- 第9回 酵素と ATP
- 第10回 エネルギーの生成
- 第11回 血液と免疫
- 第12回 内分泌系と自律神経系
- 第13回 生体調節
- 第14回 刺激の受容
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

筆記試験（80%）、小テスト1回（20%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回配布する復習問題を、次の週までに解いておくこと。

■ 教 科 書

書 名：生物学 ヒトと環境の生命科学
 著者名：川崎祥二・古庄律 編著
 出版社：建帛社

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ① /OT:CP ①
 DP と CP の関係については、ポリシーを参照してください。

授業科目	福祉住環境論				
担 当 者	山田 隆人	国試出題基準	PTⅣ-1-G,OTⅣ-1-G		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

OT・PTの職能の一つとして、日常生活活動の支援がある。環境因子である居住環境を改善することで、対象者の生活機能の維持・向上を計ります。本講義では、居住環境の改善に関連する制度や施策、関連する職能との連携および居住環境改善を行う為の基礎知識を学びます。

■ 到達目標

居住環境改善に関する法制度や社会状況を理解する
 高齢者や障害者の暮らしの状況を理解する
 障害の特性を理解し、環境支援の方法を理解する

■ 授 業 計 画

第1回 高齢者を取り巻く社会状況と住環境
 第2回 介護保険制度の概要
 第3回 障害者を取り巻く社会状況と住環境
 第4回 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方 1節・2節
 第5回 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方 3節・4節
 第6回 福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識 1節 AB
 第7回 福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識 1節 C～J
 第8回 福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識 2節 A
 第9回 福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識 2節 B
 第10回 福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識 2節 C
 第11回 福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識 2節 D
 第12回 福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識 2節 EFG
 第13回 補節 福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識 A
 第14回 補節 福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識 BC
 第15回 まとめ

■ 評 価 方 法

課題・確認テスト（100%）、出席状況（無断欠席や遅刻はマイナス評価）、の結果を総合的に評価する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業前に教科書の該当ページを全て読んでくること。
 確認のための課題・テストなどを実施する。
 講義の進行は教科書の出版後に連絡します。

■ 教 科 書

書 名：福祉住環境コーディネーター検定試験？ 2級公式テキスト＜改訂4版＞ 2016年2月出版
 著者名：東京商工会議所
 出版社：東京商工会議所

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ① /OT:CP ①⑦

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	自然科学概論				
担当者	林 研			国試出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

物理・化学の基礎を学ぶとともに、様々な科学の分野の現状について広く見渡す。

■ 到達目標

人間の身体を理解する土台となる基礎知識と科学的素養を身につける。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス、科学の歴史
- 第2回 科学の方法
- 第3回 ニュートンと力学
- 第4回 回転運動と仕事
- 第5回 宇宙と物理
- 第6回 物質
- 第7回 物質の状態
- 第8回 物質の変化
- 第9回 エネルギーと環境
- 第10回 地球科学
- 第11回 進化と遺伝子
- 第12回 人体理解の歴史
- 第13回 脳科学
- 第14回 新しい科学
- 第15回 科学と社会

■ 評価方法

筆記試験（100％）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

補助資料で復習問題を出したときは、各自解いておくこと。

■ 教科書

書 名：使用しません。適宜プリントを配布します。

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①④ /OT:CP ①③

授業科目	栄養学				
担 当 者	仲村 祐江	国試出題基準	基礎分野Ⅰ - 2-N		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

■ 内 容

栄養学の基礎である五大栄養素を概説し、各栄養素の消化と吸収のメカニズムを学ぶ。そしてさらにライフステージごとの食事摂取基準を理解し、栄養アセスメントの理解を目指す。

■ 到達目標

1. 各栄養素の働きを理解する。
2. 基本的な栄養アセスメントを理解する。

■ 授業計画

- 第1回 健康と栄養 ～栄養とは～
- 第2回 五大栄養素
栄養素の機能と代謝について
- 第3回 炭水化物の種類と代謝と栄養1（糖質）
- 第4回 炭水化物の種類と代謝と栄養2（食物繊維）
- 第5回 脂質の種類と代謝と栄養
- 第6回 たんぱく質の種類と代謝と栄養
- 第7回 ビタミンの種類と機能
- 第8回 ミネラルの種類と機能
- 第9回 五大栄養素のまとめ
- 第10回 消化と吸収1 ～栄養素の吸収と仕組み～
- 第11回 消化と吸収2 ～腸内細菌の役割～
- 第12回 エネルギー代謝と食事摂取基準
- 第13回 ライフサイクルと栄養摂取 ～栄養状態の判定～
- 第14回 「食べること」の障害に対しての栄養サポート ～摂食・嚥下障害～
- 第15回 加齢による身体機能低下及び筋力低下のための栄養サポート ～筋力を高める栄養～

■ 評価方法

授業での課題レポート20% 小テスト10%
定期試験70%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

栄養学は、専門用語が多いため授業前にテキストに目を通して確認をしておいてください。
復習も必ず行い授業内容の理解に努めてください。

■ 教 科 書

書 名：イラスト栄養学総論
著者名：著者代表 田村 明
出版社：東京教学社

■ 参考図書

書 名：日本人の食事摂取基準〈2015年版〉
著者名：佐々木 敏 菱田 明
出版社：第一出版

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ① /OT:CP ①

授業科目	基礎ゼミナール				
担当者	専任教員 他（オムニバス）			国試出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	通年	選択・必修	必修

■ 内 容

自分自身の療法士として将来像を具体化し、求められる学習態度・学習方法、療法士としてのコミュニケーション技能、対象者の理解、リスク管理の概要、プレゼンテーション方法、レポートの書き方などについて、講義とグループ活動を通して学ぶ。さらに、自己の生活を見直すセッションも設ける。

■ 到達目標

1. 自分の将来像をイメージし、早期に大学生としての学習方法や学習に対する構えをつくることができる
2. 療法士として求められる態度・知識・技能を知り、一歩でも近づくための方向付けを行うことができる
3. 他者の意見を理解する能力、自分の考えを整理して表現する能力、情報を収集し整理する力、問題解決能力、コミュニケーション能力などを修得する
 - ①授業をしっかり聞いてノートがとれる
 - ②時間内で学んだことを図やテーマでまとめることができる
 - ③ディスカッションをして集団で考えをまとめることができる

■ 授 業 計 画

- 第1回 在学生の話：高校と大学の違い / 大学ポリシー カリキュラム構造など
- 第2回 ソーシャルネットサービスの利用時のマナーと防犯について学ぼう
- 第3回 違法薬物について学ぼう（薬物乱用防止講演会）
- 第4回 違法薬物について学ぼう（薬物乱用防止講演会）
- 第5回 防災訓練
- 第6回 先輩セラピストの話を聞いてみよう
- 第7回 先輩セラピストの話を聞いてみよう（ディスカッション・まとめ）
- 第8回 先輩セラピストの話を聞いてみよう（ディスカッション・まとめ）
- 第9回 障がいのある当事者の話 1 身体障害を有する方 高次脳機能障害を有する方
- 第10回 障がいのある当事者の話（ディスカッション・まとめ）
- 第11回 療法士としてのリスク管理について学ぼう①（一次救急救命法 AED の使用方法）× 2 回？
- 第12回 療法士としてのリスク管理について学ぼう②
- 第13回 障がいのある当事者の話 2 知的障害を有する方
- 第14回 障がいのある当事者の話（ディスカッション・まとめ）
- 第15回 自分自身のマナーについて見直そう（マナーアップ研修）
- 第16回 国家試験の問題を解いてみよう 勉強の方法を学ぼう
- 第17回 ハラスメントについて学ぼう
- 第18回 障がいのある当事者の話 3 精神障害をお持ちの方
- 第19回 障がいのある当事者の話（ディスカッション・まとめ）
- 第20回 人権研修
- 第21回 障がいのある当事者の話 4 発達障害をお持ちの方・ご家族
- 第22回 障がいのある当事者の話（ディスカッション・まとめ）
- 第23回 障がいのある当事者の話 5 障害者スポーツ＆就労支援 ？

- 第24回 障がいのある当事者の話（ディスカッション・まとめ）
- 第25回 興味あるテーマについて調べてレポートしよう
- 第26回 興味あるテーマについて調べてレポートしよう
- 第27回 興味あるテーマについて調べてレポートしよう
- 第28回 医療職を目指す学生としての基本的資質
自分の生活（生活リズム，学習時間や方法，社会的な態度など）を振り返り，次に備えよう
- 第29回 目指すセラピスト像となすべきこと ディスカッション
- 第30回 目指すセラピスト像となすべきこと ディスカッション 発表

■ 評価方法

ノートの内容，整理された図やテーマの内容，ディスカッションへの参加態度等を毎回10点満点で採点し，最終評価とする

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

提示された「次回の課題」に取り組んで授業に臨むこと
特に，ディスカッションの前には，自分に考えをまとめておく（各回考えておくべき事項を伝えます）
各授業終了後には，リアクションペーパーの作成により，授業内容を振り返る

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

積極的に参加し，取り組みましょう
講師の都合により日程を変更する可能性があります
授業に欠席した場合は，その日の評価は0点となります。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ④⑦⑧ /OT:CP ⑥⑦

授業科目	医の倫理				
担 当 者	浅野 遼二	国試出題基準	専門基礎Ⅱ -1-A		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

「医の倫理」の思想的系譜を明らかにし、「医の倫理」の中心問題を講義する。

■ 到達目標

理学療法や作業療法などのリハビリテーション医療を学ぶ者に必要な「医の倫理」の知識を習得することにある。

■ 授 業 計 画

- 第1回 「医の倫理」思想史（1）
古代ギリシアの「ヒポクラテスの誓い」から現代の「リスボン宣言」までの「医の倫理」の系譜と思想を簡潔に講義する。
- 第2回 「医の倫理」思想史（2）
古代ギリシアの「ヒポクラテスの誓い」から現代の「リスボン宣言」までの「医の倫理」の系譜と思想を簡潔に講義する。
- 第3回 理学療法士、作業療法士、医師、看護師の倫理綱領
理学療法士、作業療法士、医師、看護師の倫理規定について講義する。
- 第4回 医療の現在
『病院で死ぬということ』（山崎彰朗著、主婦の友社）を読み、末期患者のおかれている状況を知り、医療者としての心構えを準備する。
- 第5回 死生観の問題
『死ぬ瞬間』（エリザベス・キューブラー・ロス著、読売新聞社）より末期患者の心理過程を示し、末期医療における医療者と患者の諸問題を論究する。
- 第6回 「医の倫理」の中心問題～恩恵と自律
「医の倫理」の諸原理～自律、恩恵、正義、無危害等～を講義する。
- 第7回 「医の倫理」の中心問題～医師患者関係・パターナリズム～
医師と患者関係を長期にわたり規定していた過去の「パターナリズム」思想を講義する。
- 第8回 「医の倫理」の中心問題～医師患者関係・インフォームド・コンセント～
医師と患者関係を新しく規定する現代の「インフォームド・コンセント」思想を講義する。

■ 評価方法

定期レポート 70%
平常レポート（授業態度を含む）30%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義プリントと講義資料は事前に丁寧に読んでおくこと。

■ 教 科 書

書 名：講義プリントと講義資料を配布する

■ 参考図書

書 名：死ぬ瞬間

著者名：エリザベス・キューブラー・ロス （川口正吉 訳）

出版社：読売新聞社

書 名：病院で死ぬということ

著者名：山崎彰郎

出版社：主婦の友社 （或は文春文庫）

■ 留意事項

無断欠席をしてはいけない。遅刻、早退には正当な理由が必要である。授業には真摯な態度で出席すること。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ① /OT:CP ①⑥

授業科目	チーム医療論				
担 当 者	井上悟・辻郁・大西環（オムニバス）			国試出題基準	Ⅲ -2-D
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

今改めて、チーム医療が求められる理由とチーム医療の事例、現状について紹介する。
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のチームでの役割・業務・等について紹介する。

■ 到達目標

チーム医療が求められる理由とチーム医療の事例、現状について認識する。
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のチームでの役割・業務・等について理解する。

■ 授業計画

- 第1回 チーム医療とは？ なぜ今更、チーム医療が求められるのか？
- 第2回 チームモデルとメリット／デメリット
- 第3回 チーム医療実践具体事例1：医療安全・感染制御
- 第4回 チーム医療実践具体事例2：NST・がん
- 第5回 チーム医療実践具体事例3：リハビリテーション・チーム
- 第6回 チーム医療実践具体事例4：リハビリテーション・チーム
- 第7回 作業療法における協業とは
- 第8回 作業療法実践例（医療機関における例）
- 第9回 作業療法実践例（在宅支援における例）
- 第10回 ST：言語聴覚療法概論（発達障害）
- 第11回 ST：言語聴覚療法概論（知的能力障害）
- 第12回 ST：言語聴覚療法概論（運動障害性構音障害）
- 第13回 ST：言語聴覚療法概論（失語症）
- 第14回 ST：言語聴覚療法概論（摂食嚥下障害）
- 第15回 ST：言語聴覚療法概論（聴覚障害）

■ 評価方法

筆記試験またはレポート 70%、授業態度 30%で総合評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

■ 教 科 書

書 名：チーム医療を成功させる10か条

著者名：福原麻希

出版社：中山書店，2013年，3150円（最新版で）

書 名：絵でわかる言語障害 言葉のメカニズムから対応まで 第2版

著者名：毛束真知子

出版社：Gakken 2376円

■ 参考図書

書 名：チーム医療推進協議会ホームページ

著者名：（公社）日本理学療法士協会

出版社：<http://www.team-med.jp/>

■ 留 意 事 項

オムニバスのため、各回の講義内容、順序・等については変更することがあります。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ⑧ / OT:CP ⑥

授業科目	障害者スポーツ入門				
担当者	島 雅人			国試出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	自由

■ 内 容

障がい者福祉施策と障がい者スポーツについて、講義と実技実習を交えて学ぶ。障がい者スポーツの意義と理念を理解し、身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解を深めるとともに、日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について学ぶ。また、障がいに応じたスポーツの工夫や、障がい者との交流をはかり、障がい者スポーツ指導者としての導入を図る。本講義を履修することで、地域の障がい者で初めてスポーツを行う方に対して、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できるような知識と技術を身につける。

■ 到達目標

1. 障がい者福祉施策と障がい者スポーツについて概説できる。
2. 障がい者スポーツの意義と理念を理解できる。
3. 身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解できる。
4. 日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について説明できる。
5. 障がい者との交流をはかり、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 障がい者福祉施策と障がい者スポーツ 1 (0.5)、障がい者スポーツの意義と理念 1 (1.0)
- 第2回 障がい者スポーツの意義と理念 (1.0)、文化としてのスポーツ (0.5)
- 第3回 全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義 (1.5)
- 第4回 全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義 (0.5)
(公財) 日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度 (1.0)
- 第5回 全国障害者スポーツ大会の概要 (1.0)
全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割 (0.5)
- 第6回 全国障害者スポーツ大会の実施競技 (1.0) 安全管理 1 (0.5)
- 第7回 安全管理 2 (0.5) ボランティア論 1 (1.0)
- 第8回 ボランティア論 2 (1.0)、スポーツと栄養 (0.5)
- 第9回 スポーツと心理 (1.5)
- 第10回 障がいの理解とスポーツ (身体、知的、精神、視覚など) (1.5)
- 第11回 障がい者のスポーツ指導における留意点 1 (1.5)
- 第12回 障がいに応じたスポーツの工夫・実施 (実技) (1.5)
- 第13回 障がいに応じたスポーツの工夫・実施 (実技) (1.5)
- 第14回 障がい者との交流 (実技) 学外 (1.5)
- 第15回 障がい者との交流 (実技) 学外 (1.5)

■ 評価方法

筆記試験50%、課題レポート 50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の講義前までに、教科書の該当箇所を読んでおくこと。
日頃から障がい者スポーツに関する情報を意識して得るようにしてください。テレビやインターネットで多くの情報を得ることができます。
また、地域や大学が主催するイベントに参加して、できる限り障がい者スポーツに関わる機会を多く設定してください。実体験を通じて障がい者スポーツの魅力を感じ、自分自身が出来ることについて考え行動することを望みます。

■ 教科書

書 名：障害者スポーツ指導教本 初級・中級＜改訂版＞
著者名：（公財）日本障がい者スポーツ協会 編
出版社：ぎょうせい

■ 参考図書

書 名：オリンピック・パラリンピック大百科（全7巻セット）
著者名：日本オリンピック・アカデミー
出版社：小峰書店
.....
書 名：大きな写真でよくわかる障がい者スポーツ大百科
著者名：大熊 廣明
出版社：六耀社

■ 留意事項

本科目は、中級障がい者スポーツ指導員資格を取得するために必修となる科目である。
欠席した場合は資格取得が出来なくなるため、出席に関しては十分注意すること。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ④⑦⑧ / OT:CP ③⑦

授業科目	障害者スポーツ指導論				
担当者	島 雅人			国試出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	自由

■ 内 容

障がい者スポーツ指導に関する専門的な知識と技術を身につけ、地域における障がい者スポーツのリーダー的役割が担えるよう、知識と技術の習得を図る。障がい者スポーツ指導における留意点や心理的側面について学ぶ。全国障害者スポーツ大会の歴史、目的と意義、実施競技、障がい区分に関する理解を座学にて学習する。全国スポーツ大会競技の指導法と競技規則について、実技実習を通して知識と技術を身につける。

■ 到達目標

1. 障がい者スポーツ指導に関する専門的な知識と技術を身につけることができる。
2. 障がい者スポーツ指導に留意点や心理的側面について理解することができる。
3. 全国障害者スポーツ大会の歴史、目的と意義、実施競技、障害区分を理解できる。
4. 全国スポーツ大会競技の指導法と競技規則について、実技実習を通して知識と技術を身につけることができる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 文化としてのスポーツ (1, 5)
- 第2回 障がい者のスポーツ指導における留意点 (1, 5)
- 第3回 全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割 (1, 5)
- 第4回 全国障害者スポーツ大会の実施競技 (1, 0)、全国障害者スポーツ大会の障害区分 (0, 5)
- 第5回 全国障害者スポーツ大会の障害区分 (1, 5)
- 第6回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 陸上 (1, 5)
- 第7回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 陸上 (1, 5)
- 第8回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 サッカー (1, 5)
- 第9回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 サッカー (1, 5)
- 第10回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 グランドソフトボール (1, 5)
- 第11回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 グランドソフトボール (1, 5)
- 第12回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 水泳 (1, 5)
- 第13回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 水泳 (1, 5)
- 第14回 最重度障がい者のスポーツの実践 (実技) 学内 ボッチャ 他 (1, 5)
- 第15回 最重度障がい者のスポーツの実践 (実技) 学内 ボッチャ 他 (1, 5)

■ 評価方法

レポート 100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各講義の内容、実施する競技の規則に関しては、あらかじめ目を通しておくこと。
日頃から障がい者スポーツに関する情報を意識して得るようにしてください。テレビやインターネットで多くの情報を得ることができます。また、地域や大学が主催するイベントに参加して、できる限り障がい者スポーツに関わる機会を多く設定し、実体験を通じて障がい者スポーツの魅力を感じ、自分自身ができることについて考え行動することを望みます。

■ 教科書

書 名：障害者スポーツ指導教本 初級・中級＜改訂版＞

著者名：（公財）日本障がい者スポーツ協会 編

出版社：ぎょうせい

書 名：全国障害者スポーツ大会競技規則集（解説付）

著者名：（公財）日本障がい者スポーツ協会 編

■ 参考図書

■ 留意事項

本科目は、中級障がい者スポーツ指導員資格を取得するために必修となる科目である。

欠席した場合は資格取得が出来なくなるため、出席に関しては十分注意すること。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ④⑦⑧ / OT:CP ③⑦

授業科目	スポーツ医学				
担 当 者	佐藤睦美・境隆弘 他（オムニバス）			国試出題基準	
学 科 名	理学療法学専攻（必修）	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻（自由）	開講時期	前期	選択・必修	必修 / 自由

■ 内 容

スポーツによる傷害、内科的疾患、トレーニングや栄養についての基礎を学ぶ。

■ 到達目標

スポーツ活動の場において、医療スタッフ・指導者として必要なスポーツ医学の知識を体得する。

■ 授業計画

- 第1回 スポーツ医学総論
- 第2回 ドーピングと熱中症
- 第3回 スポーツ選手と栄養
- 第4回 アスレチックリハビリテーション
- 第5回 スポーツ選手に対するトレーニング
- 第6回 高齢者とスポーツ
- 第7回 スポーツ現場におけるメディカルサポート
- 第8回 スポーツ現場におけるメディカルサポート

■ 評価方法

提出課題：20%， 筆記試験：80%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

教科書および配布資料で講義内容を復習すること。

■ 教 科 書

書 名： やさしいスチューデントトレーナーシリーズ 4 スポーツ医学
 著者名： 藤本繁夫・大久保衛（編）
 出版社： 嵯峨野書院

■ 参考図書

書 名： アスレチックリハビリテーションガイド
 著者名： 福林徹（編）
 出版社： 文光堂

■ 留意事項

講師の都合により、講義の順番が前後することがあります。
 スケジュールは別途連絡しますので、必ず確認をして下さい。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③④⑤ /OT:CP ①②③⑤

授業科目	リハビリテーション概論				
担当者	井上 悟	国試出題基準	専門基礎Ⅲ -1-D, Ⅲ - 2		
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

リハビリという言葉は、一般社会でも非常によく使われるようになった。通常、疾病や外傷によって生じた障害に対する機能回復のための治療・訓練として用いられてきている。しかし、この解釈は、リハビリテーションの中の極めて狭い領域を示しているに過ぎない。リハビリテーション本来の理念を歴史的背景を含め紹介する。

■ 到達目標

リハビリテーション：rehabilitation（以下、リハと略す）を正しく理解する。正しい知識をもって、リハ医療の対象や現状、各専門職の役割について知る。

■ 授業計画

- 第1回 リハとは？ その概念・理念・定義
- 第2回 健康・疾病・障害の概念と分類
- 第3回 障害論（国際障害分類:ICIDH）
- 第4回 障害論（国際生活機能分類:ICF）
- 第5回 廃用症候群とは
- 第6回 障害の心理と障害受容
- 第7回 リハの過程（評価とは？）
- 第8回 リハの諸段階：医学的・職業的リハ
- 第9回 リハの諸段階：社会的・教育的リハ
- 第10回 医療と各職種に関わる諸問題1（インフォームド・コンセント、医療安全）
- 第11回 医療と各職種に関わる諸問題2（個人情報保護、EBM・他）
- 第12回 チーム・アプローチ：評価と記録の重要性、ADL・QOLについて
- 第13回 地域リハと高齢者対策、社会福祉制度総論
- 第14回 リハを支える社会保障制度と法律1（医療保険制度、医療法）
- 第15回 リハを支える社会保障制度と法律2（介護保険制度、福祉関係法規）

■ 評価方法

筆記試験 70%、授業態度・他 30% で総合評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

■ 教 科 書

書 名：リハビリテーション概論（第3版）
 著者名：上好秋孝・田島文博
 出版社：永井書店、2014年（最新版で）、3000円税別

■ 参考図書

書 名：リハビリテーション総論（第2版）
 著者名：椿原 彰夫
 出版社：診断と治療社：2011年、3600円

■ 留 意 事 項

指定の教科書は後期開講のリハビリテーション医学の参考書として利用可能。各回の講義テーマ、内容については関連する講義の進捗状況により変更することがあります。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ① /OT:CP ①②

授業科目	リハビリテーション医学				
担 当 者	非常勤講師	国試出題基準	専門基礎 II-6, 8, 9, 10, 11, 13		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

リハビリテーション医学の目的は、病気や外傷により生じた障害を医学的に診断・治療し、機能回復と社会復帰を総合的に提供することです。その目的を、どのように達成したら良いのかを受講者とともに考えたいと思います。

■ 到達目標

講義を参考にして、リハビリテーションに対する自分の考えを持つことができ、リハビリテーション関連職種 of 専門家を目指すための明確な動機付けができることを期待しています。

■ 授 業 計 画

- 第1回 障害の評価（主に神経学的所見の取り方・診かた）
- 第2回 脳卒中各論①（脳梗塞・診断）
- 第3回 脳卒中各論②（脳梗塞・治療）
- 第4回 脳卒中各論③（出血性脳卒中）
- 第5回 脳卒中各論④（脳卒中のリハビリテーションⅠ）
- 第6回 脳卒中各論⑤（脳卒中のリハビリテーションⅡ）
- 第7回 脊髄損傷①
- 第8回 脊髄損傷②
- 第9回 末梢神経障害
- 第10回 神経変性疾患
- 第11回 骨・関節疾患
- 第12回 内部疾患（循環器・呼吸器）
- 第13回 小児疾患
- 第14回 まとめ①（高齢者における諸問題）
- 第15回 まとめ②（補遺）

■ 評価方法

筆記試験（100％）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業後も、教科書（資料が配布された場合はその資料も）を参考にして復習すること。

■ 教 科 書

書 名：リハビリテーション医学テキスト 改訂第4版
 著者名：三上真弘、出江紳一（編）
 出版社：南江堂

■ 参 考 図 書

書 名：リハビリテーション概論 改訂第3版
 著者名：上好昭孝、土肥伸之（編）
 出版社：永井書店

■ 留 意 事 項

私語など、他の受講者および講師の迷惑になる行為は、言うまでもなく厳禁です。医療業界で働くための最低限の常識を身につけて講義に臨んでください。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①②③ /OT:CP ①②

授業科目	疫学・公衆衛生学				
担当者	白井文恵	国試出題基準	専門基礎Ⅲ -B, 専門Ⅲ -7		
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

地域で生活する人々の健康の維持・増進・向上のために必要な公衆衛生学について学ぶ。
健康に関する研究手法である疫学について学ぶ。

■ 到達目標

- ①健康とは何か説明することができる。
- ②健康に生活するとはどのようなことか説明できる。
- ③健康に生活することを保障する社会の仕組みを説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 衛生学・公衆衛生学序論
- 第2回 保健統計
- 第3回 疫学
- 第4回 疾病予防と健康管理
- 第5回 主な疾病の予防、環境保健
- 第6回 母子保健、学校保健
- 第7回 高齢者保健・医療・介護、精神保健
- 第8回 産業保健

■ 評価方法

筆記試験 100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：授業前に教科書の単元を読んでおくこと
復習：授業後、教科書の単元を読み、わからないことは次の授業の時に質問すること

■ 教 科 書

書 名：シンプル衛生公衆衛生学2017
著者名：鈴木庄亮監修
出版社：南江堂

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③ /OT:CP ①②③

授業科目	障害者福祉論				
担 当 者	橋本卓也、淵上賢治（オムニバス）	国試出題基準	Ⅲ -1-c, Ⅲ -1-BC		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

障害者福祉に関する理念・価値・法制度及び障害構造等を体系的に理解するとともに障害をもつ人たちの生活・教育・雇用・施設環境等の実態を通して彼らを排除する社会構造への関心と支援のあり方を模索する。また、障害をもつ人たちがおかれている現状を把握し、「医学モデル」という狭義の捉え方ではなく、「生活・社会モデル」の視点からこの問題を考える。

■ 到達目標

- ①障害者福祉の理念・価値及び障害をもつ人たちの生活実態を把握することができる。
- ②障害をもつ人たちの生活ニーズを解決するための制度・施策等を把握し、支援のあり方を考察することができる。
- ③障害者福祉に関する医学モデルと生活・社会モデルの差異を理解できる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション
障害者福祉の理念及び価値
- 第2回 障害の概念及び障害構造について（ICIDH モデルから ICF モデルへ）
- 第3回 障害者の法的定義と日本の障害者の実態
- 第4回 障害者福祉の史的展開及び動向（欧米と日本の差異）
- 第5回 日本の障害者福祉施策体系
- 第6回 障害者の雇用・就労の現状と課題
- 第7回 障害者の所得保障と経済的負担軽減
- 第8回 障害者制度・施策の変遷（支援費制度から障害者自立支援法へ）
- 第9回 障害者総合支援法
- 第10回 特別支援教育の変遷と課題
- 第11回 障害者施設論（世界の情勢と課題及び地域移行について）
- 第12回 障害者の権利擁護と障害者虐待防止法（権利侵害の実態と要因）
- 第13回 障害者のセルフヘルプ運動（理念と機能・役割）
- 第14回 障害者ケアマネジメントと障害者の意思決定支援について
- 第15回 ゲストスピーカー（障害当事者）による講義と交流（意見交換）

■ 評価方法

定期試験（筆記試験）100% 出席率は減点対象とする その他、授業中の態度など総合的に評価する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の授業項目について「参考図書」その他の当授業に関連する書籍を読んだ上で、授業に臨むこと。

■ 教 科 書

■ 参考図書

書 名：よくわかる障害者福祉
著者名：小澤 温（編）
出版社：ミネルヴァ書房

■ 留 意 事 項

当該科目は、スポーツ指導員（初級）に必要な科目である。欠席すると取得が難しくなるため健康管理等に留意して欠席がないように心がけること。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③④ (DP: ①②) /OT:CP ①②③ (DP: ①②)

授業科目	老人福祉論				
担当者	橋本 卓也			国試出題基準	Ⅲ -1-C
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

現代日本の高齢者を取り巻く現状と福祉課題を考察するとともに、介護保険制度・地域包括ケアシステムについて理解する。また、権利擁護の視点から高齢者に対する虐待・孤立死等の要因を探る。さらに国の認知症施策及びその一環として創設された認知症初期集中支援チームについても学ぶ。

■ 到達目標

- ①高齢者福祉の社会的背景、理念、目標等について理解することができる。
- ②介護保険を中心とする高齢者福祉施策と、それに基づいた様々な施策・具体的実践について理解することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 現代における高齢者の生活課題と福祉ニーズについて
- 第2回 孤立死・孤独死について
- 第3回 セルフ・ネグレクトについて
- 第4回 介護保険制度Ⅰ
- 第5回 介護保険制度Ⅱ
- 第6回 地域包括ケアシステムについて
- 第7回 高齢者の権利擁護（高齢者虐待）について
- 第8回 認知症初期集中支援チームについて

■ 評価方法

定期試験（筆記試験）80 % その他、小テスト（20%）、授業中の態度等も評価の対象とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業項目に関する予習（読んでくる）をしておくこと。各授業項目に関する話題に関心をもつこと。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：高齢者に対する支援と介護保険制度
 著者名：岡田進一・橋本正明（編著）
 出版社：ミネルヴァ書房

■ 留意事項

毎回実施される小テストに真剣に取り組むこと

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③④（DP ①②） OT:CP ①②③（DP ①②）

授業科目	基礎解剖学				
担当者	柴田 雅朗	国試出題基準	専門基礎Ⅰ -1-ABCD		
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

人体および人体を構成している細胞・組織・器官の形態・構造の基本を系統的に学ぶ。

■ 到達目標

人体構造の基礎的知識を身につけ、運動器系や神経系の解剖学を学ぶための基礎を作る。

■ 授 業 計 画

第1回 解剖学総論

1. 細胞・組織・器官・系
2. 肉眼解剖と組織学
3. 系統解剖と局所解剖学
4. 発生学
5. 体表解剖学
6. 人体の正常・異常・個体差
7. 解剖学的姿勢
8. 基本的な解剖学用語

第2回 骨学総論 1. 骨の肉眼的構造 2. 髄腔と骨髓 3. 体腔

第3回 関節靱帯学総論

1. 線維性連結
2. 軟骨性連結
3. 滑膜性連結
4. 関節の一般構造（関節包、滑膜、滑液）
5. 関節の特殊構造（関節円板、関節半月、関節靱帯、関節唇）

第4回 筋学総論

1. 筋の分類（平滑筋と横紋筋）
2. 随意筋と不随意筋
3. 骨格筋の基本形態
4. 腱と腱膜
5. 筋の付着（起始と停止）
6. 筋の作用（屈曲・伸展、内転・外転、内旋・外旋）
7. 主動筋、拮抗筋、協力筋
8. 骨格筋の補助装置（筋膜、支帯、筋間中隔、筋滑車、滑液包、腱鞘）

第5回 神経学総論 1

1. 中枢神経系と末梢神経系
2. 求心性神経と遠心性神経
3. 白質と灰白質
4. 神経細胞（神経細胞体、樹状突起、軸索、髄鞘）
5. 神経線維と神経

第6回 神経学総論 2

1. 脊髄の白質と灰白質（前柱、後柱、前索、側索、後索）
2. 脊髄の区分（頸髄～尾髄）
3. 脊髄髄節と脊髄神経（髄節、前根と後根、前枝と後枝）

第7回 組織および胚葉

1. 組織（上皮組織、支持組織）
2. 胚葉（外胚葉、中胚葉、内胚葉）
3. 三層性胚盤と器官・組織形成

第8回 循環器系総論

1. 血管系の役割
2. 血管（動脈・毛細血管・静脈の構造）
3. 動脈・静脈と動脈血・静脈血
4. 吻合
5. 終動脈

第9回 心臓

1. 心筋細胞
2. 心臓の位置
3. 心臓を包む膜
4. 心臓の内腔（心房と心室）
5. 肺循環と体循環

第10回 心臓（続き）

1. 房室弁（腱索と乳頭筋、左房室弁・右房室弁）
2. 動脈弁（肺動脈弁・大動脈弁）
3. 心臓の血管（冠状動脈、冠状静脈洞）

第11回 動脈系

1. 大動脈
2. 大動脈弓（腕頭動脈、左総頸動脈、左鎖骨下動脈）
2. 頭頸部に分布する動脈
3. 上肢帯と上肢に分布する動脈
4. 胸部内臓・腹部内臓に分布する動脈

第12回 動脈系（続き）

1. 脳の動脈

第13回 胎児循環

1. 胎盤 2. 臍静脈と臍動脈 3. 静脈管（アランチウス管）
4. 卵円孔 5. 動脈管（ボタロー管）

リンパ系 1. リンパ管とリンパ節 2. 胸管 3. 右リンパ本幹 4. 脾臓

第14回 総復習 1

復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説

第15回 総復習 2

復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説

■ 評価方法

筆記試験 100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

復習を必ず毎回やって、分からない内容がないようにして下さい。分からないことは自分で調べ、解決がつかない場合は遠慮なく質問して下さい。

■ 教科書

書 名：PT・OT・STのための解剖学

著者名：渡辺正仁 監修

出版社：廣川書店

書 名：ネッター解剖学アトラス

著者名：相磯貞和 訳

出版社：南江堂

書 名：消っして忘れない解剖学 要点整理ノート

著者名：井上 馨・松村譲児 編集

出版社：羊土社

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①②④ /OT:CP ①②③

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	解剖学基礎実習				
担当者	山田 隆人	国試出題基準	専門基礎Ⅰ -1-B		
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

上肢の骨・関節・筋・体幹の骨・関節・筋について、骨実習や組織実習、体表解剖学などを通して学ぶ。

■ 到達目標

運動器系解剖学の基礎的知識を身につけ、それを骨標本・身体に適用することができるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 全身骨格とその分類
1. 骨の標本を使って全身骨格を作る。 2. 全身骨格を軸骨格と付属性骨格に分ける。
3. 付属性骨格をさらに分類する。 4. 海綿骨と緻密骨を区別する。
- 第2回 脊柱と体表解剖学
1. 椎骨の基本構造。 2. 頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨について観察する。
3. 自分自身の体で椎骨を触知する。
- 第3回 上肢帯骨と体表解剖学
1. 肩甲骨の各部を観察する。 2. 鎖骨の各部を観察する。 3. 肩甲骨と鎖骨を触知する。
4. 肩甲骨と鎖骨の動きを理解する。
- 第4回 胸郭と体表解剖学
1. 胸骨の各部 2. 胸骨角 3. 肋硬骨と肋軟骨 4. 真肋と仮肋 5. 肋骨の各部
6. 第一肋骨（前斜角筋結節と鎖骨下動脈溝） 7. 頸肋と腰肋 8. 胸骨と肋骨の触知
- 第5回 自由上肢と体表解剖学
1. 上腕骨の各部 2. 橈骨の各部 3. 尺骨の各部 4. 手の骨 5. 手根溝
6. 自由上肢骨の触知
- 第6回 脊柱と胸郭の連結
1. 椎骨間の連結 2. 椎間板 3. 環軸関節（正中環軸関節と外側環軸関節、環椎十字靱帯）
4. 胸郭の連結 5. 肩鎖関節 6. 胸鎖関節
- 第7回 上肢の関節と靱帯
1. 肩関節 2. 腕尺関節 3. 腕橈関節 4. 上橈尺関節 5. 下橈尺関節 6. 手関節
7. 手根中手関節 8. 中手指節関節 9. 指節間関節
- 第8回 下肢帯骨と骨盤
1. 寛骨 2. 腸骨 3. 坐骨 4. 恥骨 5. 骨盤
- 第9回 自由下肢骨
1. 大腿骨 2. 脛骨 3. 腓骨 4. 膝蓋骨 5. 足の骨
- 第10回 股関節と仙腸関節
1. 股関節の構造と動き 2. 仙腸関節の構造と動き
- 第11回 膝関節、脛腓関節と足関節
1. 膝関節の構造と動き 2. 脛腓関節の構造と動き 3. 足関節の構造と動き
- 第12回 頭蓋骨その1
1. 頭蓋を構成する骨 2. 頭蓋骨の連結 3. 泉門
- 第13回 頭蓋骨その2
1. 眼窩 2. 鼻腔 3. 副鼻腔 4. 側頭下窩 5. 翼口蓋窩 6. 顎関節
- 第14回 総復習1
復習のための練習問題とその解説
- 第15回 実技試験

■ 評価方法

小テスト：40％ 実技試験：10％ 筆記試験：50％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業内容について的小テストを次回の講義時間に実施します。小テストまでに、授業で確認した内容を各自復習を行って下さい。

■ 教科書

書 名：PT・OT・ST のための解剖学
著者名：渡辺正仁 監修
出版社：廣川書店

■ 参考図書

書 名：ネッター解剖学アトラス
著者名：相磯貞和 訳
出版社：南江堂

■ 留意事項

身体に触知などを行うので、身体に触り易い服装で臨んでください。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②⑤
DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	運動器系の解剖学				
担 当 者	田中 稔	国試出題基準	専門基礎Ⅰ -1-BC		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

身体部位の形態と構造を理解することにより、身体運動を理解する基礎を学ぶ。

■ 到達目標

理学療法においては、加齢や寝たきり等による運動機能低下の予防、維持が主要目的となるが、骨格や筋などの運動器官の解剖学的知識の習得は目的の達成のために極めて重要となる。講義内容では、細胞と組織、骨格系、関節靭帯系、筋系の形態を機能と関連付けすることで理解を深めていく。また、組織学的な知見を示すことで、解剖学分野の科学的な関心へとつなげていく。

■ 授 業 計 画

- 第1回 解剖学総論：人体の大要・構成
- 第2回 骨学総論：骨の構造と機能
- 第3回 骨学各論：頭蓋、脊柱、胸郭
- 第4回 骨学各論：上肢、下肢の骨
- 第5回 頭頸部、体幹の関節と靭帯
- 第6回 上肢の関節と靭帯
- 第7回 下肢の関節と靭帯
- 第8回 筋学総論：筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造と作用
- 第9回 筋学各論：上肢帯、上腕の筋
- 第10回 筋学各論：前腕、手の筋
- 第11回 筋学各論：下肢帯、大腿の筋
- 第12回 下腿、足の筋
- 第13回 頭頸部の筋
- 第14回 胸腹部の筋
- 第15回 背部の筋

■ 評価方法

筆記試験：80%，小テスト：20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業開始時に知識の確認テストを実施する。そのため、事前に前回授業の復習をしておくこと。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学
 著者名：編集：野村 巖
 出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ④⑥ / OT:CP ③⑤

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	神経系の解剖学				
担当者	柴田 雅朗	国試出題基準	専門基礎 I -1-D		
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

中枢神経系および末梢神経系の各部について学習し、運動や感覚の伝わる経路（伝導路）について学ぶ。

■ 到達目標

中枢神経系および末梢神経系を構成している各部の名称や機能を説明でき、上行性および下行性伝導路の種類と各伝導路の主要な部位が分かる。これらは専門領域で学ぶ神経系疾患、リハビリテーションの理解の基礎となる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 神経系総論のまとめ
1. 基礎解剖学で学んだ神経学総論の復習 2. 髄膜、脳室、脳脊髄液
- 第2回 神経系の発生：大脳、中脳、橋、延髄、小脳の発生
脊髄の構造：基礎解剖学で学んだ脊髄の復習
- 第3回 脳の総論：1. 大脳 2. 間脳 3. 中脳 4. 橋 5. 延髄 6. 小脳
大脳：1. 溝、回、葉 2. 大脳皮質
- 第4回 大脳（続き）：1. プロードマン野 2. 運動野、感覚野、連合野 3. 優位半球 4. 神経線維の種類
- 第5回 大脳（続き）：1. 大脳基底核（機能、構造、障害） 2. 内包（構造、血管分布、脳卒中）
- 第6回 大脳（続き）：1. 扁桃体
間脳：1. 視床 2. 視床下部
中脳：1. 中脳蓋 2. 中脳被蓋 3. 大脳脚
- 第7回 橋：1. 橋底部 2. 橋被蓋
延髄：1. オリーブ 2. 錐体交叉 3. 網様体
小脳：1. 構成[区分] 2. 皮質と髄質 3. 小脳脚
- 第8回 末梢神経系：1. 脊髄神経とは 2. 脊髄神経前枝 3. 脊髄神経後枝
- 第9回 末梢神経系（続き）：1. 腕神経叢の構成 2. 腕神経叢の障害
- 第10回 末梢神経系（続き）：1. 脳神経の総論 2. 嗅神経、視神経 3. 動眼神経 4. 滑車神経
5. 三叉神経 6. 外転神経
- 第11回 末梢神経系（脳神経続き）：1. 顔面神経 2. 内耳神経 3. 舌咽神経 4. 迷走神経 5. 副神経 6. 舌下神経
自律神経系：1. 自律神経とは 2. 交感神経 3. 副交感神経
- 第12回 下行性伝導路：1. 錐体路（皮質脊髄路、皮質格路） 2. 錐体外路 3. 反射路
- 第13回 上行性伝導路：1. 温痛覚（外側脊髄視床路） 2. 粗大触圧角（前脊髄視床路）
3. 精細触圧角（後索-内側毛帯路） 4. 深部感覚（意識的な深部感覚：後索-内側毛帯路、無意識的な深部感覚：脊髄小脳路・楔状束小脳路） 5. 関連痛
総復習のための練習問題配布
- 第14回 総復習1：復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説
- 第15回 総復習2：復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説

■ 評価方法

筆記試験 100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

復習を必ず毎回やって、分からない内容がないようにして下さい。分からないことは自分で調べ、解決がつかない場合は遠慮なく質問して下さい。

■ 教科書

書 名：PT・OT・STのための解剖学

著者名：渡辺正仁 監修

出版社：廣川書店

書 名：ネッター解剖学アトラス

著者名：相磯貞和 訳

出版社：南江堂

書 名：消っして忘れない解剖学 要点整理ノート

著者名：井上 馨・松村譲児 編集

出版社：羊土社

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③④ / OT:CP ①②③

DP と CP の関係についてはポリシーを参照してください。

授業科目	内臓系の解剖学				
担 当 者	赤松 香奈子	国試出題基準	専門基礎Ⅰ -1- F G		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

医学の基礎である解剖学のうち内臓系について、単なる形態構造のみの学習にとどまらず、関連する器官と合わせて、その構造と機能を学ぶ

■ 到達目標

医療専門職として必要な内臓の構造と機能を、関連器官と合わせて理解する。
さらには適切な専門用語を用いて、内臓系の構造と機能を説明することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、呼吸器系；鼻腔、咽頭、喉頭
- 第2回 呼吸器系；気管、肺
- 第3回 消化器系；口腔、唾液腺、食道
- 第4回 消化器系；胃、小腸
- 第5回 消化器系；大腸、肛門
- 第6回 消化器系；肝臓、胆嚢、膵臓、腹腔内臓器の断層構造
- 第7回 泌尿器系；腎臓
- 第8回 泌尿器系；尿管、膀胱
- 第9回 生殖器系；男性生殖器
- 第10回 生殖器系；女性生殖器
- 第11回 内分泌系；脳下垂体、甲状腺、副腎
- 第12回 内分泌系；膵臓、消化管、精巣、卵巣
- 第13回 感覚器；特殊感覚器（視覚器）
- 第14回 感覚器；特殊感覚器（聴覚器、平衡感覚器、嗅覚器）
- 第15回 感覚器；特殊感覚器（味覚器）、皮膚感覚器、まとめとふり回り

■ 評価方法

筆記試験 100%とする

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業で配布する資料を教科書を用いて、予習・復習すること

■ 教 科 書

書 名：PT・OT・STのための解剖学
著者名：渡部正仁
出版社：廣川書店

■ 参考図書

書 名：イラスト解剖学
著者名：松村譲児
出版社：中外医学書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①②④ /OT:CP ①②③

DP と CP の関係については、ポリシーを参照する。

授業科目	生理学 I				
担 当 者	木村 晃大	国試出題基準	I -2-A ～ GNO		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

人体の各臓器がいかに正常の機能を維持し、1 個体としての機能を発揮しているのかを学習する。

■ 到達目標

各臓器における構造と機能を理解するだけでなく、生理学を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。

■ 授 業 計 画

第1回 細胞と内部環境 (総論)
 第2回 筋肉1 (筋、運動)
 第3回 筋肉2 (筋肉)
 第4回 神経1 (神経)
 第5回 神経2 (神経)
 第6回 末梢神経 (神経)
 第7回 自律神経
 第8回 中枢神経1 (神経、運動)
 第9回 中枢神経2 (神経)
 第10回 中枢神経3 (感覚)
 第11回 中枢神経4 (感覚)
 第12回 中枢神経5 (言語)
 第13回 代謝1 (栄養・代謝)
 第14回 代謝2 (体温調節)
 第15回 前期総括

■ 評価方法

試験 (85% : 講義中に行われた小テストもこれに含める) と提出物 (10%) ・授業態度 (5%) により評価する。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも、幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。毎授業ごとに渡される復習プリントは、講義プリントや参考書を見ながら次の講義までに完成させ、講義の最初に提出すること。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学 (第4版)
 著者名：岡田 隆夫・長岡 正範
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：標準生理学 (第8版)
 著者名：小澤 滯司 他
 出版社：医学書院

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①⑥ /OT:CP ①⑤

DP と CP の関係については、ポリシーを参照して下さい。

授業科目	生理学Ⅱ				
担 当 者	木村 晃大	国試出題基準	I -2-HIJKLMP		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

人体の各臓器がいかに正常の機能を維持し、1 個体としての機能を発揮しているのかを学習する。

■ 到達目標

各臓器における構造と機能を理解するだけでなく、生理学を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。

■ 授 業 計 画

第1回 血液1(血液)
 第2回 血液2(免疫)
 第3回 循環器1(循環)
 第4回 循環器2(循環)
 第5回 呼吸器1(呼吸)
 第6回 呼吸器2(呼吸)
 第7回 腎臓1(排尿)
 第8回 腎臓2(排尿・呼吸(酸・塩基平衡))
 第9回 消化器1(消化・吸収)
 第10回 消化器2(咀嚼・嚥下・排便)
 第11回 内分泌1
 第12回 内分泌2
 第13回 内分泌3(内分泌・生殖)
 第14回 性と生殖(生殖)
 第15回 後期総括

■ 評価方法

試験(85%：講義中に行われた小テストもこれに含める)と提出物(10%)・授業態度(5%)により評価する。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも、幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。毎授業ごとに渡される復習プリントは、講義プリントや参考書を見ながら次の講義までに完成させ、講義の最初に提出すること。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学(第4版)
 著者名：岡田 隆夫・長岡 正範
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：標準生理学(第8版)
 著者名：小澤 滯司 他
 出版社：医学書院

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①⑥ /OT:CP ①⑤

DP と CP の関係については、ポリシーを参照して下さい。

授業科目	生理学Ⅲ				
担当者	山田隆人 他（オムニバス）	国試出題基準	専門基礎Ⅰ -2-ABCGHIJKLP		
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

人体の各臓器がいかに正常の機能を維持し、1 個体としての機能を発揮しているのかを再学習する。それらを確実に理解することで、国家試験の対策を行う。

■ 到達目標

各臓器における構造と機能を理解するだけでなく、生理学を通じて生命現象を力を養い、習った知識を確実に定着させることを目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 細胞と内部環境
- 第2回 筋肉
- 第3回 神経
- 第4回 末梢神経
- 第5回 自律神経
- 第6回 中枢神経
- 第7回 代謝
- 第8回 血液
- 第9回 循環器
- 第10回 呼吸器
- 第11回 腎臓
- 第12回 消化器
- 第13回 内分泌
- 第14回 性と生殖
- 第15回 総括

■ 評価方法

試験（90％：講義中に行われた小テストもこれに含める）と提出物（5％）・授業態度（5％）により評価する

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目である、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも、幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んでください。また、授業のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習復習を行う習慣を身につけましょう。授業の前には、過去のノートやプリントを見直すなど行い、前回までの内容を確実に理解してくるようにならねばなりません。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学
出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：適宜関係資料を配布します。

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①②④ / OT:CP ①②③

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	生理学Ⅳ				
担 当 者	山田隆人 他（オムニバス）	国試出題基準	専門基礎Ⅰ -2-A ～ P		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

人体の各臓器がいかにより正常の機能を維持し、1 個体としての機能を発揮しているのかを再学習する。それらを確実に理解することで、国家試験の対策を行う。

■ 到達目標

各臓器における構造と機能を理解するだけでなく、生理学を通じて生命現象を力を養い、習った知識をより深く理解することを目標とする。

■ 授 業 計 画

- 第1回 細胞と内部環境
- 第2回 筋肉
- 第3回 神経
- 第4回 末梢神経
- 第5回 自律神経
- 第6回 中枢神経
- 第7回 代謝
- 第8回 血液
- 第9回 循環器
- 第10回 呼吸器
- 第11回 腎臓
- 第12回 消化器
- 第13回 内分泌
- 第14回 性と生殖
- 第15回 総括

■ 評価方法

試験（90％：講義中に行われた小テストもこれに含める）
提出物（5％）・授業態度（5％）により評価する

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目である、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも、幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んでください。また、授業のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習復習を行う習慣を身につけましょう。授業の前には、過去のノートやプリントを見直すなど行い、前回までの内容を確実に理解してくるようにならねばなりません。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学
出版社：医学書院

■ 参 考 図 書

書 名：適宜関係資料を配布します。

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①②④ /OT:CP ①②③

DP と CP の関係については、ポリシーを参照してください。

授業科目	生理学実習				
担当者	木村 晃大	国試出題基準	専門基礎Ⅱ -2-Bbc		
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化・運動に対する生体の反応や恒常性維持について学習する。

■ 到達目標

人の生理機能を自らの手で計測し、その結果を解析・考察する事により、人体機能のダイナミクスやホメオスタシスが維持されるメカニズムを理解する。また、この実習を通して、医療従事者として必要な姿勢や洞察力を養う。

■ 授業計画

- 第1回 実習オリエンテーション
- 第2回 講義・機器取扱い実施確認1
- 第3回 講義・機器取扱い実施確認2
- 第4回 講義・機器取扱い実施確認3
- 第5回 講義・機器取扱い実施確認4
- 第6回 実習1
- 第7回 実習2
- 第8回 実習3
- 第9回 実習4
- 第10回 実習5
- 第11回 解説(講義)
- 第12回 解説(講義)

■ 評価方法

実習態度・レポート(50%)、試験(50%)により評価する。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

出席や実習中の態度も成績評価に含みます。レポート提出は期限厳守のこと。レポート未提出は再履修とします。被験者の安全や守秘義務を守る事を念頭に、真剣に取り組むこと。

生理学実習では、参考書などを調べて考えることで、”課題を自分で解決する事が出来るようになる事”を一つの目標にしています。

また、全ての内容は国家試験に直結します。積極的に色々な参考書を調べてレポートを作成し、各項目について理解を深める様に努めて下さい。レポートの評価では①内容のオリジナリティ、②各項目について深く理解しようとする努力が認められるかどうか、を重視します。

同学年、前年度の物を問わず、レポートのコピーはカンニングと同様の行為であり、一切認められません。発覚した場合には厳罰をもって対応します。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：標準生理学(第7版)
 著者名：小澤 滯司 他
 出版社：医学書院

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①⑥ /OT:CP ①⑤

DP と CP の関係については、ポリシーを参照して下さい。

授業科目	運動学総論				
担当者	長谷川 昌士	国試出題基準	専門基礎Ⅰ -3-AacBbcd		
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

関節の基本構造と機能を学習する。運動器である上肢の運動、下肢の運動、脊柱・体幹の運動について理解を深める。

■ 到達目標

1. 運動器の構造と機能を理解する。
2. 上肢の運動，下肢の運動，脊柱・体幹の運動を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 コースオリエンテーション
- 第2回 運動のとらえ方について学習する。
- 第3回 運動の面と軸について学習する。
- 第4回 関節の基本的構造と機能について学習する。
- 第5回 肩複合体の関節構造について学習する。
- 第6回 肩複合体の筋と関節の相互作用について学習する。
- 第7回 肘関節の関節構造と機能について学習する。
- 第8回 肘関節の靱帯構造について学習する。
- 第9回 前腕の関節構造と機能について学習する。
- 第10回 前腕の運動について学習する。
- 第11回 手関節の関節構造と機能について学習する。
- 第12回 手のアーチ構造について学習する。
- 第13回 手指の関節構造と機能について学習する。
- 第14回 手指の内在筋と外在筋の相互作用について学習する。
- 第15回 上肢確認試験と振り返り
- 第16回 股関節の関節構造について学習する。
- 第17回 股関節の筋と関節の相互作用について学習する。
- 第18回 膝関節の関節構造について学習する。
- 第19回 膝関節の筋と関節の相互作用について学習する。
- 第20回 足関節の関節構造と機能について学習する。
- 第21回 足関節の運動について学習する。
- 第22回 下肢確認試験と振り返り
- 第23回 頭頸部における関節構造について学習する。
- 第24回 胸腰部における関節構造について学習する。
- 第25回 肩関節の運動について演習形式で学習する。
- 第26回 肘関節・前腕の運動について演習形式で学習する。
- 第27回 手・手指関節の運動について演習形式で学習する。
- 第28回 股関節の運動について演習形式で学習する。
- 第29回 膝・足関節の運動について演習形式で学習する。
- 第30回 最終確認試験と振り返り

■ 評価方法

筆記試験 80% 小テスト 20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業内容は必ず教科書で見直し、学習したことを授業ノートに追記しておくこと。
毎回、振り返りテスト等を実施していきます。

■ 教科書

書 名：筋骨格系のキネシオロジー
著者名：嶋田智明ほか監訳
出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書 名：基礎運動学
著者名：中村隆一、斎藤宏
出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②
DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	運動学各論				
担当者	長谷川 昌士	国試出題基準	専門基礎Ⅰ -3-ABCDE		
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

生体力学の基礎を学習する。運動学的分析手法である床反力、体重心、関節モーメントについて理解を深める。その応用として立ち上がりや歩行における運動学的分析について理解を深める。
運動学習における理論について学習し、グループにて課題に取り組む。呼吸や心臓における運動療法について学習し、その技術を演習形式にて理解を深める。筋力増強について学習し、その技術を演習形式にて理解を深める。

■ 到達目標

1. 運動学的分析手法（床反力、体重心、関節モーメント）を理解する。
2. 立ち上がりや歩行の運動学的分析を理解する。
3. 運動学習における理論について理解する。
4. 呼吸や心臓における運動療法について理解する。
5. 筋力増強、ストレッチングにおける理論および方法について理解する。

■ 授 業 計 画

- 第1回 座位姿勢について学習する。
- 第2回 立位姿勢について学習する。
- 第3回 運動学的分析手法に必要な床反力、体重心について学習する。
- 第4回 運動学的分析手法に必要な関節モーメントについて学習する。
- 第5回 運動学的分析（立ち上がり動作）について学習する。
- 第6回 運動学的分析（歩き始め）について学習する。
- 第7回 運動学的分析（歩行）の歩行周期、ケイデンス、歩幅について学習する。
- 第8回 運動学的分析（歩行）の重心移動、床反力、筋活動について学習する。
- 第9回 運動学的分析（リーチ動作）についてグループにて学習する。
- 第10回 運動学的分析（トイレ動作）についてグループにて学習する。
- 第11回 作業分析（日常活動）についてグループにて学習する。
- 第12回 運動学的分析確認試験と振り返り
- 第13回 運動学習理論について学習する。
- 第14回 運動学習理論に基づいた練習と訓練について学習する。
- 第15回 運動学習における課題にグループで取り組む。
- 第16回 呼吸における運動学について学習する。
- 第17回 換気中の筋活動について学習する。
- 第18回 呼吸リハビリテーション（呼吸法）について学習する。
- 第19回 呼吸リハビリテーション（ストレッチング）について学習する。
- 第20回 身体運動のエネルギー代謝について学習する。
- 第21回 運動処方について学習する。
- 第22回 心臓リハビリテーション（運動療法）について学習する。
- 第23回 心臓リハビリテーション（生活指導）について学習する。
- 第24回 呼吸・心臓リハビリテーション確認試験と振り返り
- 第25回 筋力増強訓練の効果について学習する。
- 第26回 筋力増強訓練の訓練方法について学習する。
- 第27回 活動を用いた筋力増強訓練の訓練方法についてグループで取り組む。
- 第28回 ストレッチングの効果について学習する。

第29回 ストレッチングの方法について学習する。
第30回 最終確認試験と振り返り

■ 評価方法

筆記試験 80% 小テスト 20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業内容は必ず教科書で見直し、学習したことを授業ノートに追記しておくこと。

■ 教科書

書 名：基礎バイオメカニクス
著者名：江原義弘、山本澄子、石井慎一郎
出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③
DP と CP の関係については、ポリシーを参照してください。

授業科目	運動学実習				
担 当 者	山田 隆人	国試出題基準	専門基礎Ⅰ -3-BC		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

運動学総論、運動学各論により習得した基礎知識・技術を踏まえ、実際に行われている動作を分析する実習を通して、作業療法の基礎となる人体の運動のしくみについて理解を深める。

■ 到達目標

基本動作を観察する視点を身につけること
 観察した動作を運動学的用語で説明することができるようになること
 観察した動作を運動学・運動力学的に分析することができるようになること

■ 授 業 計 画

第1回 コースオリエンテーション、姿勢の観察・分析①
 第2回 姿勢の観察・分析②
 第3回 姿勢の観察・分析③
 第4回 姿勢の観察・分析④
 第5回 基本動作の観察分析①
 第6回 基本動作の観察分析②
 第7回 基本動作の観察分析③
 第8回 基本動作の観察分析④
 第9回 基本動作の観察分析⑤
 第10回 応用動作の観察・分析① -1
 第11回 応用動作の観察・分析① -2
 第12回 応用動作の観察・分析② -1
 第13回 応用動作の観察・分析② -2
 第14回 応用動作の観察・分析③ -1
 第15回 応用動作の観察・分析③ -2

■ 評価方法

定期試験50%、課題の提出、レポート、報告等50%、欠席、遅刻・早退は減点の対象（一回につき、事前届出なし：－10点、事前届出あり：－2点

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義・演習の最後に、次回の予習課題および範囲について確認を行う。次回の講義、演習までに基本的な内容に関しては予習しておくこと。

■ 教 科 書

書 名：基礎バイオメカニクス
 著者名：山本澄子、石井慎一郎、江原義弘著
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書 名：観察による運動・動作分析演習ノート

著者名：藤澤宏幸、長崎浩著

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：PT・OT のための運動学テキスト

著者名：小柳磨毅、西村敦、山下協子、大西秀明著

出版社：金原出版株式会社

書 名：動作分析臨床活用講座

著者名：石井慎一郎著

出版社：メジカルビュー社

書 名：理学療法・作業療法テキスト 運動学実習

著者名：石川郎、種村留美、小島悟、小林麻衣著

出版社：中山書店

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	生涯人間発達学				
担 当 者	井口知也・吉田文・丸田千津（オムニバス）			国試出題基準	I -4-AB
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

作業療法においては、ひとのライフサイクルとそれに伴う課題や役割について理解することは、ひとの生活を考える上で重要である。乳幼児期を中心にひとの生涯の発達について講義等により学習をすすめる。

■ 到達目標

- 1) 原始反射と姿勢反応について理解する
- 2) 乳児期～青年期までの子どもの発達について理解する
- 3) 成人期・壮年期・高齢期（老年期）の発達について理解する

■ 授業計画

- 第1回 発達理論① エリクソンの発達理論（人間発達とは）
- 第2回 発達理論② ピアジェの発達理論
- 第3回 乳児の発達（0～3か月）（遊びの発達を含む）
- 第4回 乳児の発達（4～6か月）（遊びの発達を含む）
- 第5回 乳児の発達（7～12か月）（遊びの発達を含む）
- 第6回 幼児の発達（1～3歳）（遊びの発達を含む）
- 第7回 幼児の発達（4～5歳）（遊びの発達を含む）
- 第8回 学童期～青年期の発達（遊びの発達を含む）
- 第9回 青年期・成人初期・成人期の発達（余暇活動の発達含む）
- 第10回 成人初期・成人期と作業バランス
- 第11回 高齢期（老年期）への準備
- 第12回 高齢期の発達とライフサイクル
- 第13回 喪失と自己効力
- 第14回 肯定的な高齢期とは
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

* 授業で提示する課題（復習と予習、A 4 で1枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教 科 書

書 名：イラストでわかる人間発達学
 著者名：上杉雅之 監修
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①⑤

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	病理学概論				
担 当 者	柴田雅朗・奥野高裕（オムニバス）	国試出題基準	専門基礎Ⅱ -2-A		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

疾病の分類と成り立ちを総論的に学ぶ。

■ 到達目標

病気が何故、どのようにして起こるか、身体にどのような異常を引き起こすかを理解し、説明が出来る。

■ 授業計画

- 第1回 病理学の目的と概要、病因論：内因、外因の概念、疾病の分類
- 第2回 傷害に対する細胞の反応：退行性病変及び進行性病変、再生と創傷の治癒
- 第3回 炎症・感染症：炎症の定義と原因、主に炎症の経時的变化について
- 第4回 免疫：免疫系の仕組みと働き、主に免疫応答の仕組みについて
- 第5回 炎症・感染症：感染による疾患、主に感染経路と病態、病原微生物の種類について
- 第6回 循環障害：循環系の構造と機能、主に局所循環障害について
- 第7回 老化：老化と寿命、主に老化に伴って増加する疾患について
- 第8回 代謝異常：代謝障害による疾患、主に脂質代謝異常症、糖質代謝異常、ビリルビン代謝について
- 第9回 放射線障害：放射線の副作用のため出現する病変
- 第10回 先天異常・奇形： 先天異常の概念と分類や代表的な先天異常、特に染色体異常について
- 第11回 腫瘍①：腫瘍の定義と分類、腫瘍の進展形式
- 第12回 腫瘍②：腫瘍発生の原因、国試対策のための臓器別の腫瘍
- 第13回 国試対策のための病理学各論（先天性疾患、循環器系疾患、呼吸器系疾患）
- 第14回 国試対策のための病理学各論（代謝異常疾患、自己免疫疾患）
- 第15回 国試対策のための病理学練習問題とその解説

■ 評価方法

筆記試験 100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を精読して下さい。分からないことは自分で調べ、考え、解決がつかない場合は遠慮なく質問して下さい。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 病理学
 著者名：梶原博毅・横井豊治
 出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③④⑥ OT:CP ①②③⑤

DP と CP の関係は、ポリシーを参照して下さい。

授業科目	内科学Ⅰ				
担当者	藤岡 重和	国試出題基準	専門基礎Ⅱ -11-A ～ D・abd		
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患の生体内部の障害について、その病因、病態を詳解し、疫学、臨床像、検査と診断、治療、評価、予後などについて幅広く学習する。

■ 到達目標

1. 代表的な循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患について、疫学、予後、病因、病態、臨床像、評価、検査（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療法を説明できる。
2. 循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患患者のリハビリテーション留意事項を説明できる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 内科学総論
- 第2回 循環器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第3回 循環器疾患（1） 高血圧、虚血性心疾患
- 第4回 循環器疾患（2） 弁膜症、先天性心疾患、心筋疾患
- 第5回 循環器疾患（3） 心不全、不整脈、その他
- 第6回 循環器疾患（4） 大動脈疾患、末梢動脈疾患、静脈、リンパ管疾患
- 第7回 呼吸器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第8回 呼吸器疾患（1） 感染性肺疾患、アレルギー性肺疾患
- 第9回 呼吸器疾患（2） 慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患
- 第10回 呼吸器疾患（3） 肺腫瘍、肺循環障害
- 第11回 呼吸器疾患（4） 呼吸不全、呼吸調節の異常、胸膜疾患、その他
- 第12回 腎、泌尿器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第13回 腎、泌尿器疾患（1） 糸球体疾患、全身性疾患と腎障害
- 第14回 腎、泌尿器疾患（2） 腎不全、電解質異常、泌尿器疾患、その他
- 第15回 総復習（国家試験対策）

■ 評価方法

定期試験 80% 小テスト 10% 出席、態度 10%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
 次回授業までに、前回の授業内容を十分に復習しておいてください。
 国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。
 発展的内容を探究したい時、理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。

■ 教 科 書

書 名：ナースの内科学 第9版
 著者名：奈良信雄
 出版社：中外医学社

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版

著者名：大成浄志

出版社：医学書院

書 名：内科学

著者名：浅野嘉延

出版社：南山堂

■ 留意事項

内科学を学習するにあたって、解剖学、生理学、病理学をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。感染症については、三年生後期の感染症学において詳しく学習します。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③⑥ /OT:CP ①②⑤

DP と CP の関係については、ポリシーを参照してください。

授業科目	内科学Ⅱ				
担当者	藤岡 重和	国試出題基準	専門基礎Ⅱ -11-A～E・a～i		
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患の代表的内科疾患について、病因、病態、疫学、臨床像、検査、診断、治療法、予後を学習する。

■ 到達目標

1. 代表的な消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患について、疫学、予後、病因、病態、臨床像、評価、検査（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療法を説明できる。
2. 消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患患者のリハビリテーション留意事項を説明できる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 消化器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第2回 消化器疾患（1）食道疾患、胃の疾患
- 第3回 消化器疾患（2）小腸、大腸の疾患
- 第4回 消化器疾患（3）肝疾患
- 第5回 消化器疾患（4）胆道疾患、膵疾患、その他
- 第6回 代謝、内分泌総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第7回 代謝、内分泌疾患（1）糖尿病、脂質代謝異常、栄養障害、その他
- 第8回 代謝、内分泌疾患（2）下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾
- 第9回 免疫、アレルギー総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第10回 免疫、アレルギー疾患（1）アレルギー疾患
- 第11回 免疫、アレルギー疾患（2）自己免疫疾患
- 第12回 血液、造血器疾患（1）赤血球系疾患
- 第13回 血液、造血器疾患（2）白血球系疾患、出血性疾患
- 第14回 リハビリテーションと内科臨床について
- 第15回 総復習（国家試験対策）

■ 評価方法

定期試験 80% 小テスト 10% 出席、態度 10%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
 次回授業までに、前回の授業内容を十分に復習しておいてください。
 国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。
 発展的内容を探究したい時、理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。

■ 教 科 書

書 名：ナースの内科学 第9版
 著者名：奈良信雄
 出版社：中外医学社

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学

著者名：大成浄志

出版社：医学書院

書 名：内科学

著者名：浅野嘉延

出版社：南山堂

■ 留意事項

内科学を学習するにあたって、解剖学、生理学、病理学をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。感染症については、三年生後期の感染症学において詳しく学習します。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③⑥ /OT:CP ①②⑤

授業科目	整形外科科学Ⅰ				
担当者	田中稔・大山洋平（オムニバス）	国試出題基準	専門基礎Ⅱ -6・9・10-A～C		
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

運動機能障害から日常生活動作を障害する原因となる，整形外科疾患について病因，病態生理，診断，治療法，予後について学習する。

■ 到達目標

まず，運動器の障害に関する基礎的な理解を深めた上で，各分野ごと，それぞれの疾患について，病因，病態生理，治療法を理解する。

さらに，その知識を理学療法士としてどのように臨床につなげていくか理解する。

■ 授 業 計 画

- 第1回 整形外科総論（診断、治療）
- 第2回 整形外科疾患総論、各論（代表的なもの）
- 第3回 整形外科疾患総論、各論（代表的なもの）
- 第4回 整形外科疾患総論、各論（外傷と変形性関節症を中心に）
- 第5回 軟部組織・骨・関節の感染症
- 第6回 炎症性関節疾患（関節リウマチとその類縁疾患・慢性関節疾患等）
- 第7回 骨端症・骨壊死・骨・軟部腫瘍
- 第8回 先天性疾患・骨系統疾患
- 第9回 神経・筋疾患，代謝性疾患
- 第10回 変形性関節症
- 第11回 肩・肘・手関節と手
- 第12回 頸・胸・腰椎
- 第13回 股・膝・足関節と足
- 第14回 外傷（骨折，捻挫，脱臼）
- 第15回 外傷（脊椎・脊髄損傷，末梢神経損傷）

■ 評価方法

筆記試験：80%，小テスト：20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業開始時に知識の確認テストを実施する。そのため，事前に前回授業の復習をしておくこと。

■ 教 科 書

書 名：標準整形外科学
 著者名：監修：内田淳正，編集：中村利孝ら
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科科学
 著者名：立野勝彦
 出版社：医学書院

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③④⑥ /OT:CP ①②③⑤
DP と CP との関連はポリシー参照

授業科目	整形外科学Ⅱ				
担 当 者	佐藤睦美・境隆弘・山田隆人 (オムニバス)	国試出題基準	専門基礎Ⅱ-6-ABCDE		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

整形外科学Ⅰで学んだ内容をもとに、治療場面でよく扱う疾患を中心に理解を深める

■ 到達目標

疾患についての基礎的知識を確実にする

■ 授 業 計 画

- 第1回 ガイダンス、骨折総論
- 第2回 肩関節 1
- 第3回 肩関節 2
- 第4回 肘・前腕・手関節
- 第5回 手
- 第6回 股関節 1
- 第7回 股関節 2
- 第8回 膝関節 1
- 第9回 膝関節 2
- 第10回 下腿・足関節・足部 1
- 第11回 下腿・足関節・足部 2
- 第12回 脊椎
- 第13回 脊椎
- 第14回 関節リウマチ
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

平常点（提出課題・小テストなど）：20%， 筆記試験：80%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

整形外科学Ⅰで学んだ内容を見直してから講義に出席すること。

■ 教 科 書

- 書 名： Visual Navi 整形外科学
- 著者名： 岡田 恭司
- 出版社： メジカルビュー社
- 書 名： PT・OTのための画像診断マニュアル
- 著者名： 百島祐貴
- 出版社： 医学教育出版社

■ 参考図書

書 名： 標準整形外科学
著者名： 松野丈夫, 中村利孝 (編)
出版社： 医学書院

書 名： リハビリテーションのための画像の読み方
著者名： 本間光信, 高橋仁美
出版社： メジカルビュー社

■ 留意事項

講師の都合により、講義の順番が前後することがあります。
スケジュールは別途連絡しますので、必ず確認をして下さい。

■ ポリシー該当項目

CP:PT ①③④⑤ /OT:CP ①②③⑤
DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	臨床神経学Ⅰ				
担当者	林部 美紀			国試出題基準	Ⅱ -8,9-AB
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

神経内科疾患は、診断名と臨床症状を対応させるような理解ではなく、脳の変性部位と臨床症状を対応させて理解することが鉄則です。つまり、疾患が違っていても脳の変性部位が同じなら、同じ臨床症状が生じるということです。神経内科疾患では、脳・神経各部の働きと神経路を理解し、そこが障害されたらどのような症候を呈するのかを理解することが重要です。この講義では、神経機能解剖学を理解したのち、神経症候のメカニズムと症状について解説します。

■ 到達目標

運動や感覚に係る神経機能解剖学を理解し、中枢神経のどこが障害されればどのような臨床像になるのか、そのメカニズムを理解できるようにする。

■ 授業計画

- 第1回 神経機能解剖1：大脳皮質の機能局在
- 第2回 神経機能解剖2：皮質脊髄路
- 第3回 神経機能解剖3：皮質基底核ループ
- 第4回 神経機能解剖4：小脳回路網
- 第5回 神経機能解剖5：感覚路系
- 第6回 神経機能解剖6：視床
- 第7回 神経機能解剖7：脳神経
- 第8回 神経機能解剖8：末梢神経系
- 第9回 意識障害のメカニズムと臨床症状
- 第10回 錐体外路徴候のメカニズムと臨床症状
- 第11回 運動麻痺のメカニズムと臨床症状
- 第12回 運動失調のメカニズムと臨床症状
- 第13回 認知機能障害のメカニズムと臨床症状
- 第14回 自律神経障害／嚥下障害のメカニズムと臨床症状
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

単位認定資格者に対し、定期試験を80%、小テスト20%として評価します。合格は60%とします。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

その日の講義内容は必ずその日のうちに復習してください。その日の講義で用いた図表を見て、その日の講義内容が想起できるようにしてください。少なくとも30分の復習時間は必要です。

■ 教科書

書 名：病気がみえる
 著者名：医療情報科学研究所 / 編集
 出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書 名：神経解剖学講義ノート

著者名：寺島俊雄

出版社：金芳堂

書 名：脳の機能解剖と画像診断

著者名：真柳佳昭 / 訳

出版社：医学書院

書 名：脳卒中ビジュアルテキスト

著者名：高木康行・他

出版社：医学書院

書 名：メディカルスタッフのための神経内科学

著者名：河村満 / 編著

出版社：医歯薬出版

書 名：神経内科学テキスト

著者名：江藤文夫・他 / 編

出版社：南江堂

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ④⑥

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	臨床神経学Ⅱ				
担当者	岩田 篤	国試出題基準		Ⅱ -8,9-ABC	
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

神経内科疾患は、診断名と臨床症状を対応させるような理解ではなく、脳の変性部位と臨床症状を対応させて理解することが鉄則です。つまり、疾患が違っていても脳の変性部位が同じなら、同じ臨床症状が生じるということです。神経内科疾患では、脳・神経各部の働きと神経路を理解し、そこが障害されたらどのような症候を呈するのかを理解することが重要です。この講義では、臨床神経学Ⅰの講義内容を踏まえた上で、神経内科疾患の臨床症状について解説します。

■ 到達目標

神経内科疾患の概要を理解し、特徴的な臨床症状がなぜ生じるのかを、神経機能解剖学的に説明できるようにする。さらに、理学療法・作業療法と関連し、どのようなメカニズムで障害が改善するのかも考察できるようにする。

■ 授業計画

- 第1回 脳血管障害の病理と神経症候のとりえ方Ⅰ
- 第2回 脳血管障害の病理と神経症候のとりえ方Ⅱ
- 第3回 パーキンソン病およびその他の錐体外路疾患の病理と神経症候のとりえ方
- 第4回 脊髄小脳変性症の病理と神経症候のとりえ方
- 第5回 多発性硬化症・ギランバレー症候群の病理と神経症候のとりえ方
- 第6回 その他ニューロパチーの病理と神経症候のとりえ方
- 第7回 筋萎縮性側索硬化症の病理と神経症候のとりえ方
- 第8回 重症筋無力症・ポリオの病理と神経症候のとりえ方
- 第9回 筋疾患の病理と神経症候のとりえ方
- 第10回 頭部外傷／てんかんの病理と神経症候のとりえ方
- 第11回 脳腫瘍の病理と神経症候のとりえ方
- 第12回 感染性疾患／中毒性疾患／栄養欠乏性疾患の病理と神経症候のとりえ方
- 第13回 脳血管障害の国試対策
- 第14回 神経変性疾患・他の国試対策
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

単位認定資格者に対し、定期試験を80%、小テスト20%として評価します。合格は60%とします。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

その日の講義内容は必ずその日のうちに復習してください。その日の講義で用いた図表を見て、その日の講義内容が想起できるようにしてください。少なくとも30分の復習時間は必要です。

■ 教科書

書 名：病気がみえる
 著者名：医療情報科学研究所／編集
 出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書 名：神経解剖学講義ノート

著者名：寺島俊雄

出版社：金芳堂

書 名：脳の機能解剖と画像診断

著者名：真柳佳昭 / 訳

出版社：医学書院

書 名：脳卒中ビジュアルテキスト

著者名：高木康行・他

出版社：医学書院

書 名：メディカルスタッフのための神経内科学

著者名：河村満 / 編著

出版社：医歯薬出版

書 名：神経内科学テキスト

著者名：江藤文夫・他 / 編

出版社：南江堂

■ 留意事項

講義の中で、実際の患者データ、VTR、脳画像などを提示します。必ず守秘してください。

本講義は、臨床神経学Ⅰを基盤に成り立つ科目です。必ず、臨床神経学Ⅰの内容を理解しておいてください。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ④⑥

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	精神医学				
担 当 者	高橋 清武	国試出題基準	専門基礎Ⅱ -5-ABC		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

主な精神疾患の症状・診断・治療について学ぶ

■ 到達目標

精神医学に関心を持ち、基本的な知識を身につける。

■ 授業計画

- 第1回 精神医学総論 精神医学とは 精神疾患の分類
- 第2回 精神医学総論 診断・検査
- 第3回 精神医学総論
- 第4回 統合失調症
- 第5回 気分障害
- 第6回 神経症性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害
- 第7回 パーソナリティ障害
- 第8回 アルコール、薬物関連障害
- 第9回 器質性精神障害
- 第10回 児童青年期精神障害：精神遅滞、発達障害
- 第11回 摂食障害
- 第12回 てんかん
- 第13回 睡眠障害
- 第14回 治療
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

筆記試験90% 出席・受講態度10%（欠席や遅刻はマイナス評価）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

当日受講した該当項目については、テキストを読むなどして、より理解を深めておくこと

■ 教 科 書

書 名：精神医学マイテキスト
 著者名：西川隆・中尾和久・三上章良
 出版社：金芳堂

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①②④ /OT:CP ①②③
 DP と CP の関係については、ポリシーを参照してください。

授業科目	臨床運動学				
担当者	島 雅人	国試出題基準	専門基礎Ⅱ -3-BCabjDH		
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

運動学総論、運動学各論、運動学実習で修得した知識を踏まえ、疾病や外傷により生じる心身機能・身体構造の変化や活動の変化について学ぶ。実際の運動を教材等で観察し、模倣しながら、障害のある対象者の運動特性を学ぶ。

■ 到達目標

疾病や外傷により生じる心身機能・身体構造の変化、運動・活動を理解できる。
障がい者の姿勢や動作を観察し、その特徴や要因を検討することができる。
機能障害と能力障害の関連を理解できる

■ 授 業 計 画

- 第1回 コース・ガイダンス：講義の進め方、評価の他、これまでに学んだ基礎運動学との関連性を学ぶ
関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第2回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第3回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第4回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第5回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第6回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第7回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第8回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第9回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第10回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第11回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第12回 疾患（中枢神経障害、神経筋疾患 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第13回 疾患（中枢神経障害、神経筋疾患 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第14回 疾患（中枢神経障害、神経筋疾患 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第15回 本講義で学んだことについて復習、再確認を行う

■ 評価方法

定期試験：80％ 小テスト20％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

第2回～第5回においては、各関節の構造、機能をあらかじめ学習しておくこと。
第6回～11回においては、各関節に作用する筋について、起始、停止、作用、支配神経をあらかじめ学習しておくこと。
第12回～14回においては、特に中枢神経系の障害について、その特徴を学習しておくこと。
小テストを実施し、定期的に理解状況を確認する。毎回の授業で学習したことを復習し、小テストに臨んでください。
実施した内容について理解が不十分であった場合は、次の授業までに質問に来て理解を深めてください。

■ 教 科 書

書 名：PT・OTのための運動学テキスト：基礎・実習・臨床
著者名：小柳 磨毅 ほか
出版社：金原出版

■ 参考図書

書 名：ブルンストローム臨床運動学 原著第6版

著者名：Peggy A.Houglum

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：カラー版 筋骨格系のキネシオロジー原著第2版

著者名：Donald A.Neumann 著 / 嶋田智明ほか 監訳

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT: ①③④⑥⑦ / OT: ①②③④⑤⑦

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	臨床検査医学				
担 当 者	藤岡重和・和田晋一・津田泰宏・ 小山光博・川西昌浩（オムニバス）	国試出題基準	専門基礎Ⅱ -2- B a～d		
学 科 名	理学療法学専攻（必修）	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻（選択）	開講時期	前期	選択・必修	必修 / 選択

■ 内 容

リハビリテーションに携わる医療専門職には、各種画像診断、生理機能検査学の基本的理解が必要である。本講では、放射線医学の基礎、人体各部位のエックス線、CT、MRI の検査方法と画像診断を学習する。生理機能検査学では、心電図、呼吸機能検査、血液ガス検査、脳波、筋電図検査、超音波検査について、その臨床的意義、情報収集技術、結果の解析、評価法を学習する。

■ 到達目標

1. X 線、CT、MRI の検査方法と、胸部、腹部、頭部画像診断を説明できる。
2. 心電図、呼吸機能検査、脳波、筋電図検査の臨床的意義、情報収集技術、評価法を説明できる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 生理機能検査学総論、生理機能検査学各論（1）心電図、運動負荷検査
藤岡
- 第2回 生理機能検査学各論（2）心電図、運動負荷心電図演習（不整脈、心筋虚血等）
藤岡
- 第3回 生理機能検査学各論（3）呼吸機能検査、血液ガス検査
和田
- 第4回 生理機能検査学各論（4）脳波検査、筋電図検査
和田
- 第5回 放射線医学総論、画像診断各論（1）胸部 X 線、CT 検査
小山
- 第6回 画像診断各論（2）腹部 X 線、CT、超音波検査
津田
- 第7回 画像診断各論（3）頭部 X 線、CT、MRI 検査、脳血管造影検査
川西
- 第8回 画像診断各論（4）頭部 CT、MRI 読影演習
川西

■ 評価方法

定期試験 80% 演習 10% 出席、態度 10%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

臨床検査医学を学習するにあたって、各領域の解剖学、生理学をよく理解しておく必要があります。必ず事前学習（解剖学、生理学の復習）をしておいてください。また、内科、臨床神経学の代表的疾患についての基礎的理解が必要です。該当領域の代表的疾患についても十分復習しておいてください。

■ 教 科 書

書 名：PT・OT のための画像診断マニュアル
著者名：百島祐貴
出版社：医学教育出版社

■ 参考図書

書 名：生理機能検査学

著者名：大久保善朗

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③⑥ /OT: ①②⑤

D P と C P の関係については、ポリシーを参照してください。

授業科目	小児科学				
担 当 者	早島 禎幸 藪中 良彦（オムニバス）			国家出題基準	Ⅱ -10
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法士・作業療法士として必要な子どもの病気の知識を学習する。

■ 到達目標

子どもの疾患に合わせて適切な理学療法及び作業療法を提供するために必要な子どもの病気の原因や病態を知ることが、この科目の目標である。

■ 授業計画

- 第1回 I. 発達障害について（早島禎幸）
 第2回 II. 新生児・未熟児疾患について（藪中良彦）
 第3回 III. 乳幼児健診・予防接種について（早島禎幸）
 第4回 IV. 神経疾患（特にてんかん）／内分泌・代謝疾患について（早島禎幸）
 第5回 V. 先天性異常と遺伝子病について（藪中良彦）
 第6回 VI. 脊髄性疾患／末梢神経疾患／筋疾患／骨・関節疾患について（藪中良彦）
 第7回 VII. 感染症／免疫・アレルギー疾患、膠原病について（早島禎幸）
 第8回 VIII. 循環器疾患について（藪中良彦）

■ 評価方法

出席（欠席－4点、遅刻／早退－2点、居眠り－1点）
 予習課題（20点）、定期試験（80点）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

次の授業の範囲を明示するので、その範囲を予習し、3つ適切な質問を考え、Moodle を通して事前に提出することで予習を促す。

■ 教 科 書

標準理学療法学・作業療法学 小児科学，富田豊 編集，医学書院

■ 参考図書

最新育児小児病学，黒田泰弘 監修，南江堂
 小児・思春期診療 最新マニュアル，五十嵐隆 監修，日本医師会

■ 留意事項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。

■ ポリシー該当項目

PT：CP ①③④⑥
 OT:CP ①②③⑤
 DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

3年次で学習する「小児期理学療法治療学」及び「発達障害治療学Ⅰ，Ⅱ」で学ぶ障害のある子どもたちへの理学療法治療及び作業療法治療を理解するための基礎となる小児期の疾患を、「小児科学」でしっかりと学習する。

授業科目	老年医学				
担 当 者	藤岡重和・大中玄彦・森田婦美子・藤本宜正（オムニバス）	国試出題基準	Ⅱ -13-A ～ E a ～ i		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

老年期にみられる障害の特性を理解するため、老化のメカニズムや高齢者の生理的特性を学習する。老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化、高齢者を取りまく地域の問題についても幅広く解説する。また、加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害について、その疫学、予後、病態、臨床像、評価、検査（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療の基礎的な学習する。

■ 到達目標

1. 加齢に伴う生理機能の変化、老年症候群、老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化を説明できる。
2. 加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害について、その疫学、予後、症候、評価、検査（画像、生理機能検査を含む）、診断、治療を説明できる。

■ 授 業 計 画

第1回老年医学総論 (1) 老化と老年病の考え方 藤岡
 第2回老年医学総論 (2) 加齢に伴う生理機能変化 藤岡
 第3回老年医学総論 (3) 高齢者に多い症候とそのアセスメントについて 森田
 第4回老年医学総論 (4) 老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化と高齢者へのアプローチ 森田
 第5回老年医学総論 (5) 高齢者の医療、介護、福祉、ターミナルケア 森田
 第6回老年医学各論 (1) 精神機能の老化と精神疾患（うつ状態、せん妄、認知症、その他） 森田
 第7回老年医学各論 (2) 心、血管機能の老化と循環器疾患（心不全、末梢循環障害、その他） 大中
 第8回老年医学各論 (3) 呼吸機能の老化と呼吸器疾患（誤嚥性肺炎、閉塞性肺疾患、その他） 大中
 第9回老年医学各論 (4) 消化機能の老化と消化器疾患（摂食、嚥下障害、消化器癌、その他） 大中
 第10回老年医学各論 (5) 腎機能、内分泌、代謝機能の老化と疾患（腎不全、糖尿病、その他） 大中
 第11回老年医学各論 (6) 加齢による免疫機能の変化、高齢者の感染症 大中
 第12回老年医学各論 (7) 骨、運動機能の老化と疾患（骨粗鬆症、骨折他）、感覚機能の老化と疾患 藤岡
 第13回泌尿器科総論（解剖と生理、診断と検査法）、代表的な泌尿器疾患（尿路感染症、尿路結石症） 藤本
 第14回代表的な泌尿器疾患（尿路・生殖器の腫瘍、神経因性膀胱） 藤本
 第15回総復習（国家試験対策） 藤岡

■ 評価方法

定期試験 80% 小テスト 10% 出席、態度 10%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

次回の授業までに、前回の授業内容を十分に復習しておいてください。
 国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容をを中心に授業を展開します。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 老年学 第4版
 著者名：大内尉義
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：新老年学 第3版

著者名：大内 尉義、秋山 弘子、折茂 肇

出版社：東京大学出版社

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③⑥ /OT:CP ①②⑤

DP と CP の関係については、ポリシーを参照してください。

授業科目	作業療法概論				
担当者	辻 郁			国試出題基準	I -1A,B,2,3
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

作業療法は人生活機能の改善・向上や活動性の発達・拡大を通して、社会参加の可能性を引き出す働きかけをする。

作業療法の基礎概念や歴史的変遷、実際、専門用語などについて講義や演習で学ぶ

■ 到達目標

- 1) 作業療法士の活動内容を知る
- 2) 作業療法の歴史と理論的背景を知る
- 3) 作業療法の専門用語がわかる

■ 授業計画

- 第1回作業療法士の活動内容、職域
- 第2回作業療法の定義 関連法規
- 第3回作業療法の歴史的変遷
- 第4回作業療法の理論的背景
- 第5回国際障害分類
- 第6回作業療法の実際
- 第7回作業療法の実際
- 第8回作業療法の実際
- 第9回作業療法の研究
- 第10回作業療法の管理運営
- 第11回作業療法の今後の課題
- 第12回作業療法専門用語しらべ
- 第13回作業療法専門用語しらべ
- 第14回作業療法専門用語しらべ
- 第15回作業療法専門用語集作成

■ 評価方法

授業ノート（20%）、小テスト（20%）、定期試験（60%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業終了後のノート整理、小テストの事前学習に十分取り組むこと

■ 教科書

書 名：標準作業療法学・専門分野「作業療法概論」
出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：作業療法学全書・改訂版「作業療法評価学」
出版社：協同医書出版社

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①③⑦

授業科目	作業療法総合演習 I				
担 当 者	井口知也・OT 専任教員 (オムニバス)	国試出題基準	Ⅱ -3-BCE, G Ⅲ -1, 2-E		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修

■ 内 容

リーダーシップとは作業療法士にとって必要な集団機能の一つである。それは広い意味で複数の個人を一定の目標達成に一致して貢献せしめる作用を指すが、狭い意味ではその作用がメンバーの自発性の刺激を通じて機能する場合をいう。作業療法総合演習では、相互関係学習システム（Learning Group System : LG）を用いて、同学年のみならず学年を越えて先輩と後輩が相互に関係する学生間コミュニケーションネットワーク演習を経験することでリーダーシップ力を身につける。特に作業療法総合演習Ⅰでは、演習を通じて積極的かつ主体的な大学生活を送り、学生や学年間の情報交換・交流を図ることや大阪保健医療大学作業療法学専攻の独自の自己啓発活動を学ぶ。

■ 到達目標

- ①上級生からの指導を通じてリーダーシップに必要な知識と技術を学ぶことができる。
- ②学生間コミュニケーションネットワーク演習を通じて学生や学年間の情報交換・交流ができる。
- ③積極的かつ主体的な大学生活を送ることができる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学生間コミュニケーションネットワーク演習1-①演習課題の決定
- 第3回 学生間コミュニケーションネットワーク演習1-②進行スケジュールと方法の決定
- 第4回 学生間コミュニケーションネットワーク演習1-③課題の実施
- 第5回 学生間コミュニケーションネットワーク演習1-④課題の実施
- 第6回 学生間コミュニケーションネットワーク演習1-⑤取り組みと結果をまとめて報告の準備をする
- 第7回 報告会①（演習課題への取り組みと結果を報告する）
- 第8回 演習課題に対するフィードバック①
- 第9回 学生間コミュニケーションネットワーク演習2-①演習課題の決定
- 第10回 学生間コミュニケーションネットワーク演習2-②進行スケジュールと方法の決定
- 第11回 学生間コミュニケーションネットワーク演習2-③課題の実施
- 第12回 学生間コミュニケーションネットワーク演習2-④課題の実施
- 第13回 学生間コミュニケーションネットワーク演習2-⑤取り組みと結果をまとめて報告の準備をする
- 第14回 報告会②（演習課題への取り組みと結果を報告する）
- 第15回 演習課題に対するフィードバック②
- 第16回 特別講義①
- 第17回 学生間コミュニケーションネットワーク演習3-①テーマ課題の決定
- 第18回 学生間コミュニケーションネットワーク演習3-②テーマ課題のディスカッション
- 第19回 学生間コミュニケーションネットワーク演習3-③テーマ課題のディスカッション
- 第20回 学生間コミュニケーションネットワーク演習3-④ディスカッションのまとめと報告の準備をする
- 第21回 報告会③（テーマ課題への取り組みと結果を報告する）
- 第22回 テーマ課題に対するフィードバック①
- 第23回 特別講義②
- 第24回 学生間コミュニケーションネットワーク演習4-①テーマ課題の決定
- 第25回 学生間コミュニケーションネットワーク演習4-②テーマ課題のディスカッション
- 第26回 学生間コミュニケーションネットワーク演習4-③テーマ課題のディスカッション

- 第27回 学生間コミュニケーションネットワーク演習4-④ディスカッションのまとめと報告の準備をする
- 第28回 報告会③（テーマ課題への取り組みと結果を報告する）
- 第29回 テーマ課題に対するフィードバック①
- 第30回 まとめ

■ 評価方法

毎回提出するレポート50%、平常点（演習への取り組みなど）50%、欠席、遅刻・早退は減点の対象（一回につき、事前届出なし：－10点、事前届出あり：－2点）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業中に重要ポイントとして指摘した箇所は、次の授業までに復習をする。
また、次回の演習に必要な情報は予習を行い、資料を準備する。

■ 教科書

書名：適宜資料を配布

■ 参考図書

書名：適宜資料を配布

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ⑥⑦

授業科目	作業療法総合演習Ⅱ				
担 当 者	井口知也・OT 専任教員 (オムニバス)	国試出題基準	Ⅱ -3-BCE, G Ⅲ -1, 2-E		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 年
		開講時期	通年	選択・必修	必修

■ 内 容

リーダーシップとは作業療法士にとって必要な集団機能の一つである。それは広い意味で複数の個人を一定の目標達成に一致して貢献せしめる作用を指すが、狭い意味ではその作用がメンバーの自発性の刺激を通じて機能する場合をいう。作業療法総合演習では、相互関係学習システム（Learning Group System : LG)を用いて、同学年のみならず学年を越えて先輩と後輩が相互に関係する学生間コミュニケーションネットワーク演習を経験することでリーダーシップ力を身につける。特に作業療法総合演習Ⅱでは、演習を通じて積極的かつ主体的な大学生活を送り、学生や学年間の情報交換・交流を図ることや大阪保健医療大学作業療法学専攻の独自の自己啓発活動を学ぶ。そして、上級生からの指導を通じて実践者としての役割と下級生に指示をして演習を進行させる役割を担う。

■ 到達目標

- ①上級生からの指導を通じてリーダーシップに必要な知識と技術を学ぶことができる。
- ②下級生に指導をすることでリーダーシップに必要な知識と技術を学ぶことができる。
- ③学生間コミュニケーションネットワーク演習を通じて学生や学年間の情報交換・交流ができる。
- ④積極的かつ主体的な大学生活を送ることができる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学生間コミュニケーションネットワーク演習1-①演習課題の決定
- 第3回 学生間コミュニケーションネットワーク演習1-②進行スケジュールと方法の決定
- 第4回 学生間コミュニケーションネットワーク演習1-③課題の実施
- 第5回 学生間コミュニケーションネットワーク演習1-④課題の実施
- 第6回 学生間コミュニケーションネットワーク演習1-⑤取り組みと結果をまとめて報告の準備をする
- 第7回 報告会①（演習課題への取り組みと結果を報告する）
- 第8回 演習課題に対するフィードバック①
- 第9回 学生間コミュニケーションネットワーク演習2-①演習課題の決定
- 第10回 学生間コミュニケーションネットワーク演習2-②進行スケジュールと方法の決定
- 第11回 学生間コミュニケーションネットワーク演習2-③課題の実施
- 第12回 学生間コミュニケーションネットワーク演習2-④課題の実施
- 第13回 学生間コミュニケーションネットワーク演習2-⑤取り組みと結果をまとめて報告の準備をする
- 第14回 報告会②（演習課題への取り組みと結果を報告する）
- 第15回 演習課題に対するフィードバック②
- 第16回 特別講義①
- 第17回 学生間コミュニケーションネットワーク演習3-①テーマ課題の決定
- 第18回 学生間コミュニケーションネットワーク演習3-②テーマ課題のディスカッション
- 第19回 学生間コミュニケーションネットワーク演習3-③テーマ課題のディスカッション
- 第20回 学生間コミュニケーションネットワーク演習3-④ディスカッションのまとめと報告の準備をする
- 第21回 報告会③（テーマ課題への取り組みと結果を報告する）
- 第22回 テーマ課題に対するフィードバック①
- 第23回 特別講義②
- 第24回 学生間コミュニケーションネットワーク演習4-①テーマ課題の決定
- 第25回 学生間コミュニケーションネットワーク演習4-②テーマ課題のディスカッション

- 第26回 学生間コミュニケーションネットワーク演習4-③テーマ課題のディスカッション
第27回 学生間コミュニケーションネットワーク演習4-④ディスカッションのまとめと報告準備をする
第28回 報告会③（テーマ課題への取り組みと結果を報告する）
第29回 テーマ課題に対するフィードバック①
第30回 まとめ

■ 評価方法

毎回提出するレポート50%、平常点（演習への取り組みなど）50%、欠席、遅刻・早退は減点の対象（一回につき、事前届出なし：-10点、事前届出あり：-2点）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業中に重要ポイントとして指摘した箇所は、次の授業までに復習をする。
また、次回の演習に必要な情報は予習を行い、資料を準備する。

■ 教科書

書名：適宜資料を配布

■ 参考図書

書名：適宜資料を配布

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ⑥⑦

授業科目	作業分析学				
担 当 者	足立一・林部美紀（オムニバス）			国試出題基準	I -3-AC
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

作業分析の方法を講義し，様々な作業分析の演習を行う。
※教科書は必ず購入し、持参すること。

■ 到達目標

作業活動を構造的に捉え，分析することができる。

■ 授 業 計 画

第1回 オリエンテーション 工程分析
第2回 動作分析
第3回 運動と姿勢の変化
第4回 運動方向の表現の仕方
第5回 感覚・知覚・認知の分析
第6回 工程・動作・運動・姿勢の分析
第7回 作業とは？作業療法の展開 創作活動紹介
第8回 創作活動紹介
第9回 ADL 課題分析
第10回 ADL 課題分析
第11回 IADL 課題分析の演習
第12回 IADL 課題分析の演習
第13回 メイクアップ動作の体験・分析（林部先生）
第14回 メイクアップ動作の体験・分析（林部先生）
第15回 メイクアップ動作の体験・分析（林部先生）

■ 評価方法

レポート課題100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

他の科目で学習した内容が活かせる授業となるため、授業の進行に合わせてその予習復習を促す。授業時間内で完成できなかったレポートは宿題とする。

■ 教 科 書

書 名：標準作業療法学
著者名：小林夏子 福田恵美子 編集
出版社：医学書院
.....
書 名：医歯薬出版株式会社
著者名：古川宏 監修
出版社：作業活動 実習マニュアル

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③⑤⑦

授業科目	集団作業療法学				
担 当 者	足立一 他（オムニバス）			国試出題基準	I -2, 3
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

文献を用いた講義。作業療法実践報告。演習。

■ 到達目標

様々な分野における集団作業療法実践に必要な基本的技術を習得する

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 集団とは？基礎理論
- 第2回 回復期リハにおける集団療法 文献レビュー
- 第3回 介護老人保健施設における集団療法 文献レビュー
- 第4回 摂食障害に対する集団療法 文献レビュー
- 第5回 疼痛緩和ケアにおける集団療法 文献レビュー
- 第6回 SST と集団技法 文献レビュー
- 第7回 介護保険施設における集団作業療法（北田）
- 第8回 身体障害領域における集団作業療法（大平）
- 第9回 精神障害領域における集団作業療法（南）
- 第10回 発達障害領域における集団作業療法（楠本）
- 第11回 集団作業療法計画立案
- 第12回 集団作業療法計画立案
- 第13回 集団作業療法（演習）
- 第14回 集団作業療法（演習）
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

レポート課題100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業の進行に合わせて予習復習を促す。授業時間内で完成できなかったレポートは宿題とする。

■ 教 科 書

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③④⑦

授業科目	作業療法評価学概論				
担当者	辻 郁			国試出題基準	Ⅱ -1,2,3 A
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

主として講義により，作業療法評価の枠組みを学習する
一部，演習によって生活機能の把握方法を学ぶ

■ 到達目標

- 1) 作業療法評価とは何かを説明できる
- 2) 作業療法評価の過程を説明できる
- 3) 作業療法評価における記録と責任について説明できる
- 4) 面接，観察による情報収集のポイントがわかる
- 5) 意識やバイタルサインについて理解する

■ 授業計画

- 第1回 作業療法と評価 評価とは
- 第2回 記録と報告の意義と特徴
- 第3回 作業療法の効果判定
- 第4回 面接による情報収集
- 第5回 面接による情報収集
- 第6回 観察による情報収集
- 第7回 観察による情報収集
- 第8回 意識の評価，バイタルサイン

■ 評価方法

筆記試験100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

テキストの該当ページを必ず読みおおよその理解をしておくこと
授業終了後はノートを整理し直し，わからないことや興味があることは調べておくこと

■ 教 科 書

書 名：作業療法評価学
著者名：岩崎テル子編集
出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②

授業科目	作業療法評価学Ⅰ（新々カリ）				
担当者	林部 美紀	国試出題基準	Ⅱ -1 ～ 3-ABD		
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

作業療法評価場面で用いる各種検査・測定にはどのようなものがあるかを知り、その方法を理解する。

■ 到達目標

1. 作業療法場面で用いる検査・測定を知る
2. 作業療法場面で用いいる検査・測定を正しい方法で行う
3. 作業療法場面で用いる検査・測定を正確に実施する（オリエンテーション含む）

■ 授業計画

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション
バイタルサインの理解と測定 |
| 第2回 | 関節の動きと各種測定（上肢）
関節の動きと各種測定（上肢） |
| 第3回 | 関節の動きと各種測定（下肢）
関節の動きと各種測定（下肢） |
| 第4回 | 関節の動きと各種測定（体幹）
関節の動きと各種測定（手指） |
| 第5回 | 筋力測定の方法
筋力測定の方法 |
| 第6回 | 筋力測定の方法
筋力測定の方法 |
| 第7回 | 筋力測定の方法
筋力測定の方法 |
| 第8回 | 反射のみかた
筋緊張のみかた |
| 第9回 | 筋の随意運動のみかた
筋の随意運動のみか |
| 第10回 | 筋の随意運動のみかた
筋の随意運動のみかた |
| 第11回 | バランスの見方
バランスの見方 |
| 第12回 | 感覚障害のみかた
感覚障害のみかた |
| 第13回 | 12脳神経のみかた |
| 第14回 | 高次脳機能障害の評価
高次脳機能障害の評価 |
| 第15回 | 高次脳機能障害の評価
高次脳機能障害の評価 |

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する

配点は筆記試験70%、レポート・報告30%とする。いずれの試験も60%以上で合格とする。筆記試験は再試験を実施する。実技試験も同様に再試験は実施する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

解剖学・生理学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内ですべてを網羅することは困難である。そのため、解剖学、生理学、運動学の知識の整理、復習を行っておくこと。授業後のレポート課題を必ず提出すること。

■ 教科書

書 名：標準作業療法学 作業療法評価学 第2版

出版社：医学書院

書 名：新・徒手筋力検査法 第8版

出版社：協同医書出版社

書 名：改訂第2版 神経診察クローズアップ正しい病巣診断のコツ

出版社：メジカルビュー社

■ 参考図書

書 名：身体障害作業療法学 (作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 4)

出版社：メジカルビュー社

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③④

授業科目	作業療法評価学Ⅱ（新々カリ）				
担当者	林部 美紀			国試出題基準	Ⅱ -3 ～ 4
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

提示された事例等の情報を十分読み込み理解して整理することで、作業療法評価の方法と考え方を学ぶものである。

■ 到達目標

提示された事例の

1. 記述内容が理解でき専門用語が系統的に知識として蓄積できる。
2. 情報を生活機能（あるいは障害）の階層に分類・整理できる。
3. 情報の収集法（面接・観察・検査測定等）と、その実施方法が分かる。
4. 全体像が分かる（情報を統合し解釈できる）
5. 作業療法ニーズが抽出でき、その理由を説明できる。
6. 作業療法計画（長期・短期目標、具体的なプログラム、判定指標等）が立案できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 作業療法過程における評価の目的と意義
- 第2回 ICF 分類と作業療法評価項目について
- 第3回 実習事例分析2 演習により学習とレポート作成
- 第4回 実習事例分析3 演習により学習とレポート作成
- 第5回 精神障害者の分析及び統合と解釈1（統合失調症の障害特徴、事例提示、用語調べ）
- 第6回 精神障害者の分析及び統合と解釈1（統合失調症の障害特徴、事例提示、用語調べ）2
- 第7回 精神障害者の分析及び統合と解釈3（精神障害事例の情報分析：ICF）3
- 第8回 精神障害者の分析及び統合と解釈3（精神障害事例の情報分析：ICF）4
- 第9回 精神障害者の分析及び統合と解釈（事例における評価・治療へのICFの利用）5
- 第10回 精神障害者の分析及び統合と解釈（事例における評価・治療へのICFの利用）6
- 第11回 中枢身体障害事例の分析及び統合と解釈1（作業療法評価とは？人体の構造と機能）
- 第12回 中枢身体障害事例の分析及び統合と解釈2
- 第13回 中枢身体障害事例の分析及び統合と解釈3
- 第14回 中枢身体障害事例の分析及び統合と解釈4
- 第15回 中枢身体障害事例の分析及び統合と解釈5
- 第16回 中枢身体障害事例の分析及び統合と解釈6
- 第17回 整形外科系機能障害事例の分析及び統合と解釈1
（骨折の治療過程それに伴って起こる機能障害、活動制限や参加制約について）
- 第18回 整形外科系機能障害事例の分析及び統合と解釈2（事例検討）
- 第19回 整形外科系機能障害事例の分析及び統合と解釈3（事例検討）
- 第20回 整形外科系機能障害事例の分析及び統合と解釈4（事例検討）
- 第21回 整形外科系機能障害事例の分析及び統合と解釈5（事例検討）
- 第22回 整形外科系機能障害事例の分析及び統合と解釈6（事例検討）
- 第23回 発達障害事例の分析及び統合と解釈1（運動機能障害をもつ子どもを中心に）－評価の視点と過程－
- 第24回 発達障害事例の分析及び統合と解釈2（運動機能障害をもつ子どもを中心に）－評価の視点と過程－
- 第25回 発達障害事例の分析及び統合と解釈3
（脳性マヒをもつ子どもの異常運動パターンの発達過程について）

- 第26回 同上 4（事例検討、原始反射の国試問題含む）
第27回 運動機能障害をもつ子どもの評価の過程とポイント・発達障害をもつ子どもの評価について
第28回 同上 6（感覚統合アプローチ含む）
第29回 評価プロセスのまとめ 1
第30回 評価プロセスのまとめ 2

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する

配点は筆記試験70%、レポート・報告30%とする。いずれの試験も60%以上で合格とする。筆記試験は再試験を実施する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各領域の授業について予習を行っておくこと（指定教科書、その他、授業に関する他の参考書等を読み込んでおくこと）
次回の授業につながる内容に関しては、その日習った内容について復習しておくこと。
指定されたレポートについては必ず期日までに提出すること。
また、小テストの実施については必ず指定された範囲を予習して臨むこと。

■ 教科書

書 名：標準作業療法学（専門分野）作業療法評価学
著者名：岩崎テル子 他（編集）
出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

他者に説明できるまで、調べて熟考すること。分からないままにしないこと。

事例については、

- ①事例を読み込み用語を丁寧に調べる事、
- ②事例を読み込み全体像を把握する、
- ③事例の全体像を ICF の相互作用図で示し、文章化する。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③④

授業科目	動物と作業療法				
担 当 者	吉田文・木村佳友・水上言・黒川晶平・三原美歩（オムニバス）			国試出題基準	I -2, 3
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

ひとの作業の中でもひとと動物の関わる作業を用いた作業療法を学ぶ。動物介在療法・身体障害者補助犬（介助犬）を中心に、健康な生活をつくり、社会参加を促進するために動物との関わりをどのように活かすことができるのかを学習する。作業療法の中で実践できるように当事者の講義や体験学習を含めて授業を展開する。

■ 到達目標

- 1.ひとと動物の関わる作業の分類と作業療法との関係について説明できる
- 2.ひとと動物の関わる作業が人の生活にどのように影響するか説明できる
- 3.ひとと動物の関わる作業を用いた作業療法を実践するための計画が立てられる

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション 人と動物の関わり
- 第2回 動物リハビリテーション①（概要）
- 第3回 動物リハビリテーション②（疾患と評価）
- 第4回 動物リハビリテーション③（作業療法士の関わり）
- 第5回 動物リハビリテーション④（まとめ）
- 第6回 動物介在療法①（概要）
- 第7回 動物介在療法②（作業療法における展開例）
- 第8回 動物介在療法③（演習）
- 第9回 動物介在療法④（まとめ）
- 第10回 身体障害者補助犬①（盲導犬・聴導犬・介助犬の概要、身体障害者補助犬法）
- 第11回 身体障害者補助犬②（介助犬と作業療法）
- 第12回 身体障害者補助犬③（介助犬育成の実際、育成事業者と作業療法士の連携）
- 第13回 身体障害者補助犬④（介助犬使用者の生活、社会参加を促進するために）
- 第14回 身体障害者補助犬⑤（まとめ）
- 第15回 授業のまとめ

■ 評価方法

参加態度20%（リアクションペーパー含む）、提出物30%、最終レポート50%
出席を基本とする授業のため遅刻・早退－2点、欠席－5点の減点とする。但し事前に連絡がありやむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教 科 書

書 名：特に指定しない

■ 参考図書

書 名：別冊総合ケア 医療と福祉のための 動物介在療法

著者名：高柳友子他

出版社：医歯薬出版

書 名：よくわかるアニマルセラピー―動物介在療法の基礎とケーススタディ

著者名：メリー・R. バーチ

出版社：インターズー

書 名：BSAVA 犬と猫におけるリハビリテーション、支持療法および緩和療法

著者名：長谷川篤彦 監修

出版社：学窓社

書 名：犬のリハビリテーション

著者名：北尾貴史 他監訳

出版社：インターズー

書 名：犬と猫のリハビリテーション実践テクニック

著者名：枝村一弥他 訳

出版社：インターズー

書 名：介助犬を知る

著者名：高柳哲也

出版社：名古屋大学出版会

書 名：介助犬を育てる少女たち―荒れた心の扉を開くドッグ・プログラム

著者名：大塚敦子

出版社：講談社

書 名：介助犬僕に生きる力をくれた犬：青年刑務所ドッグ・プログラムの3か月

著者名：NHK プリズンドッグ取材班

出版社：ポット出版

書 名：介助犬僕に生きる力をくれた犬：青年刑務所ドッグ・プログラムの3か月

著者名：NHK プリズンドッグ取材班

出版社：ポット出版

■ 留意事項

その他の参考書は授業内において随時提示する。授業内で確認するが、動物が苦手であったり、動物のアレルギー等がある学生など配慮が必要な場合は、自分から教員に必ず相談すること。それによって不利益が生じることはありません。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③⑥

授業科目	スポーツと作業療法				
担 当 者	足立一・井口知也（オムニバス）	国試出題基準	I -3-A, V -1-D, 2-BD		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

科目担当者の指導の下、障害者スポーツの企画・運営学習を中心に行う。

■ 到達目標

障害者スポーツ分野における社会資源の開発や運営に必要な知識と技術を習得する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 障害者スポーツ概論
- 第3回 障害者スポーツ概論
- 第4回 障害者スポーツ概論
- 第5回 障害者スポーツイベントの企画
- 第6回 障害者スポーツイベントの企画
- 第7回 障害者スポーツイベントの企画
- 第8回 障害者スポーツの運営
- 第9回 障害者スポーツの運営
- 第10回 障害者スポーツイベントの企画
- 第11回 障害者スポーツイベントの企画
- 第12回 障害者スポーツイベントの企画
- 第13回 障害者スポーツの運営
- 第14回 障害者スポーツの運営
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

レポート課題100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業の進行に合わせて予習復習を促す。授業時間内で完成できなかったレポートは宿題とする。

■ 教 科 書

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③④⑦

授業科目	芸術と作業療法				
担 当 者	吉田文・鈴木暁子・橋本弘子（オムニバス）			国試出題基準	I -2・3
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

「芸術」にはこれまでに様々な解釈があるが、この科目では芸術を広く解釈し作業療法にどのように用いるかを中心に学習する。芸術活動の意味・価値、自己表現としての芸術、人の生活に芸術はどのような影響を及ぼすのか、芸術はどのように治療に生かされるかなどを学生自身の体験、グループ活動などにより学ぶ。

■ 到達目標

1. 芸術に分類される作業活動を述べることができる
2. 芸術が人の生活にどのような影響を及ぼすのか説明できる
3. 芸術活動を作業療法の中でどのように展開していくか計画が立てられる

■ 授 業 計 画

第1回 オリエンテーション 音楽療法
 第2回 音楽療法
 第3回 アロマセラピー
 第4回 絵画療法
 第5回 絵画療法
 第6回 絵画療法のまとめ
 第7回 ダンスセラピー
 第8回 ダンスセラピー
 第9回 ダンスセラピーのまとめ
 第10回 日常における自己表現活動
 第11回 日常における自己表現活動
 第12回 日常における自己表現活動
 第13回 書道
 第14回 書道
 第15回 まとめ

■ 評価方法

参加態度20%（リアクションペーパー含む）、提出物30%、最終レポート50%
 出席を基本とする授業のため遅刻・早退－2点、欠席－5点の減点とする。但し事前に連絡がありやむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教 科 書

書 名：特に指定しない

■ 参考図書

書 名：芸術と福祉

著者名：藤田治彦

出版社：大阪大学出版会

書 名：ホスピスが美術館になる日 ケアの時代とアートの未来

著者名：横川善正

出版社：ミネルヴァ書房

書 名：進化するアートコミュニケーション

著者名：林容子・湖山泰成

出版社：レイライン

書 名：感覚統合を活かして子どもを伸ばす 「音楽療法」 苦手に寄り添う音楽活動

著者名：土田玲子

出版社：明治図書出版

書 名：パーキンソン病はこうすれば変わる！－日常生活の工夫とパーキンソンダンスで生活機能を改善

著者名：橋本 弘子

出版社：三輪書店

書 名：こころを癒す音楽

著者名：北山修

出版社：講談社

書 名：音楽療法入門（上） 理論編

著者名：日野原重明 他

出版社：春秋社

書 名：音楽療法入門（下） 実践編

著者名：日野原重明 他

出版社：春秋社

書 名：誰でも描けるキミ子方式 楽しみ方・教え方入門

著者名：楽しい授業編集委員会

出版社：仮説社

書 名：アロマセラピーのための精油ハンドブック

著者名：日本アロマセラピー学会

出版社：丸善出版

書 名：香りで心と体を整える

著者名：千葉直樹

出版社：フレグランスジャーナル社

書 名：香りで痛みを和らげる ある整形外科医の処方箋から（香りで美と健康シリーズ3）

著者名：千葉直樹

出版社：フレグランスジャーナル社

書 名：医師がすすめる「アロマセラピー」決定版 肥満、ぜんそく、アトピーからパニック障害まで撃退

著者名：川端一永他

出版社：マキノ出版

書 名：現場で実践されている「心と身体にアロマケア」 介護に役立つアロマセラピーの教科書

著者名：櫻井かつみ

出版社：BAB ジャパン

書 名：メディカル・アロマセラピー（補完・代替医療） 改定第3版

著者名：今西二郎

出版社：金芳堂

書 名：香りはなぜ脳に効くのか アロマセラピーと先端医療
著者名：塩田清二
出版社：NHK 出版

書 名：アロマの香りが認知症を予防改善する
著者名：浦上克哉
出版社：宝島社

書 名：病院のアート 医療現場の再生と未来
著者名：森口ゆたか
出版社：アートミーツケア叢書

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③⑤⑥

授業科目	臨床ゼミナールⅠ				
担当者	吉田 文			国試出題基準	Ⅱ -2-E,V-1
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

この科目では、作業療法に欠かせないコミュニケーションスキルや面接・観察を中心に学習を行う。臨床見学実習でその知識・技術を活用できるようにグループワークによる演習を行い、事例を基にディスカッションする。他の科目で学んだ知識・技術も使いながら、作業療法場面における情報を掴み、作業療法と対象者について概説できる力をつける。

■ 到達目標

1. 作業療法学生として対象者とコミュニケーションができる
2. 面接により作業療法評価に必要な情報を収集する
3. 観察により作業療法評価に必要な情報を収集する
4. 得た情報をもとに作業療法と対象者について概説できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 社会人・医療人としての基本的資質とは
- 第2回 コミュニケーションとは？人と接するための基本
コミュニケーションスキル演習①
- 第3回 人との関係づくりの基本 対象者・家族との関係づくり
コミュニケーションスキル演習②
- 第4回 人との関係づくりの基本 スタッフ・社会との関係づくり
コミュニケーションスキル演習③
- 第5回 実習における報告・連絡・相談
- 第6回 作業療法における観察とは？
観察の演習①
- 第7回 観察に必要な知識・技術
観察の演習②
- 第8回 観察場面についてのディスカッション 事例を用いて
観察の演習③
- 第9回 作業療法における面接とは？
面接の演習①
- 第10回 面接に必要な知識・技術
面接の演習②
- 第11回 面接場面についてディスカッション 事例を用いて
面接の演習③
- 第12回 人との関係における自分の特徴を知る（観察・面接の体験を通して）
- 第13回 作業療法の治療構造 作業療法士の行動の観察 作業療法における作業の効果
- 第14回 作業療法場面の捉え方 作業療法に関する文献を治療構造に沿って捉える
- 第15回 授業のまとめ

■ 評価方法

参加態度（リアクションペーパー含む）30%、提出物20%、最終レポート50%
グループワークや演習を交えながら進めるため出席を基本とする。遅刻・早退－2点、欠席－5点の減点とする。但し事前に連絡があり、やむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*毎回のリアクションペーパーと提示する課題（復習と予習、A 4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書 名：特に指定しない

■ 参考図書

書 名：コミュニケーションスキルトレーニング 患者満足度の向上と効果的な診療のために
著者名：松村真司 編集
出版社：医学書院

書 名：医療コミュニケーション 実証研究への多面的アプローチ
著者名：藤崎 和彦 編集
出版社：篠原出版新社

書 名：高齢者援助における相談面接の理論と実際
著者名：渡部律子
出版社：医歯薬出版

書 名：コミュニケーションスキルの磨き方
著者名：澤 俊二・鈴木孝治
出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

その他の参考書は授業において随時提示する。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③⑥

授業科目	臨床ゼミナールⅡ				
担当者	吉田 文	国試出題基準	Ⅰ -1-I, Ⅱ -2-E・F, V -1		
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

臨床評価学実習Ⅰの記録等を中心にしながら学習を進める。評価内容（観察・面接・検査・測定など）のより深い理解、記録の書き方の復習、記録の修正点と次回の実習のための対策を考える。また、学生自身の作業療法対象者やスタッフとの関わり方について再検討する。さらに、文献等を調べ、作業療法対象者への理解を深め、3年次の評価・治療の理解へとつなげていく。適宜グループでのディスカッションを用い、相互に学習を深める。

■ 到達目標

1. 記録等から、評価内容（観察・面接・検査・測定など）と学生自身の関わり方の課題を説明することができる
2. 評価やその記録、自身の関わり方の修正を行うための対策を立てることができる
3. 文献等を参考に作業療法対象者をどのように理解できたか説明することができる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 臨床評価学実習Ⅰの記録の見直し
- 第3回 評価方法と記録における課題の抽出
- 第4回 評価方法と記録の修正方法を検討し、対策を立てる①
- 第5回 評価方法と記録の修正方法を検討し、対策を立てる②
- 第6回 演習
- 第7回 作業療法対象者やスタッフに対する学生自身の関わり方の見直し
- 第8回 関わり方における課題の抽出 SV との比較
- 第9回 関わり方の修正方法を検討し、対策を立てる①
- 第10回 演習
- 第11回 作業療法対象者に関連した文献の検索
- 第12回 文献内容の理解
- 第13回 文献を参考に作業療法対象者の情報をまとめる①
- 第14回 文献を参考に作業療法対象者の情報をまとめる②
- 第15回 授業のまとめ

■ 評価方法

参加態度20%、提出物30%、最終レポート50%

グループワークや演習を交えながら進めるため出席を基本とする。遅刻・早退－2点、欠席－5点の減点とする。但し事前に連絡があり、やむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書 名：特に指定しない

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

参考書は随時、授業で提示する

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③④⑥

授業科目	国際リハビリテーション				
担当者	井口 知也			国試出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	自由

■ 内 容

スタディツアーに参加し、他国の障害児者など人々と交流し、生活やリハビリテーションの現状に触れる交流するための活動の準備をする
帰国後は、レポート作成を通して、ツアーを振り返り、人々の生活やリハビリテーションの現状を自国と比較しその相違を明らかにする。同時にセラピストのなるための自己課題を明らかにする

■ 到達目標

体調管理に努め、一連の活動に参加する
帰国後に活動全体を振り返りレポート作成ができる

■ 授業計画

スタディツアー準備
スタディツアーへの参加（6泊5日程度）
スタディツアー振り返り

■ 評価方法

準備から振り返りまでの取り組み態度（70%）
レポート内容（30%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

必要の応じて調べ物をしたり、期限までに準備等ができるよう取り組むこと

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

国外に出かけることは学生時代に与えられた良い機会です。多くの学生が参加することを期待します。
参加する者は十分な体調管理に努めてください

■ ポリシー該当項目

PT:CP ②⑧ / OT:CP ④⑥⑦

授業科目	臨床見学実習				
担当者	足立一・OT専任教員（オムニバス）			国試出題基準	I, V
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

1. 実習前学習，臨床見学，終了後のまとめと報告会で構成する
2. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 臨床現場での実習期間：5日間（2月）
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと作業療法実践現場や関係部署の見学を行う

■ 到達目標

1. 作業療法の実施状況を観察し，記録できる
2. リハビリテーションの流れの中の作業療法（士）の役割を理解できる
3. 作業療法士を目指す学生として適切な取り組みが出来る

■ 授業計画

- 第1回 全体オリエンテーション
- 第2回 実習前課題
- 第3回 実習前課題へのフィードバック
- 第4回 実習前技能演習1
- 第5回 実習前技能演習2
- 第6回 臨床見学実習（5日間）
- 第7回 臨床見学実習のまとめ
- 第8回 臨床見学実習報告会

■ 評価方法

- 実習への取り組み態度（40％）
- 実習事前学習・終了後のまとめへの取り組み態度（30％）
- 提出物と報告内容（30％）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- 各回に担当教員および臨床実習指導者の指示に従って，予習復習を行うこと

■ 教 科 書

■ 参考図書

■ 留意事項

1. 実習は対象者や関係者，実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと
2. 日頃から健康管理に努め，特に臨床実習期間は健康に留意すること
3. 全体を通して，身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合，また，無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する

■ ポリシー該当項目

- OT:CP ①③④⑥

授業科目	臨床評価学実習 I				
担 当 者	足立一・OT 専任教員（オムニバス）			国試出題基準	I, II, V
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

1. 実習前学習，臨床実習，終了後のまとめと報告会で構成する
2. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 臨床現場での実習期間：5 日間
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと作業療法評価の実践を行う

■ 到達目標

1. 作業療法の実践と実施状況を観察し，記録できる
2. 作業療法評価の位置づけを理解できる
3. 作業療法士を目指す学生として適切な取り組みが出来る

■ 授業計画

- 第1回 全体オリエンテーション
- 第2回 実習前課題
- 第3回 実習前課題へのフィードバック
- 第4回 実習前技能演習 1
- 第5回 実習前技能演習 2
- 第6回 臨床評価学実習（5 日間）
- 第7回 臨床評価学実習のまとめ
- 第8回 臨床評価学実習報告会

■ 評価方法

- 実習への取り組み態度（40%）
- 実習事前学習・終了後のまとめへの取り組み態度（30%）
- 提出物と報告内容（30%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- 各回に担当教員および臨床実習指導者の指示に従って，予習復習を行うこと

■ 教 科 書

■ 参考図書

■ 留意事項

1. 実習は対象者や関係者，実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと
2. 日頃から健康管理に努め，特に臨床実習期間は健康に留意すること
3. 全体を通して，身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合，また，無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する

■ ポリシー該当項目

- OT:CP ①③④⑥

授業科目	コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅱ				
担 当 者	井口知也（オムニバス）			国試出題基準	
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

本講義では、認知症、脳外傷による高次脳機能障害など、コミュニケーションに障害をもつ方々とのコミュニケーションのとり方をグループ活動を通して学び、臨床で応用できるように演習する。

■ 到達目標

臨床で求められるコミュニケーション能力を身につける。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 認知症の概論
- 第3回 臨床場面における認知症患者とのコミュニケーションのとり方（1）
- 第4回 臨床場面における認知症患者とのコミュニケーションのとり方（2）
- 第5回 失語症、脳外傷による高次脳機能障害の概論
- 第6回 臨床場面における脳外傷による高次脳機能障害者とのコミュニケーションのとり方（1）
- 第7回 臨床場面における脳外傷による高次脳機能障害者とのコミュニケーションのとり方（2）
- 第8回 まとめ

■ 評価方法

毎回提出するレポート60%、平常点（演習への取り組みなど）20%、小テスト20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業中に、重要ポイントとして指摘した箇所は、次の授業までに復習をして下さい。小テストやレポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする。

■ 教 科 書

書 名：適宜資料を配布

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①② / OT: ①②⑤

授業科目	理学療法概論				
担当者	今井 公一	国試出題基準	Ⅱ -3, Ⅲ -2-D		
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法の歴史、概念、理学療法の実践についてを理解するため、リハビリテーションや生活機能といった周辺との関連性を重視しながら、なおかつ理学療法の原理についても学びます。

■ 到達目標

1. リハビリテーションと理学療法の歴史について説明できる。2. 理学療法の実践について説明できる。

■ 授業計画

第1回 リハビリテーションと理学療法
 第2回 理学療法に必要な基礎知識 (1)
 第3回 理学療法に必要な基礎知識 (2)
 第4回 理学療法に必要な基礎知識 (3)
 第5回 理学療法に必要な基礎知識 (4)
 第6回 姿勢と歩行
 第7回 理学療法プロセスと評価
 第8回 物理療法概論
 第9回 運動療法概論
 第10回 高齢社会と理学療法
 第11回 理学療法研究 (1)
 第12回 理学療法研究 (2)
 第13回 理学療法研究 (3)
 第14回 理学療法研究 (4)
 第15回 総括

■ 評価方法

提出物 40% 筆記試験 60%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

適宜与えられる課題について、しっかりと学習し授業に臨むこと

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書 名：不要

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ②④⑥

授業科目	言語聴覚概論				
担 当 者	山口忍・大西・環・大根茂夫・斎藤典昭・工藤芳幸・中村靖子・吉機俊夫（オムニバス）	国試出題基準	基礎Ⅰ -1-G, 2-E,		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

言語聴覚障害全般について、障害ごとに基礎的事項を学んだ上で、言語聴覚障害者とのコミュニケーションを実際に体験する（対話会として、フリートークを実施する）。その中で、言語聴覚障害の方へのコミュニケーション上の適切な配慮や留意点を学び、後の臨床実習に活かす

■ 到達目標

- 1) 言語聴覚障害とその治療のアウトラインを知る
- 2) 基礎的事項を習得する
- 3) 対話会を経験し、言語聴覚障害者とのコミュニケーション上の配慮や留意点、スキルを学ぶ

■ 授 業 計 画

- 第1回 言語聴覚障害概論：コミュニケーションの障害とは何か（山口）
- 第2回 小児領域：発達遅滞（斎藤）
- 第3回 小児領域：発達障害（工藤）
- 第4回 運動性構音障害：症状と治療（大根）
- 第5回 嚥下障害：障害と治療（中村）
- 第6回 聴覚障害：症状と補聴（山口）
- 第7回 失語症：発症のメカニズムと臨床症状（吉機）
- 第8回 失語症：特徴に応じたコミュニケーション（吉機）
バイタルサインの測定方法の演習
- 第9回 対話会参加者とのコミュニケーションの工夫（大西）
- 第10回 擬似患者とのフリートーク（大西 吉機 大根 中村 山口）
- 第11回 対話会の準備について（大西）
- 第12回 対話会（大西 吉機 大根 中村 山口）
- 第13回 対話会（大西 吉機 大根 中村 山口）
- 第14回 対話会（大西 吉機 大根 中村 山口）
- 第15回 まとめレポート作成（山口）

■ 評価方法

「対話会」の出席を重視 小テストおよび各領域の学習内容の試験を実施 左記全てで100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各言語聴覚障害について授業後復習し、次回の小テストに備えること 対話会に使用する物品を用意すること

■ 教 科 書

書 名：絵でわかる言語障害－言葉のメカニズムから対応まで－第2版
 著者名：毛束真知子
 出版社：学研 2013

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

資料を講義中に配布する 対話会は土曜日に実施 日程は開講後連絡する

■ ポリシー該当項目

PT:CP ② (DP ⑤) /OT:CP ⑥ (DP ⑤)

授業科目	介護学概論				
担当者	橋本 卓也			国試出題基準	I -1A,B,2,3
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

近年、重視されている「キュアからケアへ」という概念に内包されている「治療から全人間的ケアへ」「医学モデルから生活・社会モデルへの転換」という視点を共有するとともに、介護・介助実践におけるジレンマについても考察・言及する。また、重い障害をもつ人たちから提起された「介助者手足論」という考え方を通して利用者の尊厳を支えるケアのあり方や自立（自律）支援を目指すケアについて理解を深める。さらに「認知症」800万人時代といわれている現代における認知症高齢者に対する「家族介護」「在宅介護」のあり方を考える。

■ 到達目標

- ①日本が抱える介護問題の実態及びその要因について理解することができる。
- ②利用者本位、当事者本位の視点にたった介護・介助のあり方について考察することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 日本が抱える介護問題の背景（日本の近代化と少子・高齢化問題）
- 第2回 介護の原理性（介護の本質及び全人間的視点にたったケアのあり方について）
- 第3回 介護・介助実践を通して生起するジレンマについて
- 第4回 アシュリー事件を通して見えてくる重い障害をもつ人たちに対する介助のあり方・価値等について
- 第5回 感情労働としてのケアワークについて
- 第6回 「介助者手足論」という理論から見えてくる利用者本位の視点に立ったケアのあり方とは
- 第7回 グリーフケアについて
- 第8回 認知症高齢者に対する家族介護・在宅介護のあり方について（NHK の映像を通して）

■ 評価方法

レポート（3回）を評価点とする。その他、出席率・授業中の態度等は減点対象とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

日頃から介護問題に関する記事・ニュース等について関心をもつこと。
第5回、第6回の授業については、予習する書籍を指定するので読んでおくこと。

■ 教 科 書

■ 参考図書

書 名：母よ殺すな

著者名：横塚晃一

出版社：生活書院

書 名：アシュリー事件

著者名：児玉真美

出版社：生活書院

■ 留意事項

授業への積極的参加を望む。介護者－被介護者両者の視点から介護（介助）の在り方を学ぶこと

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③④ (DP:①②) OT:CP ①②③ (DP:①②)

授業科目	地域医療実践学				
担 当 者	辻 郁・有馬和代・山口忍・ 今井公一 他	国試出題基準	P T : II -8 A , III -5 B , -7 A O T : II -8 A , III -7 A , IV -1 F		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

講義により，地域の医療や保健福祉領域での実践例を知る
臨床実習で担当した事例（症例）の居住地の社会資源等の概況を確認し，ニーズを充足するサービスや施策等を企画する
以上を通して，地域で理学療法・作業療法を実践するために必要な知識や方法を学ぶ

■ 到達目標

1. 実践例を聞くことでその現状を把握し，課題が推測できる
2. 実習で担当した事例が暮らす地域の現状がわかる
3. 実習で担当した事例が豊かに暮らすためのニーズが抽出できる
4. 3. のニーズを充足できる実際的なサービスを企画できる

■ 授業計画

- 第1回 実践例を知る 1
- 第2回 実践例を知る 2
- 第3回 実践例を知る 3
- 第4回 実践例を知る 4
- 第5回 実践例を知る 5 （非常勤講師）
- 第6回 実践例を知る 6 （非常勤講師）
- 第7回 実践例を知る 7 （非常勤講師）
- 第8回 実践例を知る 8 （非常勤講師）
- 第9回 臨床実習で担当した事例が暮らす地域の概況を明らかにする
- 第10回 担当事例のニーズを明らかにする
- 第11回 ニーズを充足するためのサービス企画
- 第12回 ニーズを充足するためのサービス企画案プレゼン準備
- 第13回 ニーズを充足するためのサービス企画案プレゼン準備
- 第14回 企画書のプレゼンテーション 1
- 第15回 企画書のプレゼンテーション 2

■ 評価方法

取り組み態度：30％ 課題レポート：50％ 報告内容の相互評価点：20％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

第1回から第8回の講義終了後は，その内容を振り返り，自己学習内容を含めてレポートを作成する
第9回から第15回は演習でありその回の終了後は，実施内容を振り返りリアクションペーパーを作成する．予習課題は定めないが，期間内に課題を終了させるよう準備をすること

■ 教 科 書

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

両専攻の臨床実習終了後に集中で開講する

■ ポリシー該当項目

PT:CP ⑧ /OT:CP ⑦

授業科目	高齢者福祉論				
担当者	橋本 卓也			国試出題基準	Ⅲ -1-CD
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

現代日本の高齢者を取り巻く現状と福祉課題を考察するとともに、介護保険制度、地域包括ケアシステムについて理解する。また、権利擁護の視点から高齢者に対する虐待、孤立死等の要因を探る。さらに、国が進める認知症対策及びその一環として創設された認知症初期集中支援チームについても学ぶ。

■ 到達目標

- ①高齢者福祉の社会的背景、理念、目標等について理解することができる。
- ②介護保険を中心とする高齢者福祉施策と、それに基づいた様々な施策・具体的実践について理解することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 現代における高齢者の生活課題と福祉ニーズについて
- 第2回 孤立死・孤独死について
- 第3回 セルフ・ネグレクトについて
- 第4回 介護保険制度Ⅰ
- 第5回 介護保険制度Ⅱ
- 第6回 地域包括ケアシステムについて
- 第7回 高齢者の権利擁護（高齢者虐待）について
- 第8回 認知症初期集中支援チームについて

■ 評価方法

定期試験（筆記試験）80 %、その他、小テスト(20%)、授業中の態度等も評価の対象とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業項目に関する予習（読んでくる）をしておくこと。各授業項目に関する話題に関心をもつこと。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：高齢者に対する支援と介護保険制度
 著者名：岡田進一・橋本正明（編著）
 出版社：ミネルヴァ書房

■ 留意事項

毎回実施される小テストに真剣に取り組むこと

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③④（DP: ①②）/OT:CP ①②③（DP: ①②）

授業科目	感染症学				
担当者	藤岡 重和			国試出題基準	専門基礎Ⅱ-2, 専門Ⅴ-2
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

感染症と人・微生物との関わり、感染防御機構、感染症の検査と診断、治療、そして感染予防策について学習する。感染症は、リハビリテーション領域において、特に注意が必要であり、各種感染症について基本的理解ができるように解説する。

■ 到達目標

1. 微生物と感染症、感染防御機構について基本的理解ができる
2. 代表的な感染症について、病原微生物とその感染経路、臨床像、診断と治療法を理解する
3. 院内感染および感染予防対策について説明できる

■ 授業計画

- 第1回 感染症総論 (1) 微生物と感染症、感染防御機構
- 第2回 感染症総論 (2) 感染症の検査と診断、感染症の治療
- 第3回 感染症各論 (1) 呼吸器感染症、結核
- 第4回 感染症各論 (2) 消化器感染症、食中毒
- 第5回 感染症各論 (3) 肝炎
- 第6回 感染症各論 (4) 尿路感染症、性感染症
- 第7回 感染症各論 (5) 皮膚、粘膜の感染症
- 第8回 感染症各論 (6) 人獣共通感染症、寄生虫感染症
- 第9回 感染症各論 (7) 小児の感染症、母子感染
- 第10回 感染症各論 (8) 高齢者の感染症、日和見感染症
- 第11回 感染症各論 (9) 新興感染症、感染症トピックス
- 第12回 感染制御学 (1) 院内感染、標準予防策、感染経路別予防策
- 第13回 感染制御学 (2) 術後感染症、カテーテル関連感染症、針刺しと感染症
- 第14回 感染制御学 (3) 薬剤耐性菌による感染症、その他
- 第15回 総復習（国家試験対策）

■ 評価方法

定期試験 80% 小テスト 10% 出席、態度 10%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
次回授業までに、前回の授業内容を復習しておいてください。

■ 教 科 書

書 名：臨床微生物、医動物（NURSING GRAPHICUS 疾患の成り立ち 3）
著者名：矢野久子、安田陽子
出版社：MC メディカ出版

■ 参 考 図 書

書 名：病原体・感染・免疫 第2版

著者名：藤本秀士

出版社：南山堂

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③⑥ /OT:CP ①②⑤

授業科目	医療安全学				
担 当 者	藤岡 重和			国試出題基準	専門基礎Ⅲ-A 専門Ⅴ-2
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

頻発する医療事故を概観し、医療現場の現状と医療職を取りまく社会的環境を理解する。次に、事故発生のメカニズムと事故分析、事故対策について学習する。また、事故事例の分析を通して医療機関における安全対策のありかたについて考える。

■ 到達目標

1. 医療事故の実際を知り、安全対策の必要性について理解する
2. 事故の発生要因について説明できる
3. 医療機関における安全対策を説明できる

■ 授 業 計 画

- 第1回 医療事故の疫学、頻度、医療事故事例の紹介
- 第2回 医療事故の定義、分類、医療事故の報告制度
- 第3回 医療事故発生のメカニズム
- 第4回 医療事故分析、事故対策
- 第5回 医療機関における安全対策 (1)
- 第6回 医療機関における安全対策 (2)
- 第7回 医療事故後の対応、医療事故に関する法的責任
- 第8回 リハビリテーション業務における安全対策

■ 評価方法

定期試験 60%、提出課題 20%、出席、態度 20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業で、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
次回授業までに、前回の授業内容を復習しておいてください。

■ 教 科 書

書 名：医療安全（NURSING GRAPHICUS 看護の統合と実践 2）
著者名：松下由美子、杉山良子、小林美雪
出版社：MC メディカ出版

■ 参 考 図 書

書 名：リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン
著者名：日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会編
出版社：医歯薬出版

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③⑥ /OT:CP ①②⑤

授業科目	臨床心理学				
担当者	非常勤講師	国試出題基準	専門基礎Ⅱ -4- A～D		
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

臨床心理学は「こころの病」や「こころのメカニズム」について学ぶものです。私たちのこころは流動的で環境からの影響を受けながら形成され、揺らぎもします。そうした、こころのありようについて、身近な素材や具体的な話を用いて臨床心理学に関する理論や概念の基礎的素養を身につける機会にします。

■ 到達目標

学んだことを今後の専門職としての活動の中や普段の生活に行かせるよう習得することを目指します。

■ 授業計画

- 第1回 臨床心理学とは
- 第2回 臨床心理査定（1）：意義と方法（観察、面接、検査）
- 第3回 臨床心理査定（2）：発達検査・知能検査
- 第4回 臨床心理査定（3）：人格検査（概要）
- 第5回 臨床心理査定（4）：人格検査
- 第6回 こころの構造（1）：人格構造論の観点から
- 第7回 こころの構造（2）：発達論的観点から
- 第8回 精神病理（1）：統合失調症、気分障害
- 第9回 精神病理（2）：不安障害、身体表現性障害、人格障害
- 第10回 患者・障害者の心理
- 第11回 臨床心理面接（1）：目的、基本的技法（体験）
- 第12回 臨床心理面接（2）：来談者中心療法
- 第13回 臨床心理面接（3）：精神分析
- 第14回 臨床心理面接（3）：学習理論と行動療法
- 第15回 総合的ふりかえり

■ 評価方法

講義への参加・貢献（レポート等）：30% 筆記試験：70%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業終了後、授業で配布したプリントを見直し、復習しておくこと。

■ 教科書

特になし

■ 参考図書

適宜紹介します

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①②④ /OT:CP ①②③

DP と CP の関係については、ポリシーを参照して下さい。

授業科目	一般臨床医学（救急医学・外科）				
担 当 者	岡本文雄・神納光一郎・中井宏治・福山智子・池上隆太・福原雅之・矢吹裕栄・藤岡重和（オムニバス）	国試出題基準	Ⅱ-2-Baf 3-Fa 6-A～Em 7-A～Ef 8-A～Ed		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

救急医学の概要と救急措置法について概説する。リハビリテーション医療に必要な救急病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を学習する。次に、外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の代表的疾患について、病態、症状、検査、評価、治療を学ぶ。

■ 到達目標

1. 救急疾患の病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を修得する。
2. 外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科の代表的疾患について、病態、特徴的に現れる症状、治療法を説明できる。
3. 外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科疾患におけるリハビリテーション留意事項を説明できる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 救急医学総論（1）
（岡本）
- 第2回 救急医学総論（2）
（岡本）
- 第3回 救急医学各論（1） ショック、心肺停止
（神納）
- 第4回 救急医学各論（2） 意識障害、吐血、下血と腹痛
（神納）
- 第5回 救急医学各論（3） 外傷、環境障害
（神納）
- 第6回 外科学総論
（中井）
- 第7回 外科学各論
（中井）
- 第8回 産科学
（福山）
- 第9回 婦人科疾患
（福山）
- 第10回 皮膚科学総論（皮膚の構造、発疹学）
（池上）
- 第11回 皮膚科疾患各論（感染症、皮膚腫瘍他）
（池上）
- 第12回 眼科学総論（眼球および眼付属器の解剖他）
（福原）
- 第13回 眼科疾患各論（代表的眼疾患について）
（福原）
- 第14回 耳鼻咽喉科疾患
（矢吹）
- 第15回 総復習
（藤岡）

■ 評価方法

定期試験 100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
次回授業までに、前回の授業内容を復習しておいてください。

■ 教科書

書 名：PT・OTのための一般臨床医学
著者名：明石 謙
出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書 名：救急診療指針 改訂第4版
著者名：日本救急医学会監修
出版社：へるす出版

書 名：あたらしい皮膚科学第2版
著者名：清水 宏
出版社：中山書店

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③⑥ / OT: ①②⑤
DP と CP の関係については、ポリシーを参照してください。

授業科目	精神医学Ⅱ				
担 当 者	足立 一	国試出題基準	専門基礎Ⅱ -5-A ～ E		
学 科 名	理学療法学専攻（選択）	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻（必修）	開講時期	後期	選択・必修	選択 / 必修

■ 内 容

教科書に沿った講義を中心に行う。定期的な小テストとレポート課題を中心に進めていく。
※教科書は必ず購入し、持参すること。

■ 到達目標

精神医学の変遷や現状，基本概念，疾患別の特性や支援の実際についての知識を深める。

■ 授 業 計 画

第1回 オリエンテーション
第2回 精神医学の基礎
第3回 精神症状
第4回 精神症状
第5回 精神科治療
第6回 精神科リハビリテーション
第7回 統合失調症
第8回 感情障害
第9回 神経症性障害
第10回 摂食障害
第11回 人格障害
第12回 てんかん
第13回 精神作用物質による精神および行動の障害
第14回 器質性精神障害
第15回 まとめ

■ 評価方法

レポートと小テスト課題100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

定期的に小テストを行うため、その都度、復習を促す。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学
著者名：奈良勲 鎌倉矩子 監修
出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③⑥ /OT:CP ①②⑤

DP と CP の関係は、ポリシーを参照して下さい。

授業科目	高次脳機能障害学Ⅰ				
担当者	林部 美紀	国試出題基準	専門基礎Ⅱ -C-J		
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

本講義では、大脳機能との関連から高次脳機能障害の基本的知識を習得する。

■ 到達目標

1. 正常の大脳機能を学び、各領域の損傷に出現する臨床像を理解できる。
2. 各々の高次脳機能障害について、症状および病巣を説明することができる。

■ 授業計画

- 第1回 高次脳機能障害の概要：高次脳機能に関わる中枢神経系の機能と大脳の情報処理。
- 第2回 注意機能の基本概念と特性、他の高次脳機能との関連。
- 第3回 記憶のメカニズムと記憶障害の症状。
- 第4回 失行と行為・行動の障害。
- 第5回 失認、身体意識と病態認知。
- 第6回 失語・失読・失書の症状。
- 第7回 視空間機能と半側空間無視。
- 第8回 前頭葉機能と遂行機能。

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する
定期試験80%、小テスト20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業中に指定した箇所を復習すること。また、次回授業の領域について、教科書を読んで予習をしておくこと。

■ 教 科 書

書 名：高次脳機能障害学 第2版
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③ /OT:CP ①②
DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	高次脳機能障害学Ⅱ				
担当者	林部 美紀	国試出題基準	専門基礎Ⅱ -3 - G j		
学科名	理学療法学専攻（選択）	学 年	3 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻（必修）	開講時期	前期	選択・必修	選択 / 必修

■ 内 容

本講義は、高次脳機能のスクリーニング検査や簡易検査を用いて、症状の捉え方を学ぶ

■ 到達目標

1. 症状に応じて、必要なスクリーニング検査や簡易検査を選択することができる。
2. 各検査の目的と実施方法を正しく理解し、演習を通して実施できるようになる。
3. 各検査を正しく解釈し、脳画像、他の臨床的情報から臨床像をまとめることができる。
4. 総合検査や掘下げ検査実施の必要の有無を判断できる。

■ 授業計画

- 第1回 知的機能の評価（1）：HDS-R、MMSE
 第2回 知的機能の評価（2）：コース立方体組合せ検査、RCPM
 第3回 注意機能の評価：ストループテスト・TMT・仮名ひろい検査
 第4回 記憶機能の評価：三宅式記銘力検査、Rey 複雑図形検査
 第5回 行為障害の検査：失行の鑑別検査
 第6回 行為障害の検査：失行の鑑別検査
 第7回 視空間機能の評価：半側空間無視の評価
 第8回 前頭葉機能と遂行機能の評価：FAB・WCST

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する
 定期試験80%、評価練習への取り組み態度20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業中に指定した箇所を復習すること。また、次回授業の領域について、教科書を読んで予習をしておくこと。

■ 教科書

書 名：高次脳機能障害学 第2版
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書 名：CT・MRI 画像解剖ポケットアトラス 第4版Ⅰ巻 頭部・頸部
 出版社：メディカル・サイエンス・インターナショナル

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

■ ポリシー該当項目

PT:CP ①③ / OT:CP ①②④
 DP と CP の関係については、ポリシーを参照してください。

授業科目	高次脳機能障害学Ⅲ				
担当者	林部 美紀	国試出題基準	Ⅱ -3-C、Ⅱ -8-D		
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

本講義では、高次脳機能障害の各総合検査について、目的を理解し、演習を通して実施技術を習得し、結果より症状をまとめ、障害機序に沿った治療プログラムの立案を学ぶ。

■ 到達目標

1. 高次脳機能の総合検査について、目的を理解し、演習を通して実施できるようになる。
2. 総合検査結果から症状を分析し、障害機序について考察できるようになる。
3. 障害機序に対応したリハビリテーションプログラムを立案できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 注意機能検査（標準注意検査法・標準意欲検査法）の演習。
 第2回 注意機能検査の結果の分析とリハビリテーションプログラムの立案。
 第3回 記憶検査（リバミード行動記憶検査など）の演習。
 第4回 記憶検査の結果の分析 / プログラムの立案
 第5回 半側空間無視検査（BIT 行動性無視検査など）の演習。
 第6回 半側空間無視検査の結果の分析 / プログラムの立案。
 第7回 遂行機能障害の評価（BADS）の演習
 第8回 遂行機能障害の評価の結果の分析 / プログラムの立案

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する
 定期試験70%、検査演習の取組み、考察など30%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

実施する検査手順は、事前に勉強しておくこと。

■ 教科書

高次脳機能障害学 第2版 医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②④

授業科目	作業療法研究法				
担 当 者	井口 知也	国試出題基準	I -1-EF、I -2		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

作業療法の発展を支えるのは研究であることを理解し、研究に必要な基礎知識を学ぶ。また、演習を通じて、卒業論文実施計画書を作成する技術を身につける。

■ 到達目標

- 1) 研究疑問を立て、研究を進める方法を理解する
- 2) 研究の類型やデザインを理解する
- 3) 研究計画の具体的な手順を学び、実践することができる

■ 授 業 計 画

- 第1回 作業療法研究法の概論
- 第2回 研究とは何をするのか
- 第3回 研究の類型と論文構成
- 第4回 研究に関わる基礎知識
- 第5回 研究論文の発表と手続き
- 第6回 実際の作業療法研究事例について
- 第7回 研究疑問の立て方と解決法
- 第8回 文献検索（演習）
- 第9回 文献検索（演習）
- 第10回 研究計画の報告①
- 第11回 研究計画の報告②
- 第12回 研究計画書の作成（演習）
- 第13回 研究計画書の作成（演習）
- 第14回 研究計画書の作成（演習）
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する

レポート：80%，取り組み態度：20%（欠席，遅刻早退も評価される）

なお，欠席，遅刻早退は減点対象（無断遅刻・無断欠席は－10点、事前連絡のある遅刻・欠席は－5点とする）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義ごとにレポート課題を設定するので，次回の講義開始までに提出する。

レポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする。

■ 教 科 書

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ⑦

授業科目	作業療法評価学Ⅱ（測定と評価）（新カリ）				
担当者	林部 美紀			国試出題基準	Ⅱ -3 ～ 4
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

作業療法評価場面で用いる各種検査・測定にはどのようなものがあるかを知り、その方法を理解する。

■ 到達目標

1. 作業療法場面で用いる検査・測定を知る
2. 作業療法場面で用いいる検査・測定を正しい方法で行う
3. 作業療法場面で用いる検査・測定を正確に実施する（オリエンテーション含む）

■ 授業計画

- 第1回
- 第2回 オリエンテーション
関節の動きと各種測定（下肢）
関節の動きと各種測定（下肢）
- 第3回
- 第4回 関節の動きと各種測定（体幹）
関節の動きと各種測定（手指）
- 第5回
- 第6回 ROM 測定実技試験
ROM 測定実技試験
- 第7回
- 第8回 筋力測定の方法
筋力測定の方法
- 第9回
- 第10回 筋力測定の方法
筋力測定の方法
- 第11回
- 第12回 筋力測定 実技試験
筋力測定 実技試験
- 第13回
- 第14回 反射のみかた
反射のみかた、筋緊張のみかた
- 第15回
- 第16回 筋の随意運動のみかた
筋の随意運動のみかた
- 第17回
- 第18回 筋の随意運動のみかた
筋の随意運動のみか
- 第19回
- 第20回 筋の随意運動のみかた試験
高次脳機能障害のみかた
- 第21回
- 第22回 高次脳機能障害のみかた
高次脳機能障害のみかた

第23回
第24回 バランスの見方
 バランスの見方
第25回
第26回 12脳神経のみかた
 12脳神経のみかた
第27回
第28回 ADL 評価について
 ADL 評価について
第29回
第30回 感覚障害のみかた
 感覚障害のみかた

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する

配点は筆記試験70%、レポート・報告30%とする。いずれの試験も60%以上で合格とする。筆記試験は再試験を実施する。実技試験も同様に再試験は実施する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

解剖学・生理学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内ですべてを網羅することは困難である。そのため、解剖学、生理学、運動学の知識の整理、復習を行っておくこと。授業後のレポート課題を必ず提出すること。

■ 教科書

書 名：標準作業療法学 作業療法評価学 第2版

出版社：医学書院

書 名：新・徒手筋力検査法 第8版

出版社：協同医書出版社

書 名：改訂第2版 神経診察クローズアップ正しい病巣診断のコツ

出版社：メジカルビュー社

■ 参考図書

書 名：身体障害作業療法学 (作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 4)

出版社：メジカルビュー社

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③④

授業科目	作業療法評価学Ⅲ（評価プロセス）（新カリ）				
担当者	橋本卓也・辻郁・吉田文・井口知也（オムニバス）			国試出題基準	Ⅱ -3 ～ 7
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

提示された事例等の情報を十分読み込み理解して整理することで、作業療法評価の方法と考え方を学ぶものである。

■ 到達目標

提示された事例の

1. 記述内容が理解でき専門用語が系統的に知識として蓄積できる。
2. 情報を生活機能（あるいは障害）の階層に分類・整理できる。
3. 情報の収集法（面接・観察・検査測定等）と、その実施方法が分かる。
4. 全体像が分かる（情報を統合し解釈できる）
5. 作業療法ニーズが抽出でき、その理由を説明できる。
6. 作業療法計画（長期・短期目標、具体的なプログラム、判定指標等）が立案できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 作業療法過程における評価の目的と意義
- 第2回 ICF 分類と作業療法評価項目について
- 第3回 実習事例分析2 演習により学習とレポート作成
- 第4回 実習事例分析3 演習により学習とレポート作成
- 第5回 精神障害者の分析及び統合と解釈1（統合失調症の障害特徴、事例提示、用語調べ）
- 第6回 精神障害者の分析及び統合と解釈1（統合失調症の障害特徴、事例提示、用語調べ）2
- 第7回 精神障害者の分析及び統合と解釈3（精神障害事例の情報分析：ICF）3
- 第8回 精神障害者の分析及び統合と解釈3（精神障害事例の情報分析：ICF）4
- 第9回 精神障害者の分析及び統合と解釈（事例における評価・治療へのICFの利用）5
- 第10回 精神障害者の分析及び統合と解釈（事例における評価・治療へのICFの利用）6
- 第11回 中枢身体障害事例の分析及び統合と解釈1（作業療法評価とは？人体の構造と機能）
- 第12回 中枢身体障害事例の分析及び統合と解釈2
- 第13回 中枢身体障害事例の分析及び統合と解釈3
- 第14回 中枢身体障害事例の分析及び統合と解釈4
- 第15回 中枢身体障害事例の分析及び統合と解釈5
- 第16回 中枢身体障害事例の分析及び統合と解釈6
- 第17回 整形外科系機能障害事例の分析及び統合と解釈1
- （骨折の治癒過程それに伴って起こる機能障害、活動制限や参加制約について）
- 第18回 整形外科系機能障害事例の分析及び統合と解釈2（事例検討）
- 第19回 整形外科系機能障害事例の分析及び統合と解釈3（事例検討）
- 第20回 整形外科系機能障害事例の分析及び統合と解釈4（事例検討）
- 第21回 整形外科系機能障害事例の分析及び統合と解釈5（事例検討）
- 第22回 整形外科系機能障害事例の分析及び統合と解釈6（事例検討）
- 第23回 発達障害事例の分析及び統合と解釈1（運動機能障害をもつ子どもを中心に）－評価の視点と過程－
- 第24回 発達障害事例の分析及び統合と解釈2（運動機能障害をもつ子どもを中心に）－評価の視点と過程－
- 第25回 発達障害事例の分析及び統合と解釈3

(脳性マヒをもつ子どもの異常運動パターンの発達過程について)

第26回

同上 4 (事例検討、原始反射の国試問題含む)

第27回 運動機能障害をもつ子どもの評価の過程とポイント・発達障害をもつ子どもの評価について

第28回

同上 6 (感覚統合アプローチ含む)

第29回 評価プロセスのまとめ 1

第30回 評価プロセスのまとめ 2

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する

配点は筆記試験70%、レポート・報告30%とする。いずれの試験も60%以上で合格とする。筆記試験は再試験を実施する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各領域の授業について予習を行っておくこと（指定教科書、その他、授業に関する他の参考書等を読み込んでおくこと）次回の授業につながる内容に関しては、その日習った内容について復習しておくこと。指定されたレポートについては必ず期日までに提出すること。また、小テストの実施については必ず指定された範囲を予習して臨むこと。

■ 教科書

書 名：標準作業療法学（専門分野）作業療法評価学

著者名：岩崎テル子 他（編集）

出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

他者に説明できるまで、調べて熟考すること。分からないままにしないこと。

事例については、

- ①事例を読み込み用語を丁寧に調べる事、
- ②事例を読み込み全体像を把握する、
- ③事例の全体像を ICF の相互作用図で示し、文章化する。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③④

授業科目	身体障害治療学Ⅰ				
担当者	林部美紀・熊野宏治（オムニバス）			国試出題基準	Ⅲ -2, 6CDGK
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

身体障害に対する作業療法における基本的知識を学ぶ。疾患に共通して用いられる手技を実技を交えて実施する。また、治療原理や作業療法の実施に必要な考え方を疾患ごとの特徴を踏まえ、事例を交えて学ぶ。

■ 到達目標

1. 作業療法に必要な推論を理解できる。
2. 作業療法の治療原理を理解し、実践できる技術を習得する。
3. 各疾患ごとの治療の考え方が分かる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 身体機能作業療法の作業療法原理
- 第2回 身体機能作業療法の作業療法原理
- 第3回 様々な治療手技
- 第4回 様々な治療手技
- 第5回 様々な治療手技
- 第6回 様々な治療手技
- 第7回 身体機能作業療法学の基礎
- 第8回 身体機能作業療法学の基礎
- 第9回 脊髄損傷の作業療法
- 第10回 脊髄損傷の作業療法
- 第11回 脊髄損傷の作業療法
- 第12回 脊髄損傷の作業療法
- 第13回 切断の作業療法
- 第14回 熱傷・呼吸器疾患・心疾患・糖尿病の作業療法
- 第15回 熱傷・呼吸器疾患・心疾患・糖尿病の作業療法

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する
配点は筆記試験70%、レポート・報告30%とする。いずれも60%以上で合格とする。筆記試験は再試験を実施する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

解剖学・生理学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内ですべてを網羅することは困難である。そのため、解剖学、生理学、運動学の知識の整理、復習を行っておくこと。授業後のレポート課題を必ず提出すること。

■ 教 科 書

標準作業療法学 - 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 医学書院

■ 参 考 図 書

身体障害作業療法学 (作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 4) メジカルビュー社

■ 留 意 事 項

無断欠席や遅刻に注意してください.

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③④

授業科目	身体障害治療学Ⅱ				
担当者	林部 美紀	国試出題基準	Ⅲ-6C-a c, D-a, E		
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

疾患ごとの特徴を交えて作業療法の実践を学ぶ。また、疾患ごとの作業療法における思考過程を事例を通して学ぶ。疾患ごとの作業療法に応じて実技を学ぶ。

■ 到達目標

1. 各疾患の作業療法の方法が理解できる。
2. 各疾患の作業療法における思考過程が理解できる。
3. 各疾患の作業療法で実践できる技術を習得する。

■ 授業計画

- 第1回 関節リウマチの作業療法
- 第2回 関節リウマチの作業療法
- 第3回 関節リウマチの作業療法
- 第4回 末梢神経の作業療法
- 第5回 末梢神経の作業療法
- 第6回 末梢神経の作業療法
- 第7回 脳血管障害の作業療法
- 第8回 脳血管障害の作業療法
- 第9回 脳血管障害の作業療法
- 第10回 脳血管障害の作業療法
- 第11回 脳血管障害の作業療法
- 第12回 脳血管障害の作業療法
- 第13回 脳血管障害の作業療法
- 第14回 脳血管障害の作業療法
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

配点は筆記試験60%、レポート・報告30%、小テスト10%とする。筆記試験、レポート・報告、小テストを総合して60%以上を合格とする。筆記試験は再試験を実施する。遅刻・欠席は減点扱いとする。無断遅刻・無断欠席は - 10点、事前連絡のある遅刻・欠席は - 5点とする。レポートの締め切り時間を遅れた場合は - 5点とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

この講義で実施する各疾患に関する知識（以前に学んだ解剖学・生理学・運動学・内科学・神経内科学・整形外科学）を復習して講義に臨むこと。毎回の講義で学んだことを復習しておくこと。
レポート課題は必ず提出すること。

■ 教科書

書 名：標準作業療法学―専門分野 身体機能作業療法学
著者名：編集：岩崎テル子他
出版社：医学書院

■ 参 考 図 書

書 名：身体障害作業療法学 (作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 4)

著者名：長崎 重信

出版社：メジカルビュー社

■ 留 意 事 項

無断欠席や遅刻に注意してください。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②④

授業科目	身体障害治療学Ⅲ				
担当者	林部美紀・熊野宏治（オムニバス）			国試出題基準	Ⅲ -6CDE
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

身体障害に対する作業療法における基本的知識を学ぶ。疾患に共通して用いられる手技を実技を交えて実施する。また、治療原理や作業療法の実施に必要な考え方を疾患ごとの特徴を踏まえ、事例を交えて学ぶ。

■ 到達目標

1. 作業療法に必要な推論を理解できる。
2. 作業療法の治療原理を理解し、実践できる技術を習得する。
3. 各疾患ごとの治療の考え方が分かる。

■ 授業計画

- 第1回 骨疾患の作業療法
- 第2回 骨疾患の作業療法
- 第3回 骨疾患の作業療法
- 第4回 骨疾患の作業療法
- 第5回 神経変性疾患
- 第6回 神経変性疾患
- 第7回 神経・筋疾患の作業療法
- 第8回 神経・筋疾患の作業療法
- 第9回 ターミナルケアの作業療法
- 第10回 作業療法実践の枠組み
- 第11回 作業療法実践の枠組み
- 第12回 作業療法実践の枠組み
- 第13回 作業療法実践の枠組み
- 第14回 作業療法実践の枠組み
- 第15回 作業療法実践の枠組み

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する

配点は筆記試験70%、レポート・報告30%とする。いずれも60%以上で合格とする。筆記試験は再試験を実施する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

解剖学・生理学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内ですべてを網羅することは困難である。そのため、解剖学、生理学、運動学の知識の整理、復習を行っておくこと。授業後のレポート課題を必ず提出すること。

■ 教科書

標準作業療法学 - 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 医学書院

■ 参考図書

身体障害作業療法学 (作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 4) メジカルビュー社

■ 留 意 事 項

無断欠席や遅刻に注意してください.

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③④

授業科目	精神障害治療学Ⅰ				
担当者	足立一・松田匡弘・櫛田理沙・大谷将之（オムニバス）	国試出題基準	Ⅰ -1-E, Ⅰ -1-F, Ⅰ -1-F, Ⅱ -2-F, Ⅱ -2-G, Ⅲ -1-A, Ⅲ -1-B, Ⅲ -2-K, Ⅲ -2-L, Ⅲ -3-B, Ⅲ -3-D, Ⅲ -4-A, Ⅲ -3-C, Ⅳ -1- C		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

教科書及び文献を用いた講義と演習。作業療法実践報告

■ 到達目標

精神障害者に対する作業療法評価・治療に必要な基本的視点と方法を理解する

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション 統合失調症
- 第2回 統合失調症の作業療法
- 第3回 統合失調症の作業療法
- 第4回 感情障害の作業療法
- 第5回 神経症性障害の作業療法
- 第6回 精神症状評価
- 第7回 社会生活技能評価
- 第8回 認知機能評価
- 第9回 精神科医療における作業療法プログラムの現状
- 第10回 精神科医療における作業療法プログラムの現状
- 第11回 認知行動療法と作業療法
- 第12回 精神障害者への OTIPM（大谷先生）
- 第13回 精神障害者への OTIPM（大谷先生）
- 第14回 精神科クリニックでの実践報告（櫛田先生）
- 第15回 精神科クリニックでの実践報告（松田先生）

■ 評価方法

小テスト及びレポート40% 定期テスト60%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

定期的に小テストを行うため、その都度、復習を促す

■ 教 科 書

書 名：作業療法学全書改訂第3版第5巻作業治療学2精神障害
 著者名：社団法人日本作業療法士協会監修 富岡詔子・小林正義編集
 出版社：協同医書出版社

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学
 著者名：奈良勲 鎌倉矩子 監修
 出版社：医学書院

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③④⑤⑦

授業科目	精神障害治療学Ⅱ				
担当者	足立一・山本理江・松下健史・上原央（オムニバス）	国試出題基準	Ⅰ -1-F, Ⅰ -1-G, Ⅰ -2-A, Ⅱ -2-F, Ⅱ -2-G, Ⅱ -2-J, Ⅲ -1-A, Ⅲ -1-B, Ⅲ -2-K, Ⅲ -2-L, Ⅲ -3-B, Ⅲ -3-C, Ⅳ -1-B, Ⅳ -1-C		
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

教科書及び文献を用いた講義と演習。作業療法実践報告

■ 到達目標

精神障害者に対する作業療法評価・治療に必要な基本的知識と技術を習得する。

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション てんかんの作業療法
- 第2回 人格障害の作業療法
- 第3回 摂食障害の作業療法
- 第4回 アルコール依存症の作業療法
- 第5回 脳器質性障害の作業療法
- 第6回 知的・発達障害の作業療法
- 第7回 精神障害者における就労支援と作業療法
- 第8回 精神障害者における就労支援と作業療法
- 第9回 IPS ストレングスモデル
- 第10回 健康管理のための作業療法
- 第11回 健康管理のための作業療法
- 第12回 精神障害者への認知作業療法（上原先生）
- 第13回 精神障害者への認知作業療法（上原先生）
- 第14回 精神科クリニックでの実践報告（山本先生）
- 第15回 精神科クリニックでの実践報告（松下先生）

■ 評価方法

小テスト及びレポート40% 定期テスト60%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

定期的に小テストを行うため、その都度、復習を促す

■ 教 科 書

書 名：作業療法学全書改訂第3版第5巻作業治療学2精神障害
 著者名：社団法人日本作業療法士協会監修 富岡詔子・小林正義編集
 出版社：協同医書出版社

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学
 著者名：奈良勲 鎌倉矩子 監修
 出版社：医学書院

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③④⑤⑦

授業科目	発達障害治療学Ⅰ				
担 当 者	小林 哲理			国試出題基準	Ⅱ -7-EF, Ⅲ -6-EF
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

子どもの生活における遊びや作業課題全般への関わりをもつ視点で、発達障害領域の作業療法を学習する。

■ 到達目標

感覚・知覚・認知・行動の発達と障害との相互関係が説明できる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション、イントロダクション（発達障害領域の作業療法）
- 第2回 子どもの発達と作業療法Ⅰ 姿勢・運動発達とその背景①（粗大運動・微細運動）
- 第3回 子どもの発達と作業療法Ⅰ 姿勢・運動発達とその背景②（口腔運動発達）
- 第4回 子どもの発達と作業療法Ⅰ 姿勢・運動発達とその背景③（正常筋緊張、原始反射の統合と立ち直り平衡反応の出現）
- 第5回 子どもの発達と作業療法Ⅱ 感覚統合機能の発達①
- 第6回 子どもの発達と作業療法Ⅱ 感覚統合機能の発達②
- 第7回 子どもの発達と作業療法Ⅲ 認知・思考機能の発達
- 第8回 子どもの発達と作業療法Ⅳ コミュニケーション機能の発達
- 第9回 子どもの発達と作業療法Ⅴ 子どもの心理・社会的発達と遊び①
- 第10回 子どもの発達と作業療法Ⅴ 子どもの心理・社会的発達と遊び②
- 第11回 子どもの発達と作業療法Ⅵ 子どもの心理・社会的発達とセルフケア
- 第12回 発達障害領域の作業療法評価Ⅰ（評価の焦点、流れ、情報収集および面接・観察の視点）
- 第13回 発達障害領域の作業療法評価Ⅱ（発達像を把握するための検査①）
- 第14回 発達障害領域の作業療法評価Ⅱ（発達像を把握するための検査②）
- 第15回 発達障害領域の作業療法評価Ⅲ（評価結果と障害構造の分析）

■ 評価方法

筆記試験（60%）、レポート・小テスト等提出課題（40%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：授業前に教科書の該当箇所を読み、授業における習得目標を明確にする 復習：授業で指定したレポート課題等に取り組む。

■ 教 科 書

書 名：イラストでわかる発達障害の作業療法
 著者名：監修：上杉雅之 編集：辛島千恵子
 出版社：医歯薬出版

書 名：作業療法学ゴールドマスターテキスト7 発達障害作業療法学（第2版）
 著者名：監修：長崎重信 編集：神作一実
 出版社：株式会社 メジカルビュー社

■ 参考図書

書 名：発達障害の作業療法 基礎編（第2版）

著者名：編集：鎌倉矩子、山根寛、二木淑子 著者：岩崎清隆、岸本光夫

出版社：三輪書店

書 名：発達障害の作業療法 実践編（第2版）

著者名：編集：鎌倉矩子、山根寛、二木淑子 著者：岩崎清隆、岸本光夫

出版社：三輪書店

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②④

授業科目	発達障害治療学Ⅱ				
担 当 者	小林 哲理			国試出題基準	Ⅱ -7-EF, Ⅲ -6-EF
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

発達障害治療学Ⅰの講義を踏まえて、疾患、障害、年齢別に作業療法における援助技法を学習・演習する。

■ 到達目標

発達障害領域の作業療法の実際についてモデル事例を通じて理解する。
遊びや作業を可能にする援助技法の基本を習得する。

■ 授 業 計 画

- 第1回 疾患・障害別発達障害領域作業療法の実際（感覚統合機能、姿勢と運動及び心理・社会的機能へのアプローチ概論）①
- 第2回 疾患・障害別発達障害領域作業療法の実際（感覚統合機能、姿勢と運動及び心理・社会的機能へのアプローチ概論）②
- 第3回 脳性麻痺①
- 第4回 脳性麻痺②
- 第5回 脳性麻痺③
- 第6回 脳性麻痺④
- 第7回 重症心身障害
- 第8回 二分脊椎
- 第9回 筋ジストロフィー
- 第10回 知的障害・Down 症候群
- 第11回 発達障害概論
- 第12回 発達障害－広汎性発達障害
- 第13回 発達障害－注意欠陥多動症
- 第14回 発達障害－学習障害
- 第15回 家庭生活支援 ペアレントトレーニング、障害児の子育て支援

■ 評価方法

筆記試験（60％）、小テスト・レポート等提出解題（40％）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：授業前に教科書の該当箇所を読み、授業における習得目標を明確にする
復習：授業で指定したレポート課題等に取り組む。

■ 教 科 書

書 名：イラストでわかる発達障害の作業療法
著者名：監修：上杉雅之 編集：辛島千恵子
出版社：医歯薬出版

書 名：作業療法学ゴールドマスターテキスト7 発達障害作業療法学（第2版）
著者名：監修：長崎重信 編集：神作一実
出版社：株式会社 メジカルビュー社

■ 参考図書

書 名：発達障害の作業療法 基礎編（第2版）

著者名：編集：鎌倉矩子、山根寛、二木淑子 著者：岩崎清隆、岸本光夫

出版社：三輪書店

書 名：発達障害の作業療法 実践編（第2版）

著者名：編集：鎌倉矩子、山根寛、二木淑子 著者：岩崎清隆、岸本光夫

出版社：三輪書店

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②④

授業科目	老年期障害治療学Ⅰ				
担 当 者	井口知也・森本かえで（オムニバス）	国試出題基準	Ⅱ -3-BCGH, Ⅱ -7-A Ⅱ -9-D, Ⅲ -1-A, Ⅲ -2-B		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

高齢者の加齢による身体的、心理的、社会的な変化や老年期障害に対する評価、治療に関する基礎知識を学ぶ。老年期特有の障害に対する作業療法アプローチの概要やマネジメントを教授する。

■ 到達目標

- 1) 高齢者が生きてきた時代背景と社会の推移を理解する。
- 2) 高齢者の心身機能、その特性について理解する。
- 3) 老年期障害の生活・障害構造、社会資源を理解し、それらに対する具体的援助を考えられる。
- 4) 老年期作業療法で活用できる検査・測定方法を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 高齢社会に伴う諸問題
- 第2回 高齢者の生きてきた時代背景・社会の推移について1
- 第3回 高齢者の生きてきた時代背景・社会の推移について2
- 第4回 高齢期の特徴1
- 第5回 高齢期の特徴2
- 第6回 介護保険制度
- 第7回 老年期作業療法の実践（基本的枠組み）
- 第8回 老年期作業療法の実践（特定高齢者、一般高齢者について）
- 第9回 老年期障害のマネジメント1
- 第10回 老年期障害のマネジメント2
- 第11回 老年期疾患別作業療法（認知症）①
- 第12回 老年期疾患別作業療法（認知症）②
- 第13回 老年期疾患別作業療法（整形疾患）
- 第14回 老年期疾患別作業療法（中枢神経疾患）
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する

レポートおよび発表、小テスト 40%、定期試験 60%するが、いずれも60%以上ないと合格としない。
 なお、欠席、遅刻早退は減点対象（無断遅刻・無断欠席は－10点、事前連絡のある遅刻・欠席は－5点とする）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義の際、前回の内容に関しての小テストを実施したり、レポートを提出する。また、講義前に予習として教科書を読んでくること。小テストやレポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする。

■ 教 科 書

書 名：高齢期障害領域の作業療法 第2版
 著者名：山田 孝 編集
 出版社：中央法規

■ 参考図書

書 名：作業療法学全書第7巻 老年期

著者名：村田 和香 編集

出版社：協同医書出版社

書 名：作業療法学全書第13巻 地域作業療法学

著者名：太田 睦美 編集

出版社：協同医書出版社

書 名：認知症の作業療法

著者名：小川 敬之, 竹田 徳則 編集

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

個々の文脈にある人間と生活という視点に立ち、作業の意味をしっかりと捉えること。その上で、高齢者にとっての作業とは何かを考え、生活を支援する者としての作業療法士の役割の意味を吟味してほしい。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②⑤

授業科目	老年期障害治療学Ⅱ				
担 当 者	井口知也・熊野宏治・森本かえで (オムニバス)	国試出題基準	Ⅱ -3-BCGH, Ⅱ -7-A Ⅱ -9-D, Ⅲ -1-A, Ⅲ -2-B		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

高齢者の特性に合わせた評価の方法，高齢者に対して使用頻度の高い生活評価，身体機能評価，認知機能評価，心理機能評価の実施方法などについて演習を実施する．評価から得られた情報をもとに全体像を把握する方法を学び，個々の文脈に沿った意味ある作業を提供し実践できる手だてを教授する．

■ 到達目標

- 1) 老年期での作業療法実践に必要な知識と技術の習得を目指す．
- 2) 高齢者を対象とした作業療法プログラムを立案できる．

■ 授 業 計 画

- 第1回 老年期障害治療学Ⅰの振り返りと老年期障害治療学Ⅱのオリエンテーション
- 第2回 老年期作業療法の実践（プロセス）
- 第3回 老年期作業療法の実践（検査測定）
- 第4回 老年期作業療法の実践（計画立案と実施，再考）①
- 第5回 老年期作業療法の実践（計画立案と実施，再考）②
- 第6回 入所系サービスにおける作業療法
- 第7回 施設系サービスにおける作業療法
- 第8回 通所，訪問系における作業療法
- 第9回 認知症高齢者に対する事例検討1
- 第10回 認知症高齢者に対する事例検討2
- 第11回 中枢神経疾患に対する事例検討1
- 第12回 中枢神経疾患に対する事例検討2
- 第13回 整形疾患に対する事例検討1
- 第14回 整形疾患に対する事例検討2
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する

レポートおよび発表，小テスト 40%，定期試験 60%するが，いずれも60%以上ないと合格としない．
なお，欠席，遅刻早退は減点対象（無断遅刻・無断欠席は－10点、事前連絡のある遅刻・欠席は－5点とする）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義の際，前回の内容に関しての小テストを実施したり，レポートを提出する．また，講義前に予習として教科書を読んでくこと．小テストやレポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする．

■ 教 科 書

書 名：高齢期障害領域の作業療法 第2版
著者名：山田 孝 編集
出版社：中央法規

■ 参考図書

書 名：作業療法学全書第7巻 老年期

著者名：村田 和香 編集

出版社：協同医書出版社

書 名：作業療法学全書第13巻 地域作業療法学

著者名：太田 睦美 編集

出版社：協同医書出版社

書 名：認知症の作業療法

著者名：小川 敬之, 竹田 徳則 編集

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

個々の文脈にある人間と生活という視点に立ち、作業の意味をしっかりと捉えること。その上で、高齢者にとっての作業とは何かを考え、生活を支援する者としての作業療法士の役割の意味を吟味してほしい。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②⑤

授業科目	作業療法治療学実習Ⅰ				
担当者	辻 都・OT専任教員（オムニバス）			国試出題基準	Ⅱ
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

教育課程で習得した種々の評価技法を実際の対象者に実施し、身体的・心理的・社会的状況を系統立てて報告する

■ 到達目標

- ①対象者に合わせた評価が適切に行えること
- ②情報を整理し、統合することができること
- ③評価から得た対象者の全体像をレポートにまとめ、報告ができること

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
評価の復習
- 第2回 評価の復習
- 第3回 対象者Ⅰ（脳血管障害者）の情報公開・評価計画の立案
- 第4回 対象者Ⅰ（脳血管障害者）評価実施①
- 第5回 実習後フィードバック①
- 第6回 対象者Ⅰ（脳血管障害者）評価実施②
- 第7回 実習後フィードバック②
- 第8回 対象者Ⅰ（脳血管障害者）評価実施③
- 第9回 対象者Ⅰ（脳血管障害者）評価実施④
- 第10回 実習後フィードバック①
- 第11回 対象者Ⅰ（脳血管障害者）評価実施⑤
- 第12回 実習後フィードバック②
- 第13回 事例まとめ
- 第14回 事例報告会Ⅰ
- 第15回 事例報告会内容の修正／提出

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する

レポート：50％ 報告：30％ 実習態度：20％

実習後にはレポートをまとめ期限内に提出すること。レポートは正当な理由なく遅れた場合は、評価対象としない場合がある。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

この科目は作業療法評価で習得した知識・技術が不可欠である。事前準備やOT評価学で学習した評価は必ず復習し、まずは学生間で面接や観察、検査・測定が無駄なく、的確に出来る状態に在ること。

■ 教科書

標準作業療法学 作業療法評価学 医学書院

■ 参考図書

■ 留 意 事 項

無断欠席や遅刻に注意してください.

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②④

授業科目	作業療法治療学実習Ⅱ				
担 当 者	井口知也・OT 専任教員（オムニバス）			国試出題基準	Ⅱ -3-BCE, G Ⅲ -1, 2-E
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

教育課程で習得した種々の評価方法および治療技法を、実際の対象者に実施し、ICF の観点から系統立てて、報告する

■ 到達目標

1. 作業療法治療学実習Ⅰで習得した知識・技術をもとに、臨床場面で対象者のニーズに合わせた作業療法案が立案できる
2. 立案した作業療法計画を実践できる
3. 実践結果をフィードバック出来る
4. 上記の実践を報告できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
障害特性の学習、情報収集案作成
- 第2回 障害特性の学習、情報収集案作成
- 第3回 情報の分析と統合
- 第4回 情報の分析と統合
- 第5回 作業療法プログラム立案
- 第6回 作業療法プログラム修正・立案
- 第7回 実習フィードバック
- 第8回 事例報告書作成
- 第9回 障害特性の学習、情報収集案作成
- 第10回 情報の分析と統合
- 第11回 作業療法プログラム立案
- 第12回 作業療法プログラム修正・立案
- 第13回 実習フィードバック・事例報告書作成
- 第14回 事例報告
- 第15回 事例報告

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する

レポート：50%，報告：30%，取り組み態度：20%（欠席，遅刻早退も評価される）

なお，欠席，遅刻早退は減点対象（無断遅刻・無断欠席は－10点、事前連絡のある遅刻・欠席は－5点とする）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義ごとにレポート課題を設定するので，次回の講義開始までに提出する．また，予習として担当事例の医学的情報や評価に必要な検査・測定方法を調べて練習すること．

■ 教 科 書

■ 参考図書

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ②④⑥

授業科目	作業療法技術論Ⅲ				
担 当 者	山田 隆人	国家出題基準	I -3-A, V-1-D, 2-BD		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

科目担当者の指導の下、障害者スポーツの企画・運営学習を中心に行う。

■ 到達目標

障害者スポーツ分野における社会資源の開発や運営に必要な知識と技術を習得する。

■ 授 業 計 画

第1回 オリエンテーション
第2回 障害者スポーツ概論
第3回 障害者スポーツ概論
第4回 障害者スポーツ概論
第5回 障害者スポーツイベントの企画
第6回 障害者スポーツイベントの企画
第7回 障害者スポーツイベントの企画
第8回 障害者スポーツの運営
第9回 障害者スポーツの運営
第10回 障害者スポーツイベントの企画
第11回 障害者スポーツイベントの企画
第12回 障害者スポーツイベントの企画
第13回 障害者スポーツの運営
第14回 障害者スポーツの運営
第15回 まとめ

■ 評価方法

レポート課題100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業の進行に合わせて予習復習を促す。授業時間内で完成できなかったレポートは宿題とする。

■ 教 科 書

書 名：PT・OT・ST のための解剖学
著者名：渡辺正仁 監修
出版社：廣川書店

■ 参考図書

書 名：ネッター解剖学アトラス
著者名：相磯貞和 訳
出版社：南江堂

■ 留 意 事 項

身体に触知などを行うので、身体を触り易い服装で臨んでください。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②③④⑦

授業科目	臨床ゼミナールⅢ				
担当者	辻 郁			国試出題基準	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

専門基礎科目及び作業療法評価学，作業療法治療学等専門科目で学んだことを基盤とする。

1. 国家試験問題を活用し，これまで得た知識をグループ学習によって強化する。
2. 人の生活機能（障害）を構造的に捉えることを習得するため，事例報告からの情報収集を行い，ICF に沿って事例分析及び統合を行い，その結果を報告する。

■ 到達目標

1. 国家試験過去問題から専門基礎科目を学習し，理解できる
2. 事例を読み込んで ICF に沿った分析と統合を行える

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション ICF 確認テスト 国家試験過去問題試験
- 第2回 国家試験過去問題グループ学習 1
- 第3回 国家試験過去問題グループ学習 2
- 第4回 事例分析 1-1
- 第5回 事例分析 1-2
- 第6回 国家試験過去問題グループ学習 3
- 第7回 国家試験過去問題グループ学習 4
- 第8回 国家試験過去問題グループ学習 5
- 第9回 事例分析 2-1
- 第10回 事例分析 2-2
- 第11回 国家試験過去問題グループ学習 6
- 第12回 国家試験過去問題グループ学習 7
- 第13回 事例分析 3-1
- 第14回 事例分析 3-2
- 第15回 結果報告とまとめ

■ 評価方法

筆記試験【ミニテスト・定期試験】：60% 事例分析のポートフォリオ：40%
 各々 60%以上を獲得した場合合格とする
 取り組み態度：事前届出なしの欠席、遅刻、早退は減点の対象となる

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

本科目はすべてグループ学習を基本とし，具体的な学習計画を立てたうえでの進行であるため，それぞれの課題を予習として仕上げておくこと。授業の翌回にミニテストを実施するので，復習しておくこと

■ 教 科 書

■ 参考図書

書 名：国際生活機能分類 - 国際障害分類改訂版 -
 著者名：世界保健機関（WHO）
 出版社：中央法規

■ 留 意 事 項

これまでの学習内容が実践への橋渡しとなるよう，自ら積極的に取り組むこと
自ら取り組むことで，学習の楽しさや作業療法の面白さ，大切さが実感できることを期待する

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②⑤⑥⑦

授業科目	臨床ゼミナールⅣ				
担当者	辻 郁			国試出題基準	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

臨床現場での実習直前の準備のための科目とする
情報の統合の方法と国家試験問題を基盤にした知識の定着化を図るためにグループ単位で学習する

■ 到達目標

事例を読み込めて全体像が把握出来る
専門基礎科目で学んだ知識が定着している
グループ学習の方法を掴んでいる

■ 授業計画

第1回 オリエンテーション
第2回 事例分析 1-1
第3回 事例分析 1-2
第4回 関連する国家試験過去問題グループ学習 1
第5回 関連する国家試験過去問題グループ学習 2
第6回 関連する国家試験過去問題グループ学習 3
第7回 結果報告とまとめ
第8回 事例分析 2-1
第9回 事例分析 2-2
第10回 関連する国家試験過去問題グループ学習 4
第11回 関連する国家試験過去問題グループ学習 5
第12回 関連する国家試験過去問題グループ学習 6
第13回 事例分析 3-1
第14回 事例分析 3-2
第15回 結果報告とまとめ

■ 評価方法

筆記試験（ミニテスト・定期試験）：80％ グループ学習のポートフォリオ：20％ 各々 60％以上を獲得した場合に合格とする
取り組み態度（無断の欠席や早退などは減点の対象となる）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

グループ学習を基本とし，具体的な学習計画を立てたうえでの進行であるため，それぞれの課題を予習として仕上げておくこと
学習した内容を復習し，その内容をポートフォリオに追加しておくこと

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留 意 事 項

これまでの学習内容が実践への橋渡しとなるよう，自ら積極的に取り組むこと
自ら取り組むことで，学習の楽しさや作業療法の面白さ，大切さが実感できることを期待する

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②⑤⑥⑦

授業科目	在宅ケア論				
担 当 者	山田隆人・益子千枝・平川隆啓（オムニバス）			国試出題基準	Ⅳ 1Aa-b
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

現状の社会福祉システムの理解、社会福祉において実施されている生活支援の実際を学びます。加えて、生活行為向上マネジメントについて、学び支援過程を事例を通じて学びます。

■ 到達目標

障がいを持つ方々の生活支援の法制度について理解する
 障がいを持つ方々の生活支援について理解する
 学んだ内容をまとめ、自身の意見を記述することができる
 生活行為向上マネジメントを理解する
 生活行為向上マネジメントの流れを理解する

■ 授業計画

第1回 オリエンテーションと在宅ケアとは
 第2回 社会福祉の現状の姿
 第3回 社会福祉の実践状況の理解
 第4回 MTDLP の概要
 第5回 MTDLP の概要の評価内容
 第6回 MTDLP の支援内容の検討の流れ
 第7回 MTDLP 事例検討 1
 第8回 MTDLP 事例検討 2

■ 評価方法

課題の提出が50%、課題提出物の内容50%で評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義毎に次回の講義への課題を提示する。講義開始までの課題および予習を行っておくこと。

■ 教 科 書

書 名：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント
 著者名：一般社団法人 日本作業療法士協会
 出版社：一般社団法人 日本作業療法士協会

■ 参考図書

書 名：事例で学ぶ生活行為向上マネジメント
 著者名：一般社団法人 日本作業療法士協会
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

本講義は、外部講師の協力の下に計画進行している部分がある。その為、日程等は外部との調整により、講義日程は変更されることがある。また、学外での見学等を行う予定にしている。服装等は、見学等の内容に応じて、指定する場合がある。

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②④⑥

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	地域作業療法学Ⅰ				
担当者	橋本卓也、酒井京子（オムニバス）	国試出題基準	1-4-B、Ⅱ -4-B、Ⅲ -1-A、B、C、Ⅱ -2-E		
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

さまざまなニーズをもつ障害児・者や高齢者等が地域社会の中で“いきいき”と、そして質の高い生活を送ることができるために作業療法士は何を提供することができるのか？彼（彼女）らの豊かな生活を支えるために必要な作業療法の機能・役割について学ぶ。また、ライフステージにおける生活の変化と、それらに対応した法制度等とを関連づけながら地域作業療法についての考察を深める。

■ 到達目標

- ①地域作業療法の理念や目的を理解する
- ②ライフステージ及び障害等に起因する生活の変化に応じた地域作業療法の実践を理解する
- ③ライフステージの変化や障害児・者の希求する生活に応じた関連法制度を理解する
- ④地域作業療法展開過程における他職種・他機関との連携について理解する

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション
地域リハビリテーションおよび地域作業療法について（歴史・理念および目的、機能と役割）
- 第2回 地域で生活することの意味（作業療法の視点から捉えた『地域』とは、『生活』とは）
個と環境の相互作用における生活の変化について
- 第3回 ライフステージごとの生活特性と健康・生活ニーズ（Ⅰ）（乳児期～学童期～思春期）
- 第4回 ライフステージごとの生活特性と健康・生活ニーズ（Ⅱ）（青年期～壮年期～老年期）
- 第5回 地域において作業療法の対象となる人たちが及びその人たちに対する支援の視点
- 第6回 現行の社会保障制度において作業療法の対象となりにくい 人々への支援とその可能性
- 第7回 地域における認知症高齢者への支援について
- 第8回 地域で癌を生きる対象者に対する支援について
- 第9回 地域作業療法に関連する制度・施策Ⅰ
- 第10回 地域作業療法に関連する制度・施策Ⅱ
- 第11回 地域作業療法に求められるコミュニケーション能力
- 第12回 発達障害についてⅠ -その特徴と理解について-
- 第13回 発達障害についてⅡ -就労支援に焦点をあてて-
- 第14回 地域作業療法における評価の視点
- 第15回 発達障害者への就労支援の実践（就労支援の現場より：非常勤講師）

■ 評価方法

定期試験 80%
レポート 20% その他、出欠状況・授業中の態度等を加味し総合的に評価する

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

■ 教 科 書

■ 参考図書

書 名：地域作業療法学（作業療法学全書 第13巻）

著者名：太田睦美 編著

出版社：協同医書出版社

書 名：地域作業療法学（標準作業療法学 専門分野）

著者名：小川恵子 編集

出版社：医学書院

書 名：地域作業療法学

著者名：監修：長崎重信 編集：徳永千尋 田村孝司

出版社：日本作業療法士協会

■ 留意事項

病院で行われている OT と地域で行われている OT の違い

（概念、考え方、アプローチの違い等）を学ぶこと

授業への積極的な参加を望む

■ ポリシー該当項目

授業科目	地域作業療法学Ⅱ				
担 当 者	橋本卓也・小野稿樹・多崎沙綾香・田中歩（オムニバス）			国試出題基準	Ⅳ -1-A
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

人々の生活の環境因子としての地域概況から医療・保健・福祉等に関する情報を把握し、作業療法の視点から地域の健康・生活ニーズを推測するとともに、その解決方法を考察する。ACT モデルの実践者からその現状・方法等を学び既存の精神科作業療法を振り返る機会をもつ。地域で行われている具体的な作業療法の実践を学ぶ

■ 到達目標

- ①既存のデータから地域の人びとの健康・生活課題を推測できる（地域診断）
- ②導きだされた健康・生活ニーズに対して作業療法視点から解決方法が立案できる。
- ③地域作業療法の全体像が理解できる。
- ④介護保険制度下で行われている作業療法が理解できる

■ 授業計画

- 第1回 高齢者リハビリテーションの現状と課題
- 第2回 介護保険制度領域における作業療法の実践と課題（医療機関と在宅リハ業務の違い）
- 第3回 介護保険制度領域における作業療法の実践と課題（訪問リハビリテーション）
- 第4回 介護保険制度領域における作業療法の実践と課題（通所リハビリテーション・介護老人保健施設）
- 第5回 地域作業療法における多職種連携とチームアプローチについて
- 第6回 訪問リハビリテーションの実践（神経難病者に対するリハビリテーション）について（非常勤講師）
- 第7回 地域（地区）診断について
- 第8回 既存のデータから地域の医療・保健・福祉等に関する課題を整理する（GW）
- 第9回 既存のデータから地域の医療・保健・福祉等に関する課題を整理する（GW）
- 第10回 既存のデータから地域の医療・保健・福祉等に関する課題を整理する（発表準備・PP作成）
- 第11回 地域診断について（発表）
- 第12回 地域診断について（発表）
- 第13回 住宅改修と生活の工夫の視点
- 第14回 包括型地域生活支援アプローチ（ACT モデル）について
- 第15回 包括型地域生活支援アプローチ（ACT モデル）の実践（非常勤講師）

■ 評価方法

授業中に課すレポート・発表等にて評価する（100％） その他、出席率、授業中の態度も評価対象とする

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業中に参考図書等を紹介するので読んでくること。

■ 教 科 書

■ 参考図書

■ 留意事項

グループワーク等を通じて協調して課題に取り組むようにすること。

■ ポリシー該当項目

カリキュラムポリシー該当項目

OT:CP ①③⑤ (DP ①②③)

授業科目	日常生活活動学				
担 当 者	山田 隆人	国試出題基準	Ⅰ 3 A a, Ⅱ 4 A a-g, Ⅱ 6 B a-b, Ⅲ 3Ba-f, Ⅲ 3 C a, Ⅳ 1 G a-c		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

作業療法は人の生活行為を広く社会の場において支援する。それら支援を行うには、ADL の概念を理解する必要がある。さらに、ADL 支援を行うためには、対象者の生活機能を評価、生活行為への支援方法を検討し、実施していく。本講義では、これら ADL の支援を行うための過程を学ぶ。

■ 到達目標

- ・ ADL について理解する
- ・ ADL 評価に関して一連の手続きについて理解する
- ・ ADL 支援計画立案の構造について理解する

■ 授 業 計 画

- 第1回 ADL の基礎
- 第2回 ADL の評価
- 第3回 ADL の治療理論
- 第4回 起居移動
- 第5回 整容
- 第6回 更衣
- 第7回 排泄
- 第8回 入浴
- 第9回 睡眠・栄養・運動
- 第10回 炊事
- 第11回 掃除
- 第12回 買い物・経済管理
- 第13回 事例検討 1
- 第14回 事例検討 2
- 第15回 事例検討 3

■ 評価方法

課題の提出およびその内容（100%），
出席状況（無断欠席や遅刻はマイナス評価），の結果を総合的に評価する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業前に教科書の該当ページを全て読んでくること。
確認のための課題・テストなどを実施する場合がある。

■ 教 科 書

書 名：標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学
著者名：編集 濱口豊太
出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：”作業”の捉え方と評価・支援技術
著者名：社団法人 日本作業療法士協会 監修
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①②④
DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	卒業研究論文				
担 当 者	辻 都・OT 専任教員（オムニバス）			国試出題基準	I -2, 1
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	3年～4年	総単位数	4単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修

■ 内 容

作業療法領域における具体的なテーマを設定し、研究計画を立て、それに沿って必要な情報や資料を収集し、整理し、結果を導き出さす。研究の基本手法を実践から学ぶ。その集大成を卒業論文として完成させる。研究の結果を報告する。

■ 到達目標

作業療法における問題を科学的根拠に基づいて解決する姿勢と能力を高める
卒業論文を完成させ、報告できる

■ 授業計画

ゼミ単位で進行する
オリエンテーション
研究テーマの決定 / 先行研究論文の抄読
研究計画書の作成
研究データの収集
収集したデータの整理・解析
結果についての考察
論文作成
報告準備
報告

■ 評価方法

ゼミへの出席率：40% 論文内容：30% 報告姿勢（質疑応答を含む）と内容：30%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

研究の進行に沿って、課題を仕上げ、ゼミではディスカッションによって考えをまとめることが出来るように準備すること

■ 教 科 書

■ 参考図書

■ 留意事項

自らが興味を持って取り組んでいることなので、積極的であってほしい。
研究の大変さと楽しさ、達成感、さらには、作業療法の面白さ、大切さが実感できることを期待する

■ ポリシー該当項目

OT:CP ⑦

授業科目	評価学実習				
担当者	吉田文・橋本卓也（オムニバス）			国試出題基準	I, II, V
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	3 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

1. 実習前学習，臨床実習，終了後のまとめと報告会で構成する
2. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 臨床現場での実習期間：3週間（2月）
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと対象者の作業療法評価を行う

■ 到達目標

1. 作業療法評価の位置づけと過程がわかる
2. 対象者の作業療法評価（情報収集，検査測定，統合と解釈，作業療法プログラムの立案）が出来る
3. 上記を適切に記録できる

■ 授業計画

- 第1回 全体オリエンテーション
- 第2回 実習前課題
- 第3回 実習前課題へのフィードバック
- 第4回 実習前技能演習1
- 第5回 実習前技能演習2
- 第6回 臨床評価学実習（3週間）
- 第7回 臨床評価学実習のまとめ
- 第8回 臨床評価学実習報告会

■ 評価方法

- 実習への取り組み態度（50%）
- 実習事前学習・終了後のまとめへの取り組み態度（25%）
- 提出物と報告内容（25%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回に担当教員および臨床実習指導者の指示に従って，予習復習を行うこと

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

1. 実習は対象者や関係者，実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと
2. 日頃から健康管理に努め，特に臨床実習期間は健康に留意すること
3. 全体を通して，身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合，また，無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①③④⑥

授業科目	総合臨床実習Ⅰ				
担当者	井口知也・橋本卓也（オムニバス）			国試出題基準	I～V
学科名	作業療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	8 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

1. 実習前学習，臨床実習，終了後のまとめと報告会で構成する
2. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 現場での実習期間：9 週間
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと対象者の作業療法を行う

■ 到達目標

1. 作業療法士としての知識・技術・臨床推論・態度など基本的資質を習得できる
2. 指導者の指導のもと，一連の作業療法を実践できる
3. チームにおける作業療法の役割と機能がわかる
4. 義務と責任および倫理観を修得できる

■ 授業計画

- 第1回 全体オリエンテーション
- 第2回 実習前課題
- 第3回 実習前課題へのフィードバック
- 第4回 実習前技能演習1
- 第5回 実習前技能演習2
- 第6回 総合臨床実習（4 週間）
- 第7回 総合臨床実習学内演習（1 週間）
- 第8回 総合臨床実習（4 週間）
- 第9回 総合臨床実習のまとめ
- 第10回 総合臨床実習報告会

■ 評価方法

- 実習への取り組み態度（50%）
- 実習事前学習・終了後のまとめへの取り組み態度（25%）
- 提出物と報告内容（25%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回に担当教員および臨床実習指導者の指示に従って，予習復習を行うこと

■ 教 科 書

■ 参考図書

■ 留意事項

1. 実習は対象者や関係者，実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと
2. 日頃から健康管理に努め，特に臨床実習期間は健康に留意すること
3. 全体を通して，身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合，また，無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①③④⑥

授業科目	総合臨床実習Ⅱ				
担当者	井口知也・橋本卓也（オムニバス）			国試出題基準	I～V
学科名	作業療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	8 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

1. 実習前学習，臨床実習，終了後のまとめと報告会で構成する
2. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 現場での実習期間：9 週間
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと対象者の作業療法を行う

■ 到達目標

1. 作業療法士としての知識・技術・臨床推論・態度など基本的資質を十分習得できる
2. 指導者の指導のもと，一連の作業療法を2 例以上実践できる
3. チームにおける作業療法の役割と機能が十分にわかる
4. 義務と責任および倫理観を修得できる

■ 授業計画

- 第1回 全体オリエンテーション
- 第2回 実習前課題
- 第3回 実習前課題へのフィードバック
- 第4回 実習前技能演習1
- 第5回 実習前技能演習2
- 第6回 総合臨床実習（4 週間）
- 第7回 総合臨床実習学内演習（1 週間）
- 第8回 総合臨床実習（4 週間）
- 第9回 総合臨床実習のまとめ
- 第10回 総合臨床実習報告会

■ 評価方法

- 実習への取り組み態度（50%）
- 実習事前学習・終了後のまとめへの取り組み態度（25%）
- 提出物と報告内容（25%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回に担当教員および臨床実習指導者の指示に従って，予習復習を行うこと

■ 教 科 書

■ 参考図書

■ 留意事項

1. 実習は対象者や関係者，実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと
2. 日頃から健康管理に努め，特に臨床実習期間は健康に留意すること
3. 全体を通して，身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合，また，無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する

■ ポリシー該当項目

OT:CP ①③④⑥